

平成 12 年 度

男女共生社会に向けての市民意識調査

結 果 報 告 書

入 間 市

目 次

調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査の方法	1
3 調査の項目	2
4 回収結果	3
5 回答者の構成	3
6 集計にあたって	6

単純集計結果

単純集計結果	7
--------	---

調査結果の分析

1 男女平等についての考え方や行動について	
1 - 1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について	19
1 - 2 男女の地位の平等観について	22
1 - 3 女の子は女らしく、男の子は男らしくなどの考え方について	29
1 - 4 家事は誰が行っているのかについて	35
1 - 5 仕事と家庭生活のバランスで、男女の望ましい生き方について	37
2 子育てなどについて	
2 - 1 子育ては誰が行っているのかについて	41
2 - 2 子育てに対する行政の支援について	43
2 - 3 男性の育児休業取得について	45
2 - 4 男の子・女の子の望ましい生き方について	49
3 介護について	
3 - 1 介護したことがあるかについて	51
3 - 2 介護の主な担い手が女性になっていることについて	54
3 - 3 男性の介護休業取得について	56

4	仕事や地域活動について	
4 - 1	女性が職業を持つことについて	58
4 - 2	改正男女雇用機会均等法施行後の女性の職場状況について	61
4 - 3	女性が働きやすい環境づくりについて	62
4 - 4	地域活動への参加について	64
5	女性の人権や悩みの相談について	
5 - 1	女性の人権の尊重について	67
5 - 2	配偶者などからの暴力について	69
5 - 3	配偶者などからの暴力に対する相談について	71
6	女性の社会参画について	
6 - 1	女性の意見の反映について	73
6 - 2	女性の社会参画が少ない理由について	77
6 - 3	女性の社会参画により期待することについて	80
7	男女共生社会の実現について	
7 - 1	男女共生社会実現のための市の重点施策について	82
資料1	自由記入意見のまとめ	85
資料2	調査票	95

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、入間市における女性及び男女共生をめぐる社会環境の実態等を総合的にとらえ、今後の女性政策の推進及び「いるま男女共生プラン」見直しのための基礎資料にすることを目的とする。

2 調査の方法

- | | |
|------------|---------------------------------|
| (1) 調査地域 | 入間市全域 |
| (2) 調査対象 | 満 20 歳以上、70 歳未満の男女個人 |
| (3) 母集団 | 入間市住民基本台帳上の満 20 歳以上、70 歳未満の男女個人 |
| (4) 標本数 | 2,000 人 |
| (5) 抽出方法 | 等間隔無作為抽出法 |
| (6) 調査方法 | 郵送による配布・回収 |
| (7) 調査期間 | 平成 12 年 7 月 10 日～ 7 月 24 日 |

3 調査の項目

調査事項	設問 No	調査項目
フェースシート	F 1	性別
	F 2	年齢
	F 3	居住年数
	F 4	家族構成
	F 5	職業
男女平等についての考え方や行動について	問 1	「男は仕事、女は家庭」という考え方について
	問 2	男女の地位の平等観について
	問 3	女の子は女らしく、男の子は男らしくなどの考え方について
	問 4	家事は誰が行っているのかについて
	問 5	仕事と家庭生活のバランスで、男女の望ましい生き方について
子育てなどについて	問 6	子育ては誰が行っているのかについて
	問 7	子育てに対する行政の支援について
	問 8	男性の育児休業取得について
	問 9	男の子・女の子の望ましい生き方について
介護について	問 10	介護をしたことがあるかについて
	問 11	介護の主な担い手が女性になっていることについて
	問 12	男性の介護休業取得について
仕事や地域活動について	問 13	女性が職業を持つことについて
	問 14	改正男女雇用機会均等法施行後の女性の職場状況について
	問 15	女性が働きやすい環境づくりについて
	問 16	地域活動への参加について
女性の人権や悩みの相談について	問 17	女性の人権の尊重について
	問 18	配偶者などからの暴力について
	問 19	配偶者などからの暴力に対する相談について
女性の社会参画について	問 20	女性の意見の反映について
	問 21	女性の社会参画が少ない理由について
	問 22	女性の社会参画により期待することについて
男女共生社会の実現について	問 23	男女共生社会実現のための市の重点施策について
	自由記入	男女共生社会実現のための意見などを把握し、今後の施策の参考とする

* 詳しくは、資料 2 に示した調査票を参照。

4 回収結果

	標 本 数	有効回収数	有効回収率
全 体	2,000	931	46.6%
男 性	1,000	393	39.3%
女 性	1,000	537	53.7%
不 明	-	1	-

5 回答者の構成

< 性・年齢別 >

区 分	実数（人）				構成比（％）			
	全体	男性	女性	不明	全体	男性	女性	不明
20 歳代	133	51	82	0	14.3	5.5	8.8	0.0
30 歳代	156	58	98	0	16.8	6.2	10.5	0.0
40 歳代	177	76	101	0	19.0	8.2	10.8	0.0
50 歳代	207	89	118	0	22.2	9.6	12.7	0.0
60 歳代	257	119	138	0	27.6	12.8	14.8	0.0
不明	1	0	0	1	0.1	0.0	0.0	0.1
計	931	393	537	1	100.0	42.2	57.7	0.1

< 居住年数別 >

区 分	実数（人）	構成比（％）
5 年未満	85	9.1
5 年～10 年未満	176	18.9
10 年～20 年未満	213	22.9
20 年～30 年未満	231	24.8
30 年以上	224	24.1
不明	2	0.2
計	931	100.0

< 家族構成別 >

区 分	実数（人）	構成比（％）
ひとり暮らし	42	4.5
夫婦のみ	191	20.5
親（自分）と未婚の子ども	372	40.0
親と未婚の子ども（自分）	134	14.4
親（自分）と子ども夫婦	45	4.8
親と子ども（自分）夫婦	56	6.0
その他	83	8.9
不明	8	0.9
計	931	100.0

< 職業別 >

区 分	実数 (人)	構成比 (%)
自由業・自営業・家族従事者	98	10.5
勤め人 (正社員・正職員)	322	34.6
勤め人 (臨時・パート・アルバイト)	168	18.0
専業主婦・主夫	207	22.2
学生	19	2.0
無職	99	10.6
その他	12	1.3
不明	6	0.6
計	931	100.0

< 職業別 男性・年齢別 >

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	合計
自由業・自営業・家族従事者	2 3.9	3 5.2	12 15.8	13 14.6	17 14.3	47 12.0
勤め人 (正社員・正職員)	32 62.7	48 82.8	60 78.9	69 77.5	22 18.5	231 58.8
勤め人 (臨時・パート・アルバイト)	4 7.8	3 5.2	1 1.3	3 3.4	22 18.5	33 8.4
専業主婦・主夫	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.1	1 0.8	2 0.5
学生	9 17.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 2.3
無職	4 7.8	3 5.2	2 2.6	2 2.2	52 43.7	63 16.0
その他	0 0.0	1 1.7	1 1.3	1 1.1	5 4.2	8 2.0
不明	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
計	51 100.0	58 100.0	76 100.0	89 100.0	119 100.0	393 100.0

* 上段は実数 (人)、下段は各年代における構成比 (%)

<職業別 女性・年齢別>

区 分	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	合計
自由業・自営業・家族従事者	4 4.9	11 11.2	6 5.9	12 10.2	18 13.0	51 9.5
勤め人（正社員・正職員）	35 42.7	21 21.4	19 18.8	11 9.3	5 3.6	91 16.9
勤め人（臨時・パート・アルバイト）	14 17.1	25 25.5	39 38.6	41 34.7	16 11.6	135 25.1
専業主婦・主夫	14 17.1	38 38.8	36 35.6	47 39.8	70 50.7	205 38.2
学生	9 11.0	1 1.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 1.9
無職	4 4.9	1 1.0	0 0.0	5 4.2	26 18.8	36 6.7
その他	0 0.0	1 1.0	1 1.0	1 0.8	1 0.7	4 0.7
不明	2 2.4	0 0.0	0 0.0	1 0.8	2 1.4	5 0.9
計	82 100.0	98 100.0	101 100.0	118 100.0	138 100.0	537 100.0

* 上段は実数（人）、下段は各年代における構成比（%）

6 集計にあたって

(1) 回答率について

回答は、質問ごとに各項目の回答者数を回答者総数で除し、百分率（パーセント）で表示した。算出された回答率は、小数点第二位を四捨五入し、小数点第一位まで表示している。

質問によっては、一人の回答者が一つだけ回答する（単数回答）場合でも、回答率の合計が100%にならないものもある。

また、一人の回答者が二つ以上の回答をしてもよい質問（複数回答）では、回答率の合計は100%を上回ることになる。

(2) 標本誤差について

集計した数値は、抽出による住民の一部の調査であるため、20歳以上、70歳未満の全市民を調査した結果にそのまま置き換えることはできない。

統計学的には、次式により標本誤差を計算する（信頼度95%）。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数（全体 104,365、男性 52,973、女性 51,392）

n = 比率算出の基数（全体 931、男性 393、女性 537）

P = 回答率

< 今回の調査の標本誤差早見表 >

回答率	標本誤差		
	全体	男性	女性
10%または90%	±1.9%	±3.0%	±2.6%
20%または80%	±2.6%	±4.0%	±3.4%
30%または70%	±3.0%	±4.6%	±3.9%
40%または60%	±3.2%	±4.9%	±4.2%
50%	±3.2%	±5.0%	±4.3%

单纯集計結果

単純集計結果

構成比(%)を示す。太字は最も回答率の高いもの。

男女平等についての考え方や行動についておたずねします。

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこのような考え方をどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。

	全体	男性	女性
1. そのとおりだと思う	4.4	5.1	3.9
2. どちらかといえばそう思う	36.9	42.0	33.3
3. どちらかといえばそう思わない	19.9	19.3	20.3
4. そうは思わない	36.3	31.0	40.0
5. その他	1.9	1.8	2.0
無回答	0.5	0.8	0.4

問2 あなたは、次の分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。ア～カの項目ごとに、1つずつ選んでください。

項目	性別	男性が優遇	やや優遇 やや男性が	平等になる	やや優遇 やや女性が	女性が優遇	わからない	無回答
ア. 家庭生活では	全体	21.2	42.0	19.4	6.0	3.0	3.3	5.0
	男性	15.8	45.8	22.9	5.6	2.3	3.6	4.1
	女性	25.1	39.3	16.9	6.3	3.5	3.2	5.6
イ. 教育の場では	全体	4.0	17.5	59.1	4.1	1.6	8.6	5.2
	男性	1.5	14.5	67.4	4.6	1.3	7.1	3.6
	女性	5.8	19.7	52.9	3.7	1.9	9.7	6.3
ウ. 職場では	全体	38.1	36.3	9.6	3.7	1.1	6.1	5.2
	男性	29.8	40.7	14.5	4.6	1.5	5.1	3.8
	女性	44.3	33.1	6.0	3.0	0.7	6.9	6.0
エ. しきたりや慣習では	全体	37.8	38.6	7.9	2.5	1.0	6.8	5.5
	男性	30.0	43.0	11.7	2.8	1.0	7.1	4.3
	女性	43.6	35.4	5.2	2.2	0.9	6.5	6.1
オ. 法律や制度では	全体	14.2	31.3	32.4	4.8	1.6	10.8	4.8
	男性	7.1	26.2	45.0	7.6	3.1	8.1	2.8
	女性	19.4	35.0	23.3	2.8	0.6	12.8	6.1
カ. 地域では	全体	13.6	31.4	23.5	3.8	0.9	20.9	5.9
	男性	8.1	33.6	31.0	3.3	1.3	18.1	4.6
	女性	17.7	29.8	18.1	4.1	0.6	23.1	6.7

問3 あなたは、次のような考え方についてどのように思いますか。ア～カの項目ごとに、1つずつ選んでください。

項目	性別	だ その と 思 う	そ の と お り	思 い え ば そ う	ど ち ら か と	思 わ な い	い え ば そ う	ど ち ら か と	な い そ う は 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
ア．女の子は女らしく、 男の子は男らしく育 てたほうがよい	全体	36.6	35.4	8.3	14.4	1.6	3.7				
	男性	51.1	32.6	4.1	8.1	1.5	2.5				
	女性	26.1	37.6	11.4	19.0	1.7	4.3				
イ．子育ては、やはり母 親でなくては	全体	13.6	37.7	11.7	31.6	1.0	4.4				
	男性	15.8	41.7	10.7	27.5	0.8	3.6				
	女性	11.9	34.8	12.5	34.6	1.1	5.0				
ウ．男性は家事には向い ていない	全体	6.1	20.7	14.3	51.3	2.4	5.2				
	男性	7.4	27.5	14.2	45.0	1.8	4.1				
	女性	5.2	15.8	14.3	56.1	2.8	5.8				
エ．女性は責任のある仕 事には向いていない	全体	2.9	10.5	17.3	62.6	1.4	5.3				
	男性	2.8	13.5	17.8	60.1	1.8	4.1				
	女性	3.0	8.4	16.9	64.6	1.1	6.0				
オ．自治体などの団体の 代表は、男性がなっ た方がうまくいく	全体	11.5	27.7	12.0	38.8	5.0	4.9				
	男性	7.9	26.2	13.5	45.3	3.6	3.6				
	女性	14.2	28.9	11.0	34.1	6.1	5.8				
カ．子どもの数や産む時 期を決めるにあたっ て、女性の主体的な 意見を尊重した方が よい	全体	35.9	32.0	4.8	12.6	9.3	5.4				
	男性	38.4	30.0	5.9	13.2	8.1	4.3				
	女性	34.1	33.5	4.1	12.1	10.2	6.0				

問4 あなたの家庭では、家事は主にどなたが中心となって行っていますか。1つ選んでください。

	全 体	男 性	女 性
1．自分	42.8	8.4	77.5
2．配偶者	29.8	68.4	1.5
3．母親	15.9	17.6	14.5
4．父親	1.3	2.0	0.7
5．息子	0.0	0.0	0.0
6．息子の妻	1.6	1.0	2.0
7．娘	0.6	0.3	0.9
8．娘の夫	0.0	0.0	0.0
9．その他	2.0	1.8	2.2
無回答	0.5	0.5	0.6

問5 仕事と家庭生活のバランスについて、男性・女性の生き方としてあなたが望ましいと思うのはどのような生き方でしょうか。男性の生き方・女性の生き方それぞれについて、1つずつ選んでください。

項目	性別	男性の生き方	女性の生き方
1. 家庭生活よりも、「仕事に専念」する	全体	4.1	0.0
	男性	4.8	0.0
	女性	3.5	0.0
2. 家庭生活にも携わるが、「あくまで仕事を優先」する	全体	50.5	2.0
	男性	55.0	1.5
	女性	47.3	2.4
3. 家庭生活と仕事を「同じように両立」させる	全体	30.8	26.6
	男性	31.6	18.6
	女性	30.4	32.6
4. 仕事にも携わるが、「あくまで家庭生活を優先」する	全体	4.9	51.7
	男性	6.4	49.4
	女性	3.9	53.4
5. 仕事よりも、「家庭生活に専念」する	全体	0.6	8.1
	男性	1.0	8.4
	女性	0.4	7.8
6. わからない	全体	1.3	1.8
	男性	0.5	1.3
	女性	1.9	2.2
無回答	全体	7.7	9.8
	男性	0.8	20.9
	女性	12.7	1.5

子育てなどについておたずねします。

問6 あなたの家庭では、子育ては主にどなたが中心となって行っていますか。1つ選んでください。

	全体	男性	女性
1. 子どもの母親	69.9	66.2	72.6
2. 子どもの父親	1.4	1.8	1.1
3. 子どもの祖母	1.0	0.5	1.3
4. 子どもの祖父	0.0	0.0	0.0
5. 子どもはいない	18.8	21.4	16.9
6. その他	7.3	8.1	6.7
無回答	1.6	2.0	1.3

問7 あなたは、子育てに対する行政の支援としてどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたが特に重要だと思うものを2つ以内で選んでください。

	全体	男性	女性
1. 子育て教室や講座を開く	4.4	6.1	3.2
2. 子育ての悩みを相談できる場所を設ける	34.8	36.1	33.9
3. 親同士の交流や仲間づくりの場や機会を提供する	23.7	23.4	24.0
4. 子どもの遊び場を提供する	18.0	17.6	18.4
5. 子ども連れでも利用しやすい建物や施設を整備する	29.0	26.2	31.1
6. 一時的に子どもを預かってくれるようなシステムを整備する	18.9	15.3	21.6
7. 保育所や学童保育を充実する	28.0	27.5	28.3
8. 子育てについての情報を提供する	6.9	7.9	6.1
9. 地域で子育てを支援する意識をつくる	19.1	18.8	19.4
10. 特に必要ない	2.1	3.1	1.5
11. その他	3.4	3.3	3.5
無回答	0.5	0.5	0.6

問8 現在の法律では、男性も育児休業を女性と同様に取得できるようになっていますが、男性の取得について、あなたはどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。

	全体	男性	女性
1. 取得すべきだと思う	32.3	30.5	33.7
2. どちらかといえば取得した方がよいと思う	37.8	36.1	39.1
3. どちらかといえば取得しない方がよいと思う	12.4	15.0	10.2
4. 取得すべきではないと思う	3.7	3.8	3.5
5. わからない	9.3	8.7	9.9
6. その他	4.0	5.3	3.0
無回答	0.5	0.5	0.6

問9 あなたは、お子さんにどのような生き方をしてほしいと思いますか。男の子・女の子のそれぞれについて、2つ以内で選んでください。お子さんがいない方も、いると仮定してお答えください。

<男の子の場合>

	全体	男性	女性
1. 社会的な地位や名声を得る	1.5	1.5	1.5
2. 経済的に豊かな生活をする	20.0	20.4	19.7
3. 家族や周囲の人たちと仲良く暮らす	43.5	41.0	45.4
4. 社会の役に立つことをする	23.6	28.5	20.1
5. 本人の個性や能力を生かした生活をする	58.6	59.5	58.1
6. 本人の意思にまかせる	30.2	25.7	33.3
7. わからない	0.8	1.3	0.4
8. その他	1.0	1.3	0.7
無回答	2.4	1.5	3.0

<女の子の場合>

	全体	男性	女性
1. 社会的な地位や名声を得る	0.3	0.3	0.4
2. 経済的に豊かな生活をする	13.3	11.7	14.5
3. 家族や周囲の人たちと仲良く暮らす	67.0	62.8	70.0
4. 社会の役に立つことをする	15.3	18.3	13.0
5. 本人の個性や能力を生かした生活をする	47.4	46.1	48.4
6. 本人の意思にまかせる	29.8	27.0	31.8
7. わからない	0.6	1.0	0.4
8. その他	1.0	0.8	1.1
無回答	4.7	7.1	3.0

介護についておたずねします。

問10 あなたはこれまでに介護をしたことがありますか。あるいは現在していますか。
次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

	全体	男性	女性
1. 自分の親を介護した(している)	14.0	11.2	16.0
2. 配偶者の親を介護した(している)	9.0	3.6	13.0
3. 配偶者を介護した(している)	2.4	1.0	3.2
4. 自分の子どもを介護した(している)	1.3	0.8	1.7
5. 介護をしたことはない	71.8	79.6	66.1
6. その他	5.3	3.8	6.3
無回答	0.5	1.0	0.2

問11 病人や高齢者などの介護は、女性(母、妻、息子の妻、娘)が主な担い手となっているケースが多いのが現状ですが、あなたは、これについてどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。

	全体	男性	女性
1. 当然だと思う	2.6	1.5	3.4
2. 現実にはやむを得ないと思う	69.9	78.1	63.9
3. おかしいと思う	22.0	15.0	27.2
4. わからない	2.8	2.0	3.4
5. その他	2.5	3.3	1.9
無回答	0.2	0.0	0.4

問12 現在の法律では、男性も介護休業を女性と同様に取得できるようになっていますが、男性の取得について、あなたはどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。

	全体	男性	女性
1. 取得すべきだと思う	45.6	40.7	49.3
2. どちらかといえば取得した方がよいと思う	38.9	38.4	39.3
3. どちらかといえば取得しない方がよいと思う	5.4	8.1	3.4
4. 取得すべきではないと思う	0.9	1.3	0.6
5. わからない	5.8	6.4	5.2
6. その他	3.1	4.6	2.0
無回答	0.3	0.5	0.2

仕事や地域活動についておたずねします。

問13 あなたは、女性が職業を持つことについてどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。

	全体	男性	女性
1. 結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい	23.3	22.4	24.0
2. 子育ての時期だけは一時やめて、その前後は職業を持つ方がよい	50.9	48.9	52.3
3. 出産するまでは職業を持ち、出産したらやめた方がよい	12.6	16.5	9.7
4. 結婚するまでは職業を持ち、結婚したらやめた方がよい	4.2	4.3	4.1
5. 女性は一生職業を持たない方がよい	0.5	0.5	0.6
6. わからない	3.7	3.1	4.1
7. その他	4.6	3.8	5.2
無回答	0.2	0.5	0.0

問14 現在、仕事をしている方におたずねします。平成11年4月1日、改正男女雇用機会均等法が全面施行されました。あなたの職場では、現在、女性に対して次のようなことはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

	全体	男性	女性
1. 男性に比べて女性の採用が少ない	26.4	36.9	14.0
2. 職務内容に男女差がある(女性は補助的な仕事が多いなど)	30.8	34.3	26.7
3. 女性は同期・同年齢で入社した男性よりも昇進・昇格が遅い	24.8	26.1	23.3
4. 女性は同期・同年齢で入社した男性よりも賃金が低い	22.5	19.9	25.6
5. 女性は同じポストの男性より教育・研修の機会が少ない	10.1	11.4	8.5
6. 女性は結婚や出産で退職するという習慣がある	17.7	18.0	17.4
7. 中高年の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある	9.2	5.9	13.2
8. 女性を幹部職員に登用しない	16.6	17.6	15.5
9. 特にない	31.0	24.8	38.0
10. その他	7.1	7.2	7.0

* 計から無回答を除いたものを基数として構成比を算出した。

問 15 女性が働きやすい環境をつくるうえで、あなたは、今後どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたが特に重要だと思うものを3つ以内で選んでください。

	全体	男性	女性
1. 労働時間の短縮やフレックスタイム制（自由勤務時間制）の導入を進める	45.8	44.8	46.6
2. 職務内容や昇進・昇格などで男女平等を進める	20.4	22.4	19.0
3. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）のない職場づくりを進める	14.6	14.2	14.9
4. 育児休業制度や介護休業制度の定着を進める	51.3	48.1	53.8
5. 再雇用制度を促進する	27.4	28.2	26.6
6. 男性も家事や地域活動などを分担する	21.5	19.8	22.7
7. 女性が働くことへの理解を進める	23.7	23.2	24.0
8. 保育所や学童保育などの子育て環境の充実を図る	43.2	45.3	41.7
9. 求人情報の提供や女性が働ける新しい職場、職域の開発を進める	19.9	19.8	19.9
10. 再就職のための講座や技能訓練などを充実する	14.2	12.7	15.1
11. 特に必要ない	1.8	1.5	2.0
12. その他	1.4	1.8	1.1
無回答	0.6	0.3	0.9

問 16 あなたは、現在、どのような地域活動をしていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

	全体	男性	女性
1. 自治会などの活動	17.8	21.6	14.9
2. 婦人会・青年会・老人会などの活動	3.7	2.0	4.8
3. P T A ・子ども会などの活動	8.6	2.5	13.0
4. 福祉に関する活動	4.9	4.1	5.6
5. 環境保全・リサイクルなどに関する活動	3.7	1.8	5.0
6. 消費生活に関する活動	1.1	0.3	1.7
7. 国際交流・協力に関する活動	1.6	1.0	2.0
8. 趣味・学習・スポーツに関する活動	26.3	20.4	30.7
9. 特に活動していない	52.5	59.3	47.7
10. その他	1.3	1.8	0.9
無回答	0.9	0.8	0.9

女性の人権や悩みの相談などについておたずねします。

問 17 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

	全体	男性	女性
1. 売春・買春・女性が働く風俗営業	31.6	25.7	35.9
2. 家庭内での夫から妻への暴力(酒に酔って殴るなど)	40.6	39.2	41.7
3. 職場などでのセクハラ(性的いやがらせ)	41.2	35.1	45.8
4. 女性のヌード写真などを掲載した雑誌など	20.6	15.0	24.8
5. 女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など	24.7	21.6	27.0
6. 女性の容ぼうなどを競うミス・コンテスト	6.8	5.6	7.6
7. 「女流」「女史」のように女性だけに用いられる言葉	6.8	7.6	6.1
8. 女性に対するストーカー(つきまとい行為)	39.0	38.4	39.5
9. 痴漢行為	47.8	40.7	53.1
10. 特にない	12.8	15.0	11.0
11. その他	2.0	3.3	1.1
無回答	3.4	5.1	2.2

問 18 あなたはこれまでに、配偶者やパートナーなどから次のようなことをされたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

	全体	男性	女性
1. あなたが何を言っても無視する	7.5	6.4	8.4
2. あなたの交友関係や電話などを細かく監視する	4.0	3.3	4.5
3. あなたの大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする	2.1	2.5	1.9
4. あなたに「だれのおかげで、食べられるんだ」などと言う	6.0	1.8	9.1
5. あなたに身体を傷つける可能性のある物を投げつける	2.4	1.0	3.4
6. あなたを蹴ったり、かんだり、殴ったりする	3.2	1.8	4.3
7. あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌などを見せる	0.5	0.5	0.6
8. おどしや暴力などによって、意に反して性的な行為を強要する	1.4	1.0	1.7
9. 特にない	77.9	79.6	76.5
10. その他	0.9	0.5	1.1
無回答	4.6	7.9	2.2

問 19 あなたは配偶者やパートナーなどからの暴力（言葉による暴力等も含む）を受けたことについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

	全体	男性	女性
1．家族に相談した	5.5	1.5	8.4
2．友人・知人に相談した	8.5	4.1	11.7
3．医師・カウンセラーに相談した	0.4	0.0	0.7
4．弁護士に相談した	0.0	0.0	0.0
5．公的な相談機関に相談した	0.6	0.3	0.9
6．相談しなかった	8.4	10.4	6.9
7．暴力を受けたことがない	69.1	70.7	67.8
8．その他	1.9	2.8	1.3
無回答	9.1	10.9	7.8

女性の社会参画についておたずねします。

問 20 あなたは、政策の企画・立案や方針決定の過程で女性の意見をもっと反映する必要があると思いますか。次の中から1つ選んでください。

	全体	男性	女性
1．必要だと思う	62.2	57.0	66.1
2．どちらかといえば必要だと思う	27.2	29.8	25.3
3．どちらかといえば必要ないと思う	1.3	2.3	0.4
4．必要ないと思う	1.0	0.8	1.1
5．わからない	7.3	7.9	6.9
無回答	1.1	2.3	0.2

問 21 あなたは、「リーダー」「～長」という立場や、政策の企画・立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

	全体	男性	女性
1. 家庭、職場、地域での重要な役割を男性が務める習慣になっている	45.4	41.5	48.4
2. 男性優位・女性軽視の組織運営になっている	30.4	26.2	33.5
3. 家事・育児・介護などを主に女性が担っているため、役職などを務めることは困難である	53.3	46.6	58.3
4. 家族や周囲の理解や協力が得られない	21.9	17.6	25.1
5. 子どもの頃から、女性にはリーダーとなる訓練の機会が少ない	14.0	14.8	13.4
6. 女性の活動を支援するネットワークが不足している	15.5	11.7	18.2
7. 女性側の積極性が十分でない	33.3	35.4	31.7
8. 女性の参画が大切であることを意識している人が少ない	31.9	31.8	32.0
9. わからない	5.8	5.1	6.3
10. その他	1.7	3.3	0.6
無回答	1.3	2.0	0.7

問 22 あなたは、今後、政策決定の場などに女性の参画が増えていくことで、どんなことを期待しますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

	全体	男性	女性
1. 男性中心の習慣や慣習に変化が生じる	38.8	36.6	40.4
2. 心豊かな、ゆとりある社会になっていく	33.0	29.3	35.6
3. 男女平等や男女共生に関する施策が推進される	36.5	32.8	39.3
4. 生活に身近な視点からの要望が、行政などに反映される	64.8	62.1	66.9
5. 何も期待しない	3.8	3.8	3.7
6. わからない	4.9	5.3	4.7
7. その他	1.1	2.0	0.4
無回答	1.4	2.0	0.9

男女共生社会の実現のための施策についておたずねします。

問 23 あなたは、男女が共にいきいき暮らせる「男女共生社会の実現」をめざすために、今後、市ではどのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から特に重要だと思うものを3つ以内で選んでください。

	全体	男性	女性
1. 女性が働きやすい労働環境の整備を働きかける	50.5	49.4	51.2
2. 労働時間の短縮などを働きかける	19.1	21.4	17.5
3. 男性が地域活動などへ参加しやすい環境づくりを進める	19.1	19.8	18.6
4. 地域活動などでの女性リーダーを養成する	10.0	11.7	8.8
5. 女性を政策立案、方針決定の場へ積極的に登用する	33.3	36.9	30.7
6. 学校で男女平等教育を進める	13.2	12.5	13.6
7. 生涯学習などで男女平等について学ぶ機会を充実する	11.4	9.9	12.5
8. 男女平等についての情報提供や啓発活動を行う	7.9	9.7	6.7
9. 保育の施設・サービスを充実する	28.9	27.7	29.8
10. 高齢者等の介護・福祉サービスを充実する	42.7	36.4	47.3
11. 健康管理体制を充実する	9.8	8.1	11.0
12. 家庭内のことなどを気軽に相談できる窓口を設ける	12.7	12.7	12.7
13. 女性の自主的な活動を支援する拠点施設を設ける	14.0	13.2	14.5
14. 特にない	2.9	3.6	2.4
15. その他	1.2	2.3	0.4
無回答	0.2	0.3	0.2

調査結果の分析

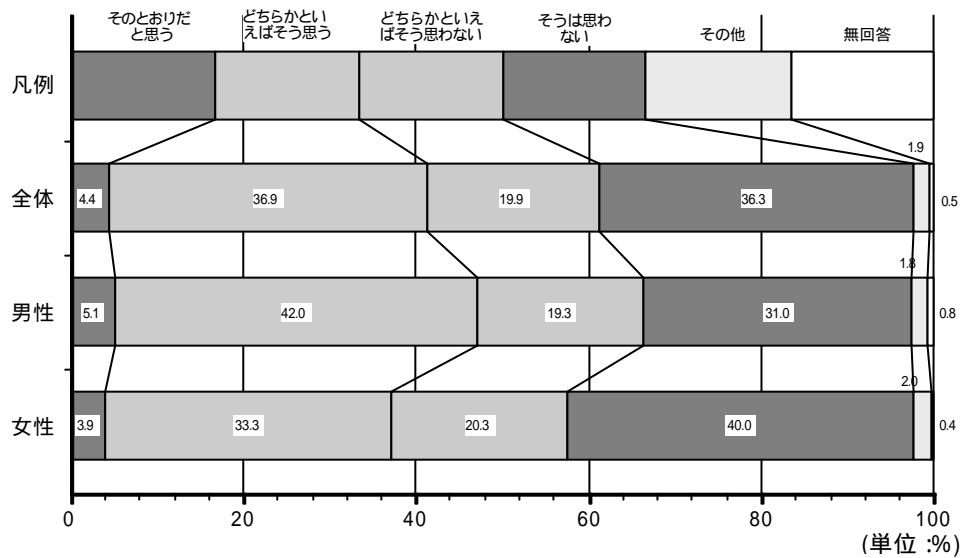
1 男女平等についての考え方や行動について

1 - 1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

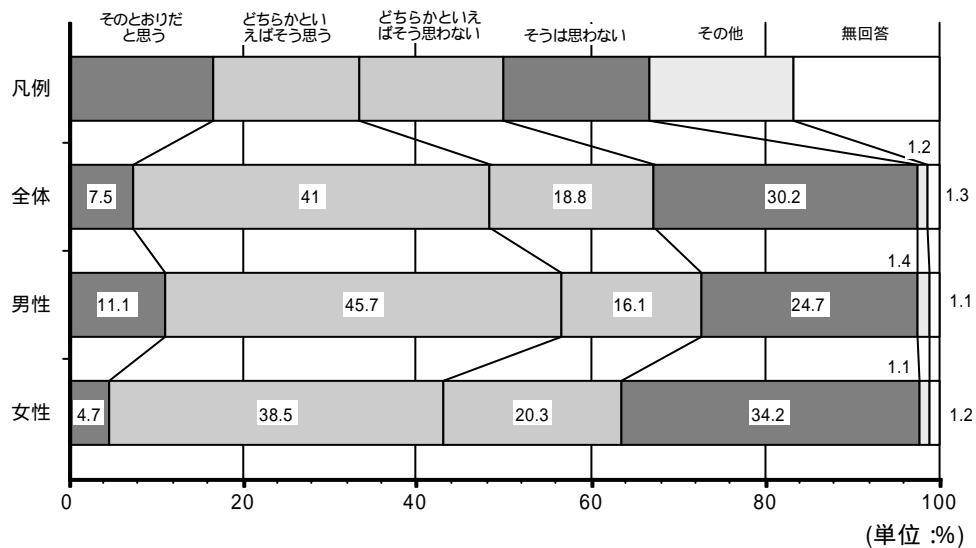
問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこのような考え方をどのように思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

「男は仕事、女は家庭」という考え方が、薄れつつある。

<全体 平成12年>



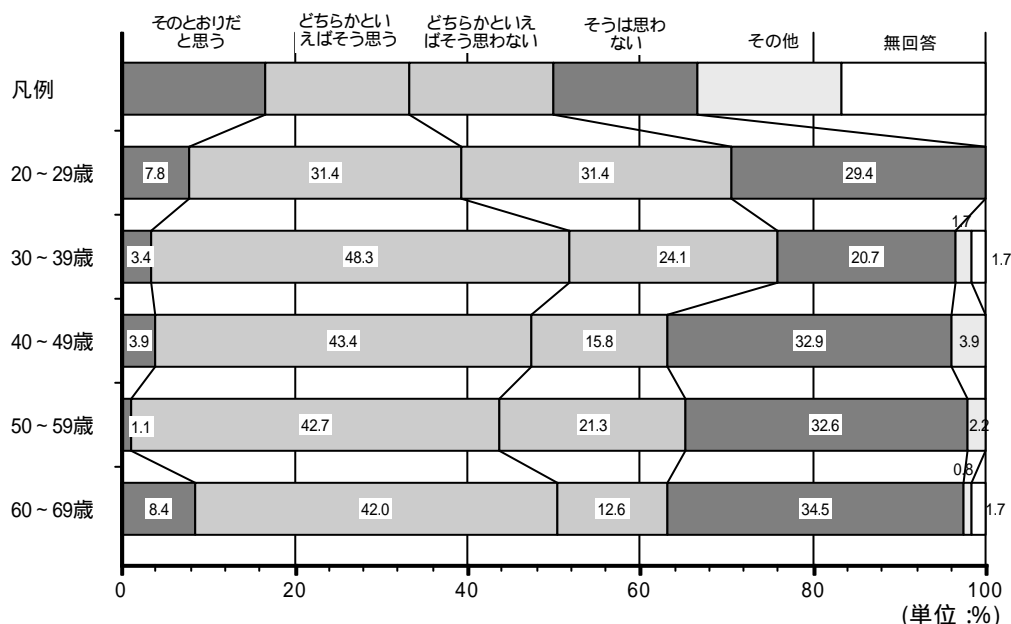
<全体 平成7年>



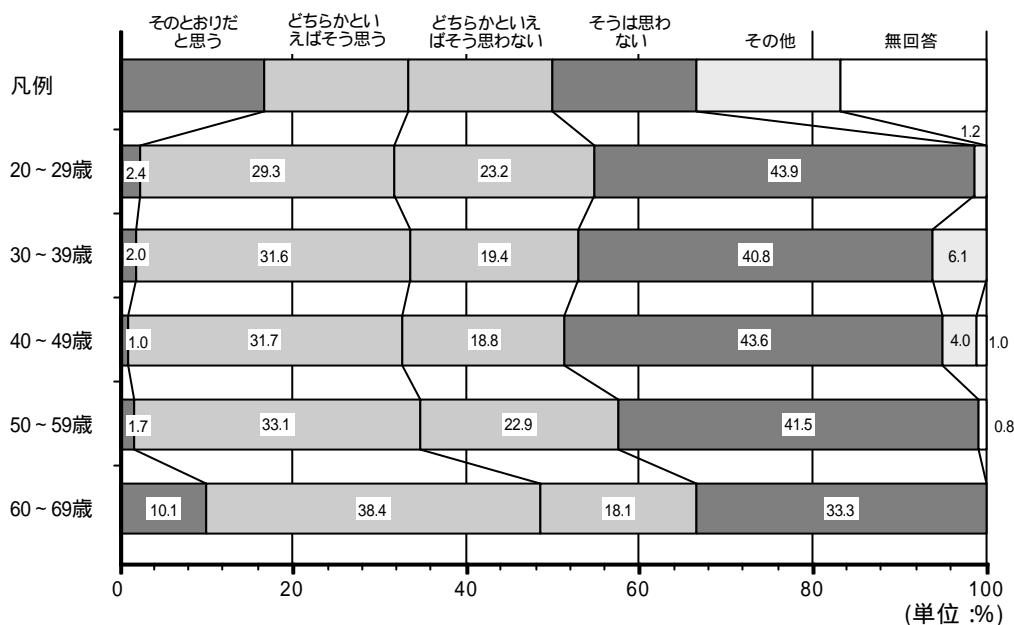
「男は仕事、女は家庭」という性別による役割分担については、「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定派が41.3%であるのに対し、「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた否定派が56.2%と上回る。平成7年度調査では肯定派が48.5%、否定派が49.0%とほぼ拮抗していたのに比べ、否定派が増加している点が注目される。男女共生社会実現の障壁となってきた「男は仕事、女は家庭」という考え方が、徐々にではあるが薄れつつある様子が見えてくる。

男女別にみると、男性は肯定派が47.1%、否定派が50.3%、女性は肯定派が37.2%、否定派が60.3%と、どちらも否定派が肯定派を上回る。特に、男性は平成7年度調査において、肯定派が過半を占めていたことを考えると、意識が変化しつつあることが見て取れる。しかし、肯定派、否定派の割合に、男女間で10ポイント程度の差がある。平成7年度調査の約14ポイントに比べ縮まってはいるものの、性別による意識の違いが依然としてみられる。

<男性 年齢別>



< 女性 年齢別 >



男女・年齢別にみると、女性は年齢が高くなるにしたがって肯定派が多くなるが、男性はその傾向が顕著ではない。男性は、30歳代と60歳代では肯定派が過半を占めるなど、役割分担意識が根強い。

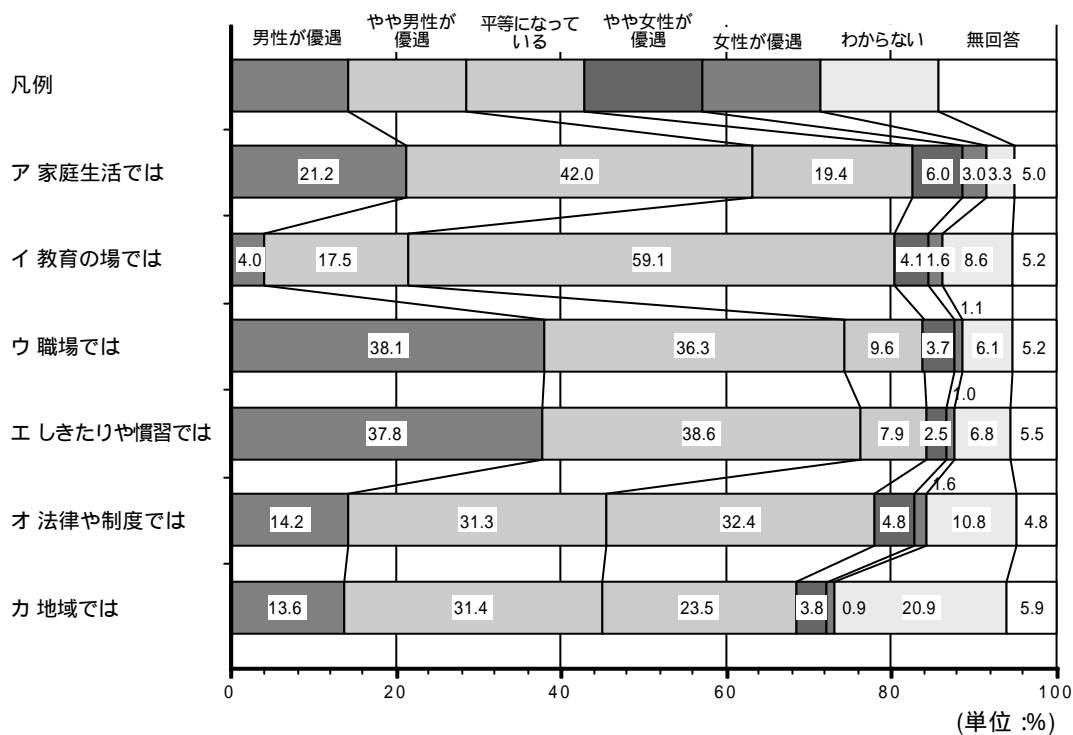
男女ともに60歳代で肯定派が多数を占めるのは、長い間かけて形成された意識はそう簡単には変えられないことを表わしている。しかし、男性50歳代で否定派が多いことや、男性20歳代では「そのとおりだと思う」とする割合が高いが、30歳代では少ないことなどから、職場や家庭での生活を通じて意識は変化すると考えられる。

1 - 2 男女の地位の平等観について

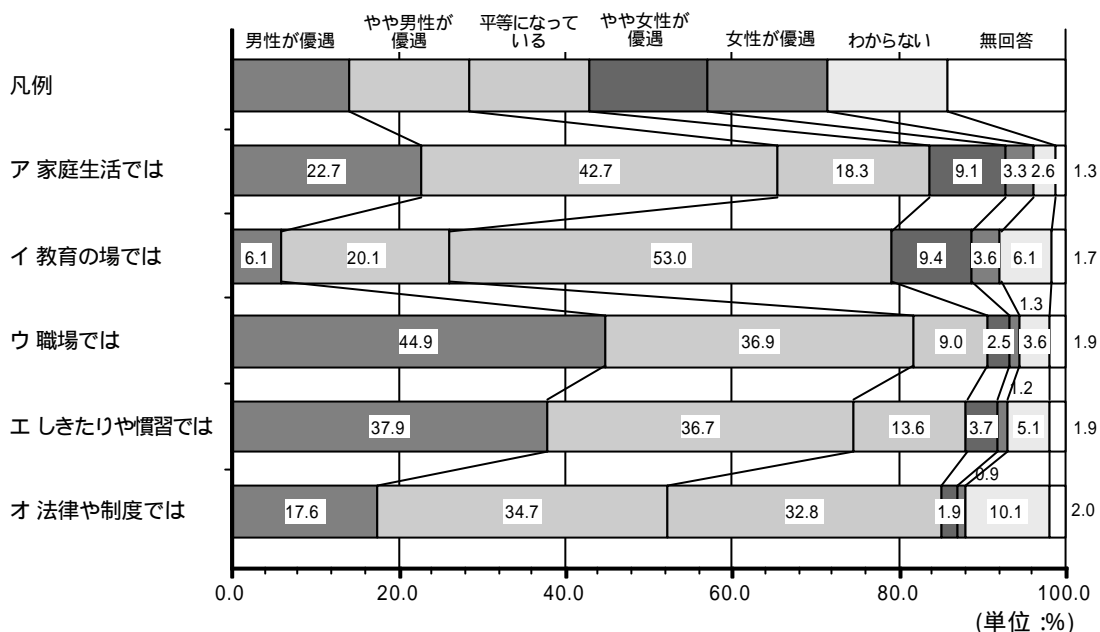
問2 あなたは、次の分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。ア～カの項目ごとに、1つずつ選んでください。

「平等になっている」とした割合は、「職場では」や「しきたりや慣習では」で非常に低い。

<全体 平成12年>



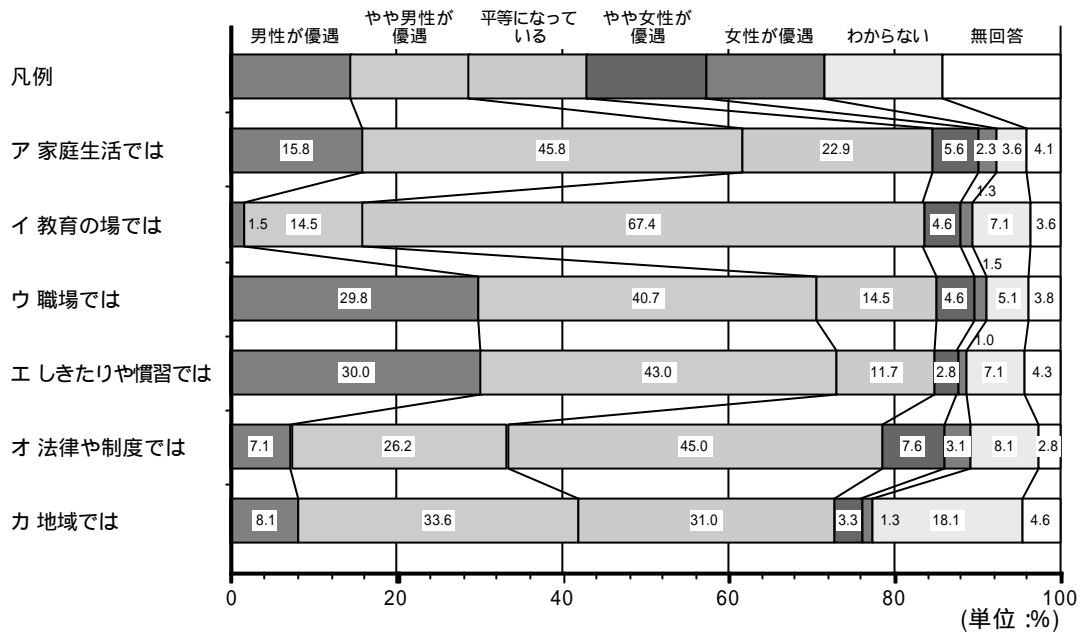
<全体 平成7年>



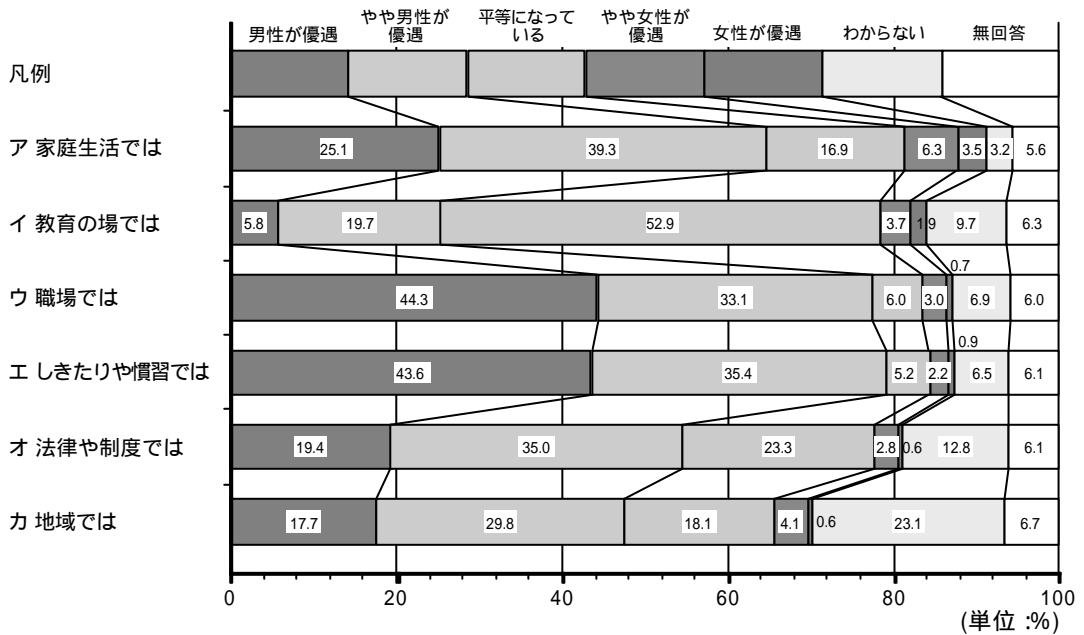
5つの項目のうち、「平等になっている」とした割合が最も高いのは「教育の場では」(59.1%)であり、過半数が平等と感じている。次いで「法律や制度では」(32.4%)、「地域では」(23.5%)の順である。「職場では」(9.6%)、「しきたりや習慣では」(7.9%)は、平等と感じている人の割合が非常に低い。平成7年度調査と比較すると、この順位、比率は、「しきたりや習慣では」の割合が13.6%から大きく低下したことを除くと、あまり変わっていない。

男女どちらとも「平等になっている」とした割合が最も高い項目は「教育の場では」であり、最も低いのは「しきたりや習慣では」と、男女で順位は同じである。また、「教育の場では」は過半数が平等と感じ、「職場では」や「しきたりや習慣では」が非常に低いという傾向も同様である。しかし、いずれの項目においても、「平等になっている」とした割合は、女性が男性を下回っている。その分女性は「男性が優遇」「やや男性が優遇」とする割合が高く、女性には男性が優遇されているとの意識が強い。この傾向も、平成7年度調査とあまり変化はない。

< 男性 >



< 女性 >



「家庭生活では」は、「平等となっている」とした人は19.4%にすぎず、「男性が優遇」「やや男性が優遇」とした割合は6割を超えている。これは、平成7年度調査とほぼ同じ結果である。男女別にみると、「平等になっている」とした割合は、男性22.9%対し女性16.9%であり、女性が6ポイント低い。逆に「男性が優遇」「やや男性が優遇」としたのは、女性が多い。平成7年度調査に比べて差は縮まりつつあるものの、女性は依然として男性優遇との意識を強く持っている。

「教育の場では」は、男女とも「平等になっている」が過半を占める。特に、男性では67.4%が「平等になっている」と答えている。これに対し、女性は52.9%にとどまり、その差は約15ポイントと大きい。平成7年度調査と全体的な傾向は変わらないものの、男女間の差はやや広がっている。

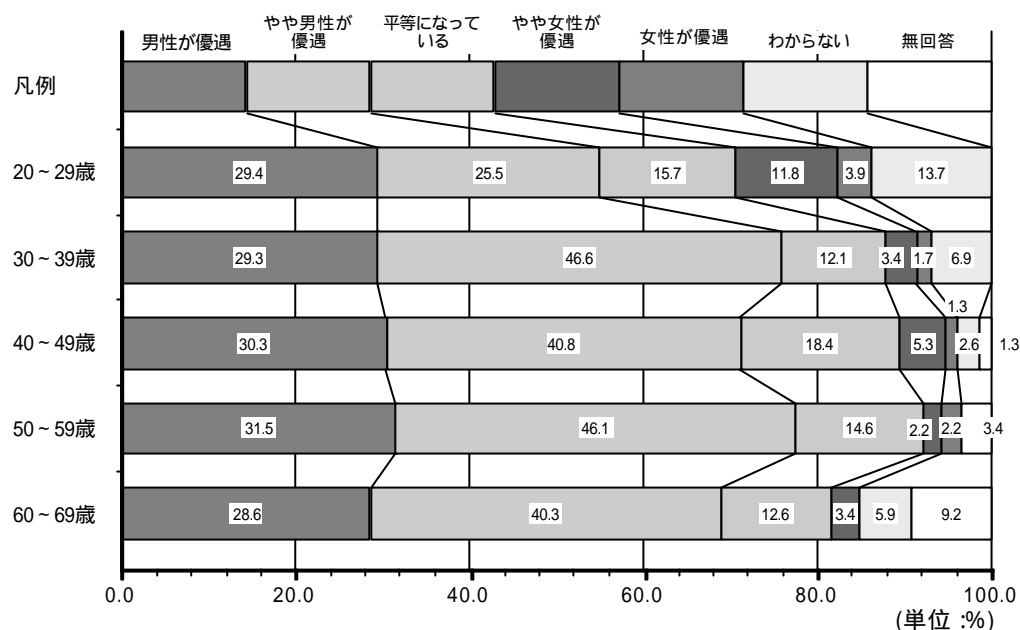
「職場では」は、「平等になっている」とした割合は9.6%にすぎず、「男性が優遇」(38.1%)、「やや男性が優遇」(36.3%)の割合が高い。特に、女性では「平等になっている」は6%しかなく、「男性が優遇」は4割を超える。平成7年度調査と比較し、男性優遇の傾向が弱まりつつあるものの、そう感じている割合は依然として高い。

「しきたりや習慣では」は、「平等になっている」とした割合が7.9%と最も低い。「男性が優遇」「やや男性が優遇」が合わせて8割近くを占める。この項目でも男女間に差があり、女性の方がより強く男性優遇と感じている。平成7年度調査と比較すると、「平等になっている」の割合が男女ともに低下している。

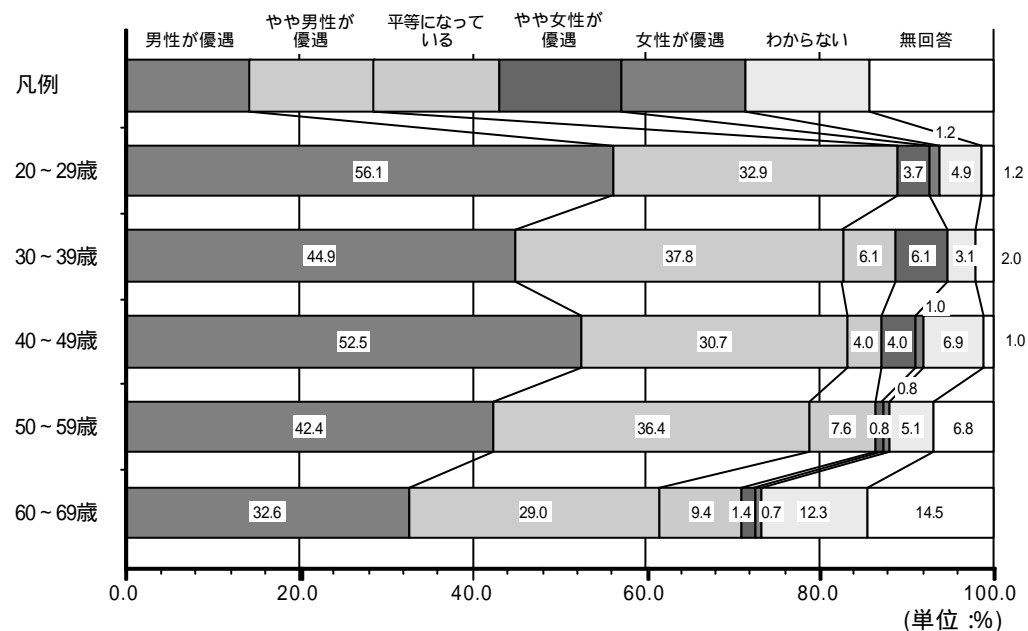
「法律や制度では」は、「平等になっている」とした割合は32.4%と比較的高いものの、「男性が優遇」「やや男性が優遇」が合わせて45.5%と上回り、男性優遇と感じている人が多い。また、「平等になっている」と答えた人は、男性45.0%に対し女性23.3%と、男女間で約22ポイントの差がある。この項目は、男性優遇との意識を女性の方が非常に強く持っている。この傾向は、男女共同参画社会基本法が制定・施行された現在でも、平成7年度調査と比べて変わっていない。

「地域では」は、今回の調査で追加された項目である。「平等になっている」(23.5%)に対し、「男性が優遇」「やや男性が優遇」(合わせて45.0%)の方が割合が高く、男性優遇と感じている人が多い。また、男女の差は比較的大きく、女性の方がより強く男性優遇と感じているようである。

<ウ 職場では 男性 年齢別>

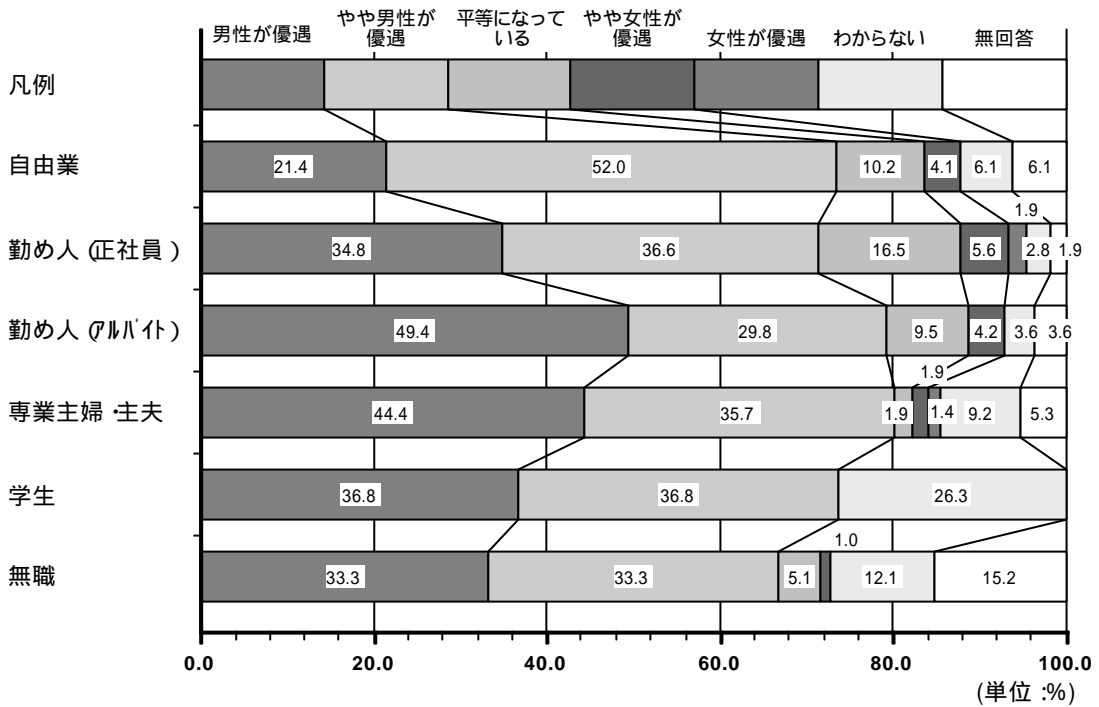


<ウ 職場では 女性 年齢別>



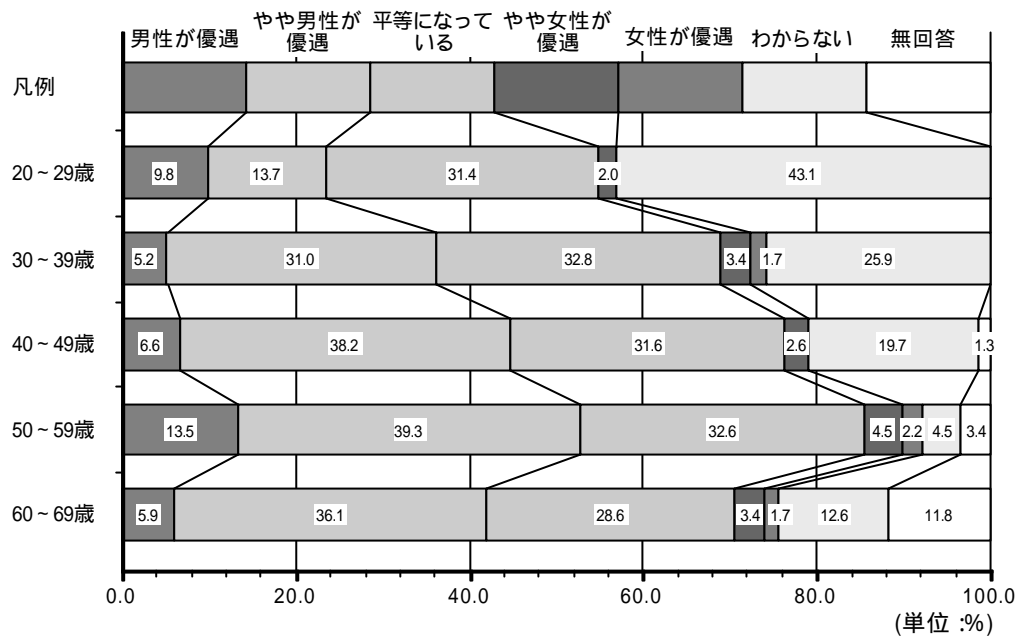
「職場では」を男女・年齢別にみると、男性 20 歳代は女性優遇との感じを持っている点が注目される。また、男性の他の年代では、年齢による違いが比較的小さい。これに対し女性では、基本的に年齢が低いほど男性優遇と感じている割合が高い。特に、20 歳代では「平等となっている」と答えた人が一人もいない。このなかで 30 歳代で男性優遇と感じる割合が低い点が注目される。これは、女性 30 歳代は「専業主婦」の割合が 20 歳代、40 歳代に比べて高く、職場等の社会との接点が少ないことと関係するものと推測される。

<ウ 職場では 職業別>

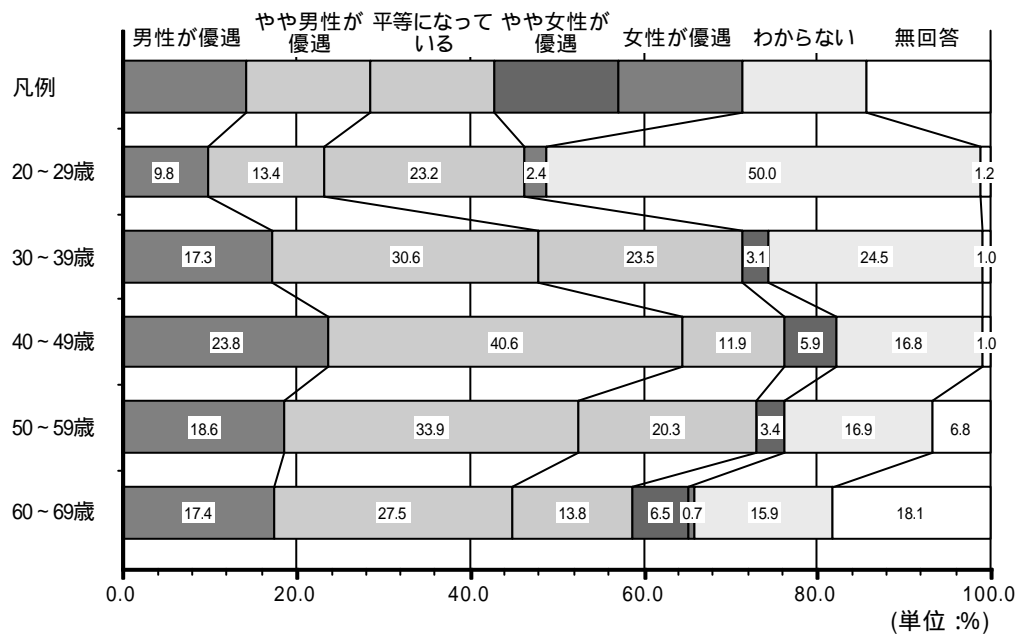


「職場では」を職業別にみると、勤め人（アルバイト）、専業主婦・主夫で男性優位と感じられる割合が高い。これらはどちらも、女性が圧倒的に多い職業であることが影響している。しかし、勤め人（アルバイト）が勤め人（正社員）に比べ、「男性が優位」とした割合はるかに高い点が注目される。やはり、正社員に比べ弱い立場が、男性優遇をより強く感じさせるものと推測される。

<カ 地域では 男性 年齢別>



<カ 地域では 女性 年齢別>



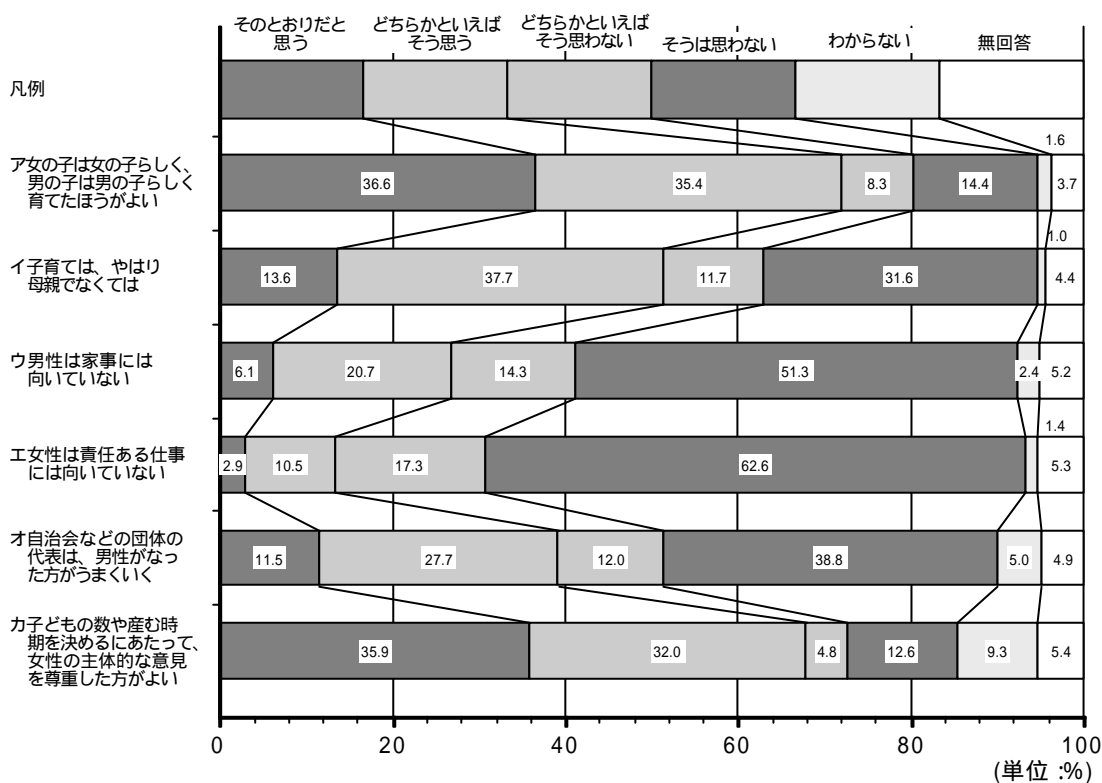
「地域では」を男女・年齢別にみると、男性は50歳代、女性は40歳代が、男性優遇を最も強く意識している。この年代をピークに低年齢層、高年齢層ともに男性優遇と感じる割合が下がる。しかし、「平等となっている」とした割合に大きな変化はなく、「わからない」とした割合が増えている。つまり、役員となったり行事に参加したりと地域との関連の強い年代ほど、男性優遇を感じていると推測される。このことは、地域活動が男女平等となっていないことを示唆している。

1 - 3 女の子は女らしく、男の子は男らしくなどの考え方について

問3 あなたは、次のような考え方についてどのように思いますか。ア～カの項目ごとに、1つずつ選んでください。

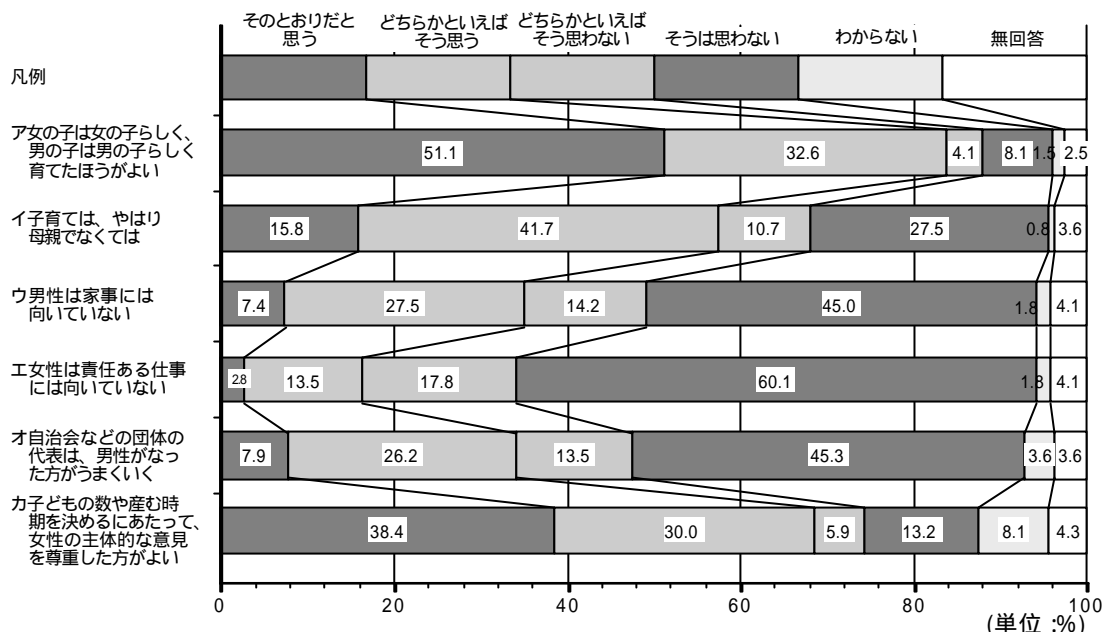
「そう思わない」などの否定派の割合が高いのは、「女性は責任ある仕事には向いていない」「男性は家事には向いていない」「自治会などの団体の代表は、男性がなった方がうまくいく」である。

< 全体 >

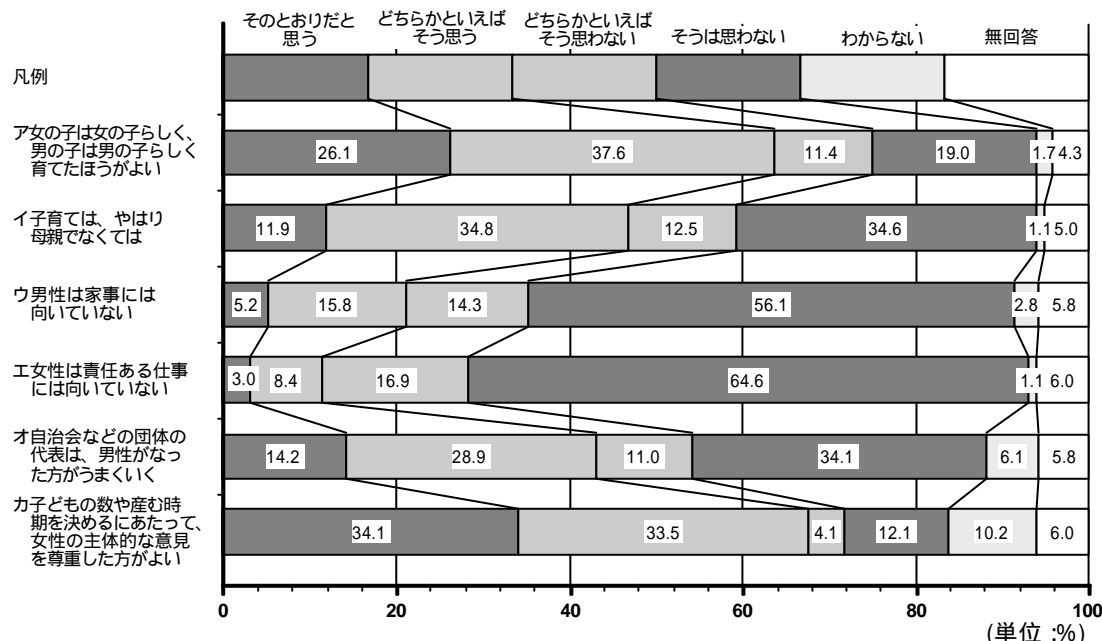


6つの項目のうち、「そのとおりだと思う」といった肯定派の割合が高いのは、「女の子は女らしく～」「子供の数や産む時期～」であり、逆に「そうは思わない」などの否定派の割合が高いのは、「女性は責任ある仕事～」「男性は家事に向いていない」「自治会などの団体の代表～」である。「子育てはやはり母親～」は肯定、否定がほぼ拮抗する。

< 男性 >

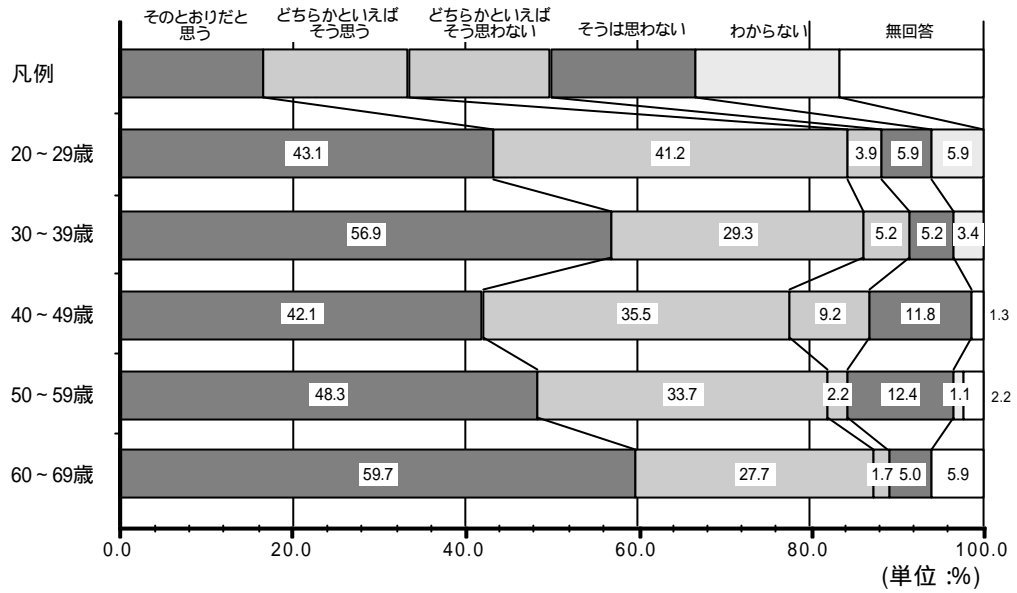


< 女性 >

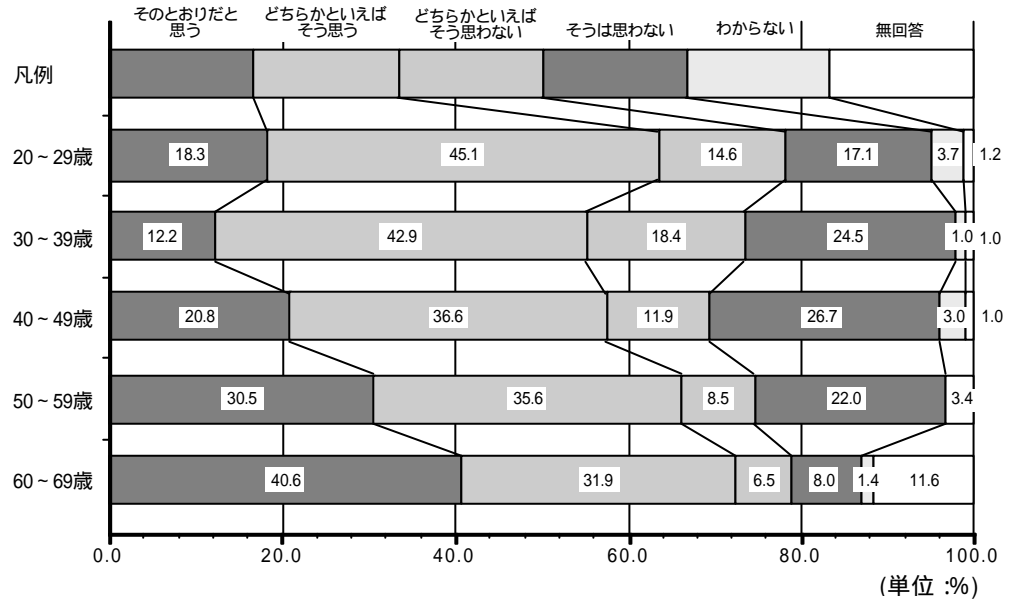


「女の子は女らしく～」は、「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」の肯定派が7割強を占める。しかし、男女別にみると意識の差は大きく、男性では「そのとおりだと思う」とした人が半数であるのに対し、女性では26.1%しかない。また、女性では「そうは思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の否定派が3割を占める。女の子は女らしく、男の子は男らしくという意識の根強さを感じると同時に、従来の意識から女性の方が素早く変化しつつある様子が見られる。

<ア 女の子は女の子らしく～ 男性 年齢別>



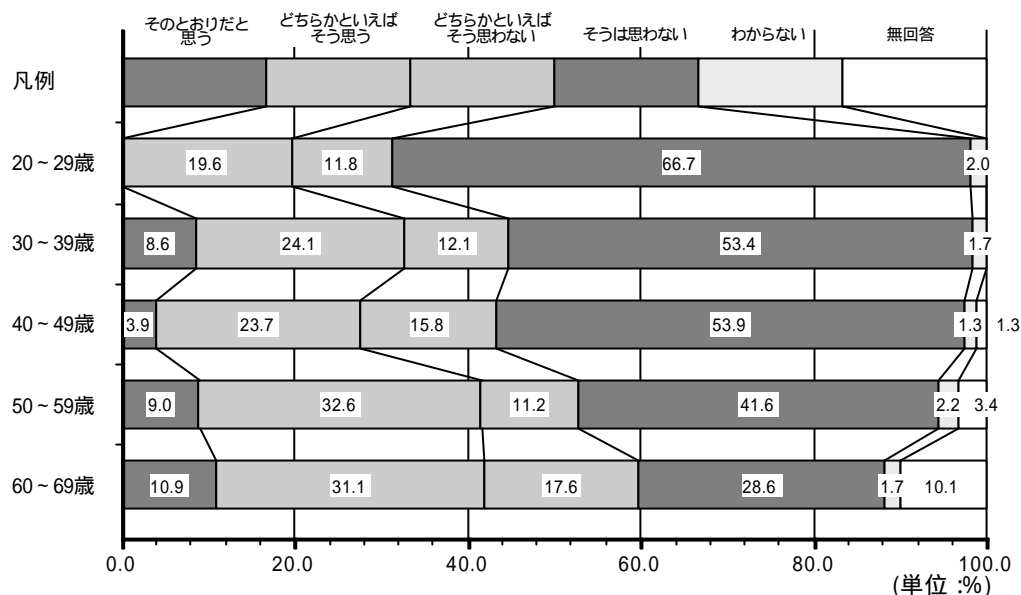
<ア 女の子は女の子らしく～ 女性 年齢別>



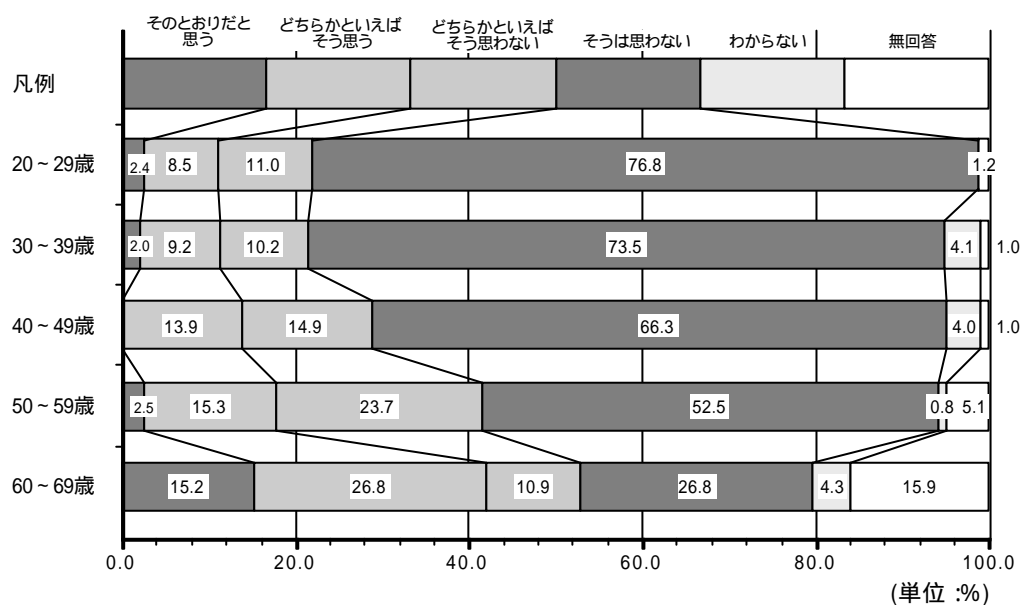
年齢別にみると、各年代ともに男性の方が肯定派が多い。また、男女ともに、年齢が高いほど肯定派が多い。しかし、男性 30 歳代では肯定派が、女性 30 歳代では否定派が突出して多い。これは、この年代が子育ての時期にあっており、目の前に子供がいる環境が、男性の肯定傾向、女性の否定傾向をより強く意識させるものと推測される。

「子育てはやはり母親～」は、肯定派が合わせて 51.3%、否定派が合わせて 43.3% と、ほぼ拮抗している。また、男女別には、男性が肯定傾向、女性が否定傾向が強いといえるが、その差は比較的小さい。

<ウ 男性は家事に～ 男性 年齢別>

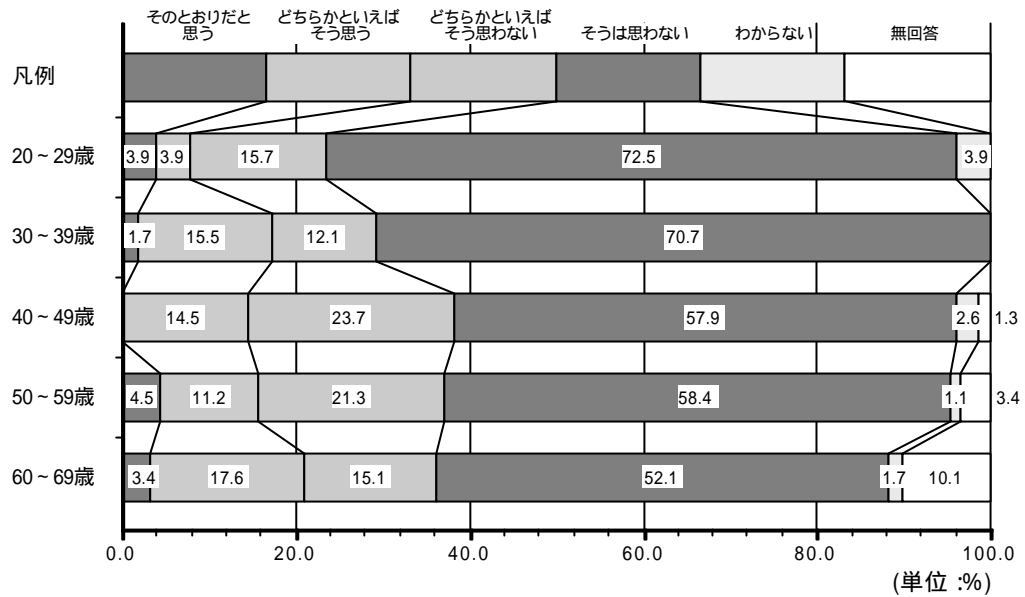


<ウ 男性は家事に～ 女性 年齢別>

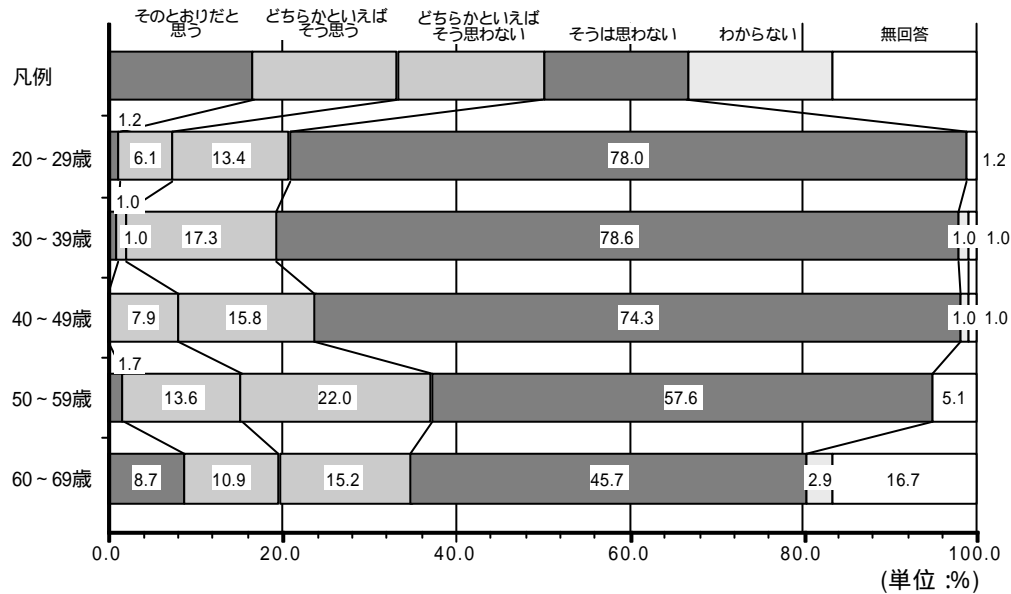


「男性は家事に向いていない」は、「そうは思わない」が 51.3%と過半を占め、否定する傾向が強い。男女別にみると、「そうは思わない」とした割合が、男性 45.0% に対し女性 56.1%と、約 11 ポイント高い。家事において男性にも役割分担を求めることへの女性の意識が強いことがうかがわれる。年齢別にみると、男女ともに年齢が高いほど肯定派が多い傾向にある。男性はほぼ年齢に応じて肯定派が増えるなかで、30 歳代の肯定派が突出する点が目立つ。女性では 60 歳代と他の年代との差が大きいことが特徴である。特に、50 歳代から下の年代では、「そのとおりだと思う」と答えた人が非常に少ない点が注目される。

<エ 女性は責任ある仕事に～ 男性 年齢別>



<エ 女性は責任ある仕事に～ 女性 年齢別>



「女性は責任ある仕事～」は、「そうは思わない」とした割合が 62.6%と 6 項目のなかで最も高く、否定する意識が強い。男女別にみると、女性の方が否定する傾向が強いものの、その差は小さい。また、年齢別では、男女ともに年齢が高いほど肯定派が多い傾向にある。このなかで、特徴的なのは 30 歳代である。男性 30 歳代は肯定傾向が、女性 30 歳代は否定傾向がより強い。他の項目を含め 30 歳代は、男性は保守的、女性は進歩的な意識が強いようである。

「自治会などの団体の代表～」は、肯定派が合わせて 39.2%、否定派が合わせて 50.8%と、やや否定する意識が強い。「そうは思わない」と強く否定する人の割合が 38.8%と最も高いところにも表れている。男女別にみると、男性は肯定派が 34.1%に対し女性は 43.1%と、女性の方が高い。他の項目では、全体に否定派が多数の場合、女性の方が否定する意識が高いのに対し、この項目だけは逆である。自治会などの地域活動における男女間の地位の差の存在が、ここにもうかがわれる。

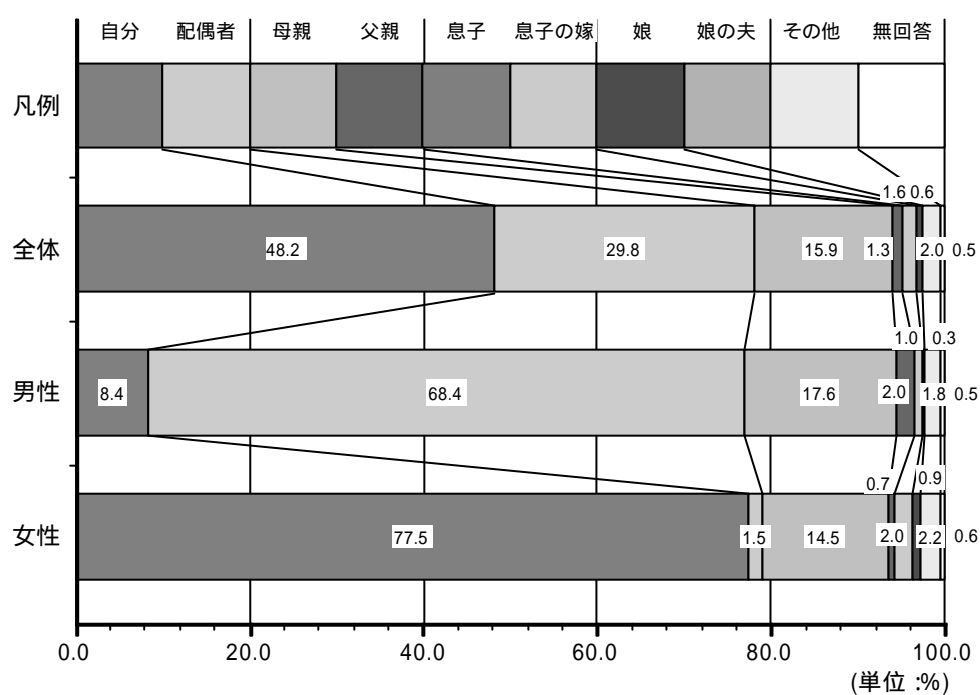
「子供の数や産む時期～」は、肯定派が7割近くを占め、否定派は2割に満たない。男女別にみても、男女ともにほぼ同様の回答状況であり、肯定する意識が強い。

1 - 4 家事は誰が行っているのかについて

問4 あなたの家庭では、家事は主にどなたが中心となって行っていますか。1つ選んでください。

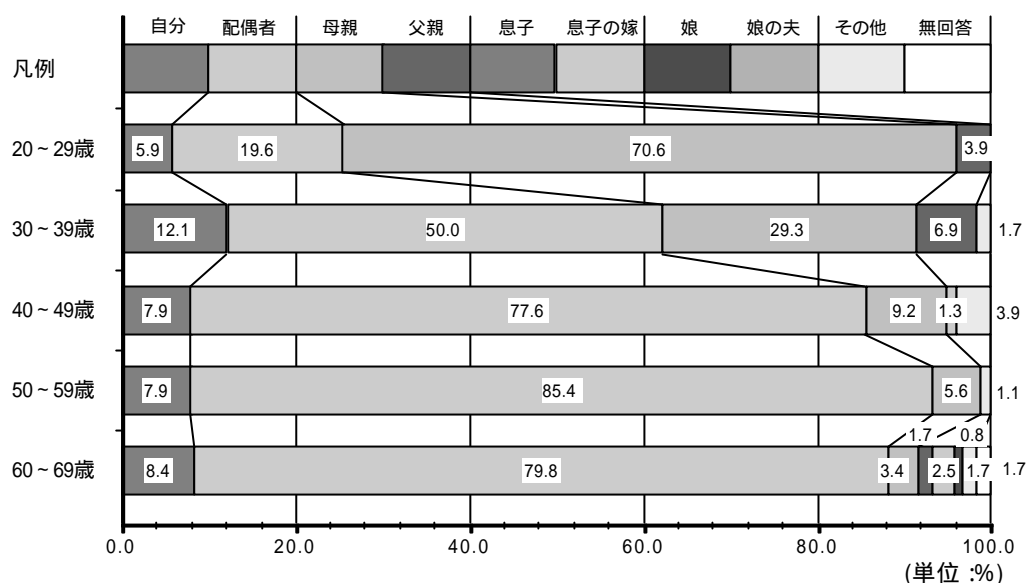
家事が女性の仕事となっている。

<全体>

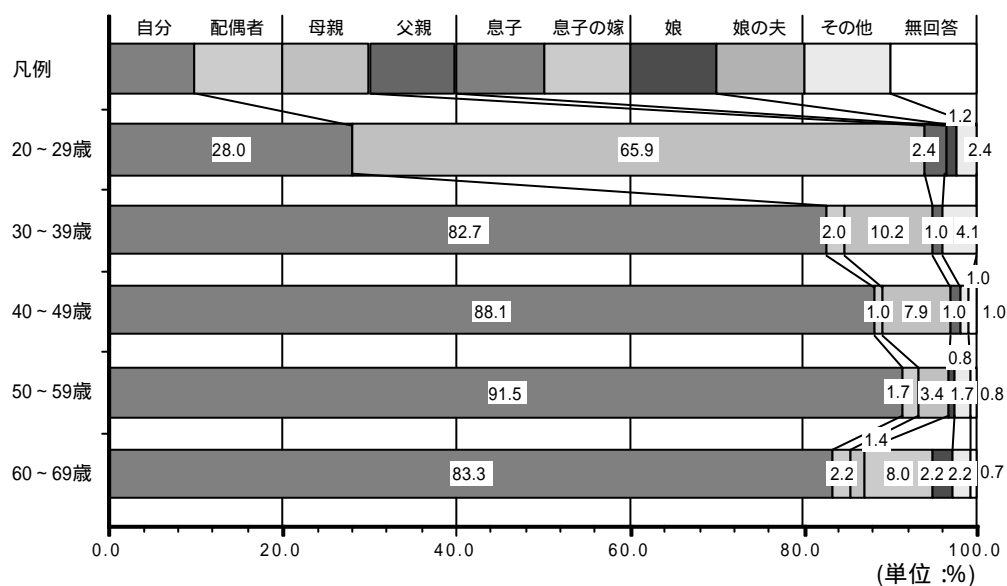


家事を主に行っているのは、「自分」としたのがおよそ5割、次いで「配偶者」がおよそ3割、「母親」が約15%である。男女別では、男性のおよそ7割が「配偶者」と回答し、女性のおよそ8割が「自分」としている。家事が女性の仕事となっていることを示している。

< 男性 年齢別 >



< 女性 年齢別 >



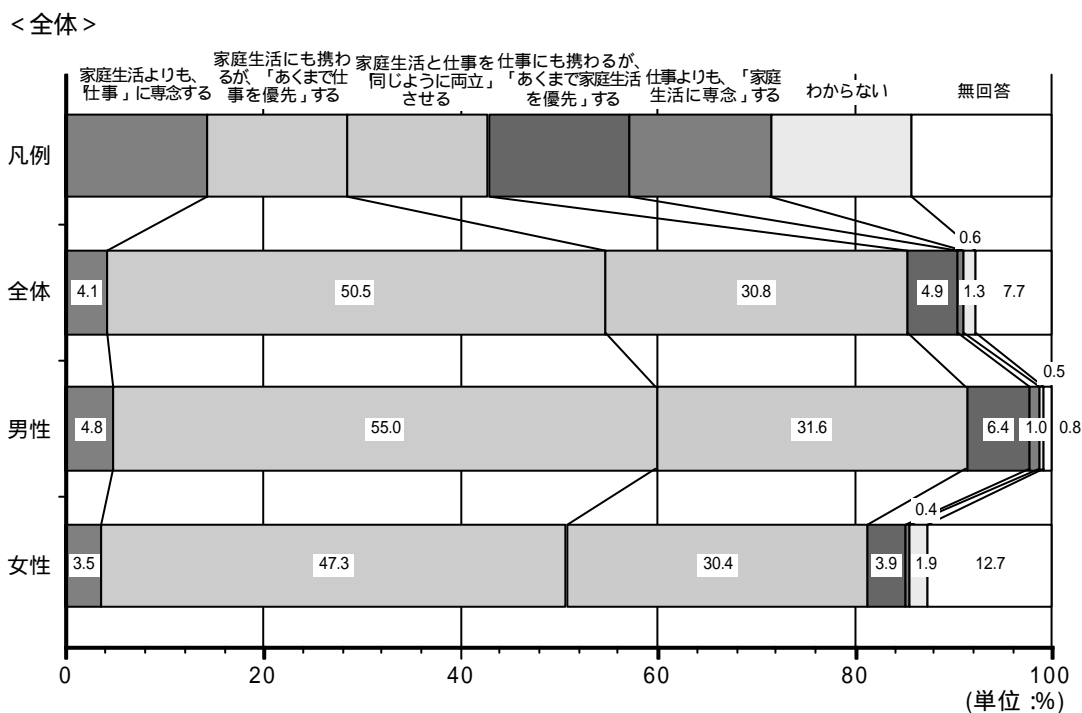
年齢別にみると、男性は、20歳代では「母親」が7割を占めるが、30歳代では「配偶者」が半数となり、40歳代以上では「配偶者」が8割前後を占める。「自分」とした割合は、独立して生活していると考えられる30歳代で12.1%ある以外は、1割に満たない。結婚により、「母親」から「配偶者」へと、家事の担い手が移る様子がかがわれ、いずれにしろ女性に依存している。女性は、20歳代では男性同様に「母親」が約65%を占めるが、「自分」もおおよそ2割ある。30歳代以降はいずれの年代でも「自分」が8割以上を占める。これに対し、「配偶者」とした人は各年代でほとんどおらず、家事は妻の役割となっているといえる。

1 - 5 仕事と家庭生活のバランスで、男女の望ましい生き方について

問5 仕事と家庭生活のバランスについて、男性・女性の生き方としてあなたが望ましいと思うのはどのような生き方でしょうか。男性の生き方・女性の生き方それぞれについて、1つずつ選んでください。

男性の望ましい生き方

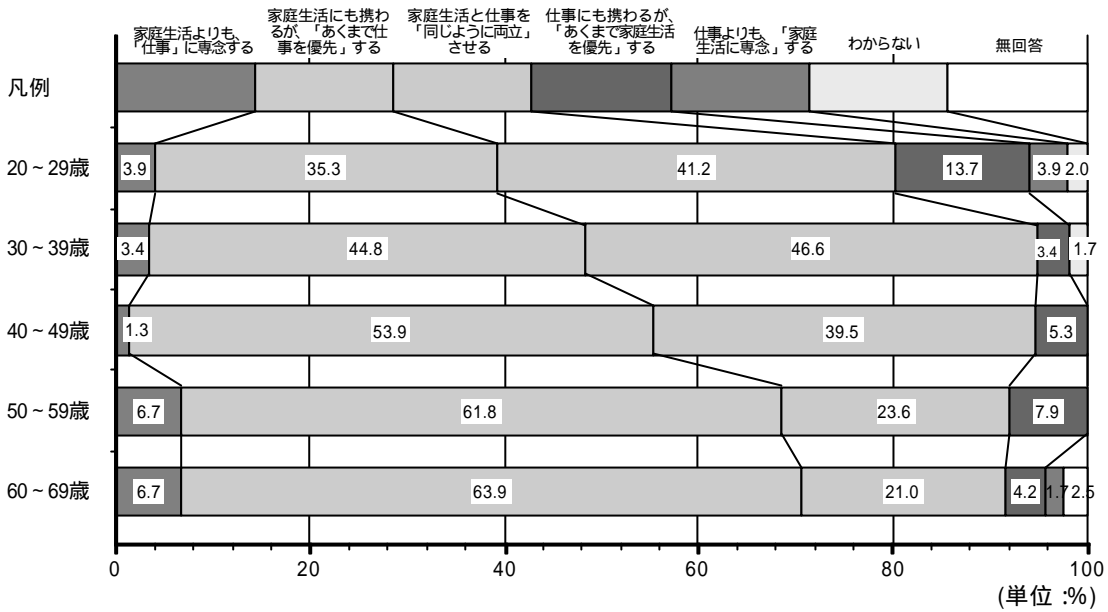
男女別の回答をみると、「仕事を優先する」とした割合が、男性の方が女性に比べ7ポイントほど高い。



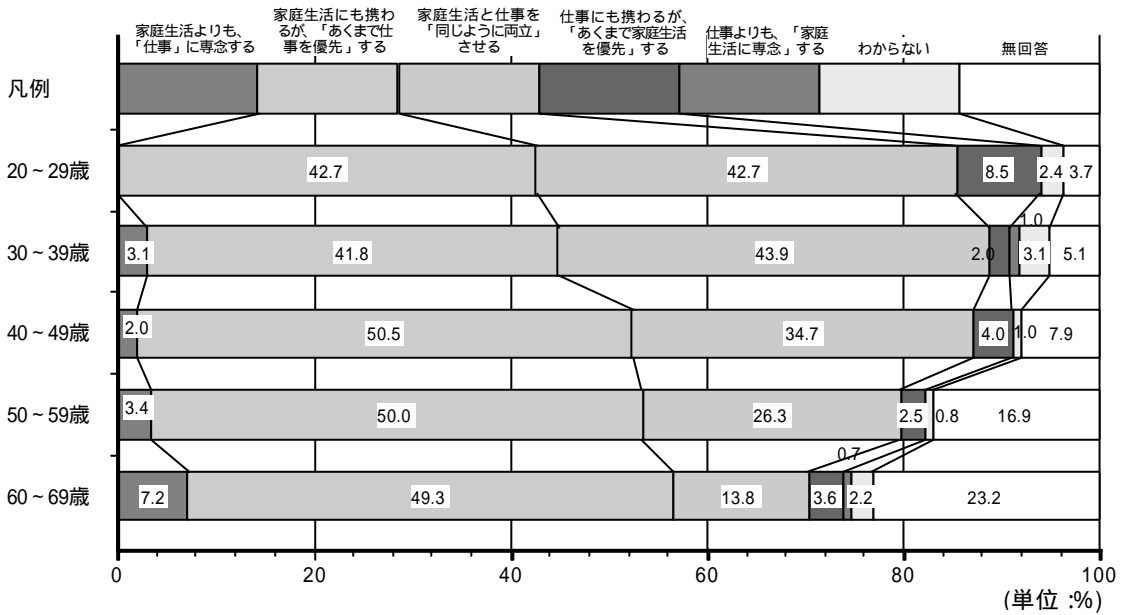
男性の望ましい生き方については、「仕事を優先する」とした人が50.5%と最も多く、次いで「両立させる」が30.8%である。この二つが大半を占め、「仕事に専念する」(4.1%)、「家庭生活を優先する」(4.9%)などとした人は少数である。

男女別にみると、「仕事を優先する」とした割合が、男性55.0%、女性47.3%と、男性の方が7ポイントほど高い。また、「家庭生活を優先する」「家庭生活に専念する」とした割合も男性の方が高い点も注目される。しかし、女性に無回答が多いことから、有為な違いであるかは判断が難しい。

< 男性 年齢別 >



< 女性 年齢別 >

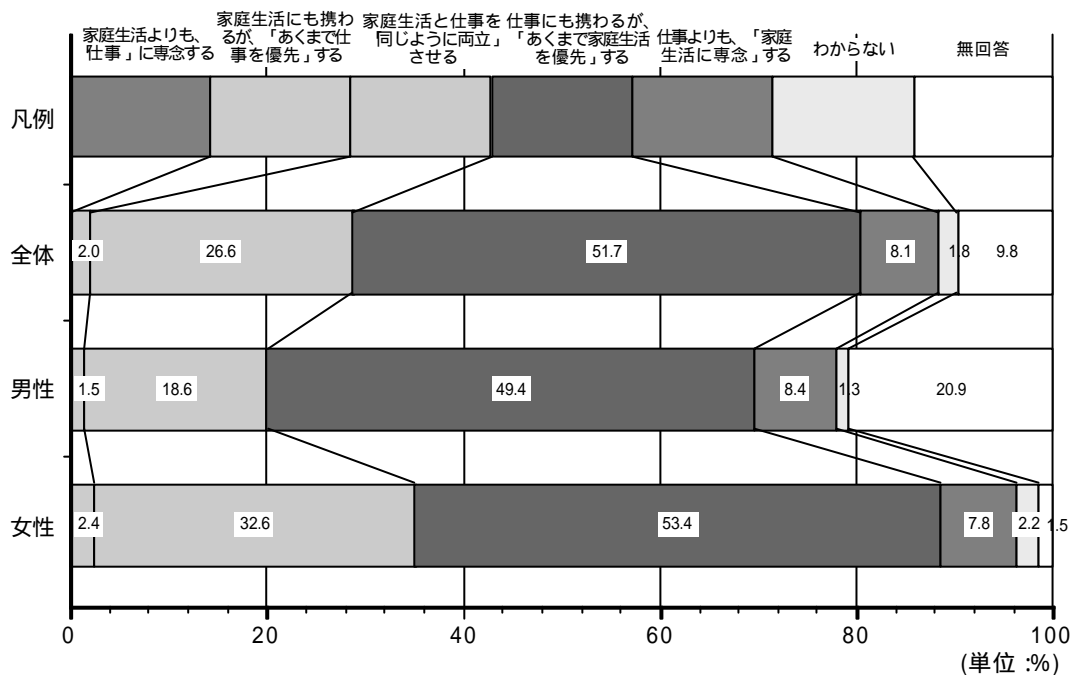


年齢別にみると、男性は、年齢が高いほど仕事を優先する姿勢がみられる。また、女性も同様な傾向があるものの、無回答が多いことから断定は難しい。

女性の望ましい生き方

男女別の回答をみると、女性自身は、男性に比べ仕事と家庭生活の両立を望む割合はるかに高い。

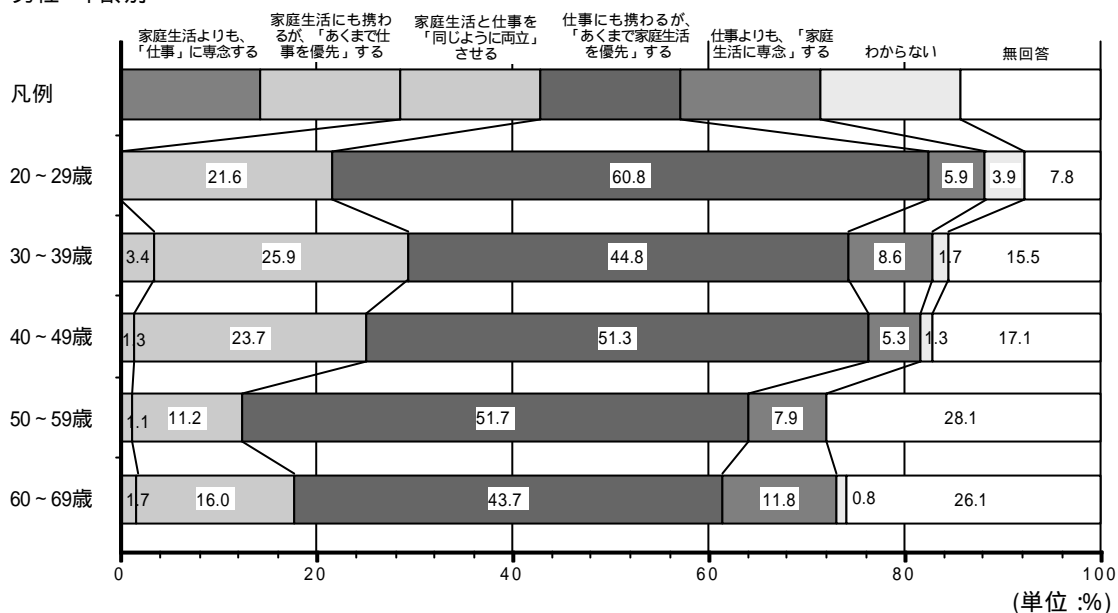
<全体>



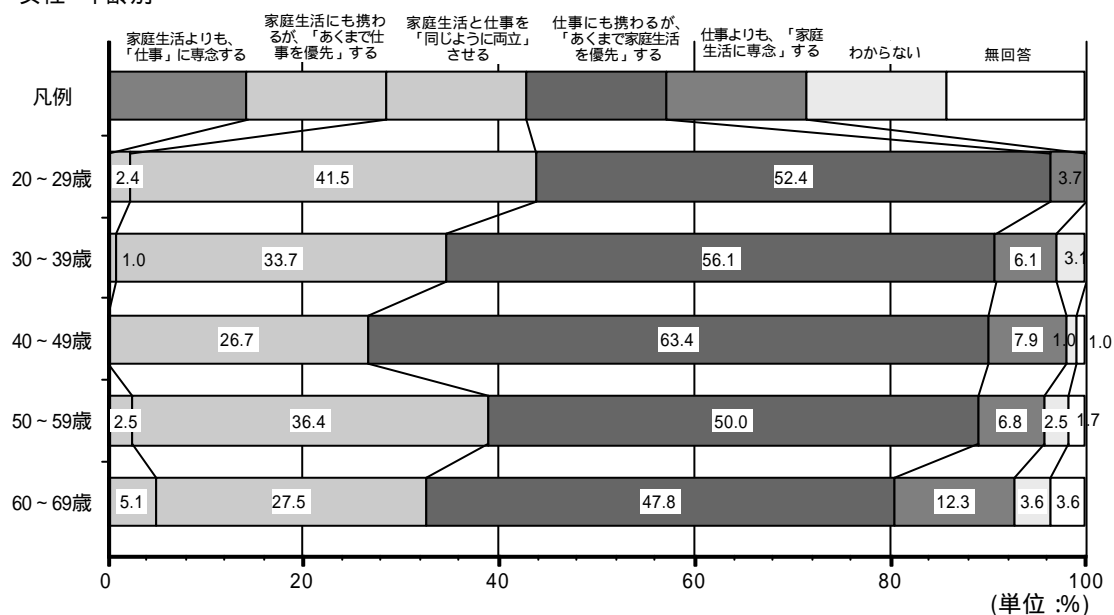
女性の望ましい生き方について、「家庭生活を優先する」とした人が 51.7%と最も多く、次いで「両立させる」が 26.6%である。「仕事に専念する」とした人はおらず、「仕事を優先する」も 2.0%と少ない。逆に、「家庭生活に専念する」が 8.1%あり、男性の生き方とはまったく違う結果となった。仕事を持つ女性も多いことを考えると、仕事を優先する姿勢が意外に強くない。家事の主な担い手であるといったことが影響しているのかもしれない。

男女別にみると、「両立させる」とした割合が、男性 18.6%に対し女性 32.6%と大きく違っている。男性に無回答が多いものの、これだけの差があれば、女性自身は仕事と家庭生活の両立を比較的望んでいると考えてよいであろう。それに対し、男性は家庭生活を優先させたいと考えているようである。

< 男性 年齢別 >



< 女性 年齢別 >



年齢別にみると、男性は無回答が多く傾向をつかみづらい。女性は、20歳代から40歳代にかけて家庭生活優先の姿勢が強まる。この期間、子育て、家事などの負担が徐々に大きくなるためと推測される。その後50歳代では、子育てなどの負担が軽減するためか、「両立させる」「仕事を優先する」とした割合が一旦上がり、しかし60歳代では家庭生活優先の姿勢が再び強まる。

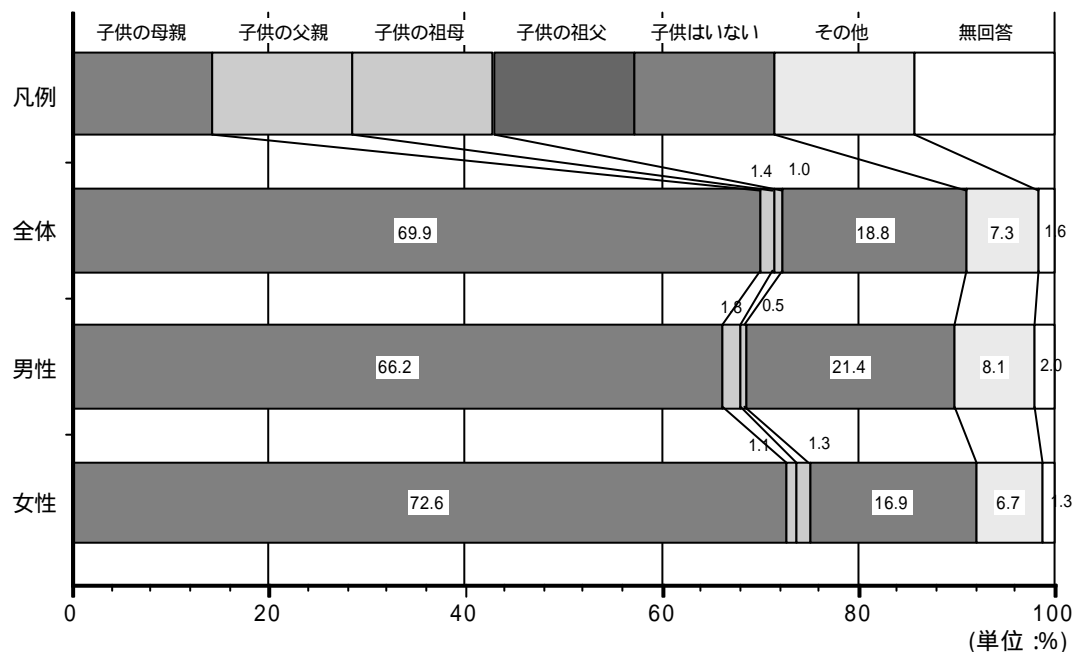
2 子育てなどについて

2 - 1 子育ては誰が行っているのかについて

問6 あなたの家庭では、子育ては主にどなたが中心となって行っていますか。1つ選んでください。

子育ての主な担い手は「子供の母親」といえる。

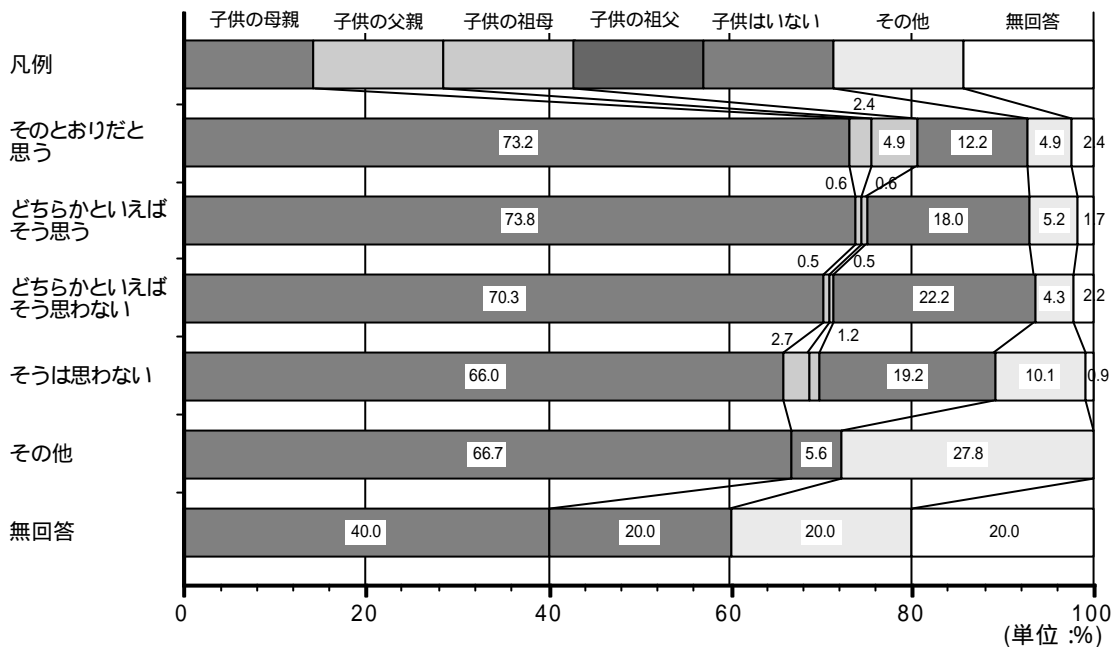
<全体>



子育てを行っているのは、「子供の母親」とした割合が最も高く、69.9%である。次いで「子供はいない」であるので、子育ての主な担い手は「子供の母親」といえる。男女別にみても、この傾向は変わらない。

ここで注目したいのは、「その他」(7.3%)である。「その他」とした人の多くは、わざわざ「子供の両親」と記入していた。「子供の両親」という選択肢を設ければ、かなりの割合で選択された可能性も高い。このことから、「子供の父親」とした回答は低いものの、父親が子育てに参加している割合は見かけよりも高いと推測される。

<問1とのクロス>



問1の「男は仕事、女は家庭」という考え方の回答とのクロス集計を試みた。「男は仕事、女は家庭」という考え方に否定的なほど、「子供の母親」とした割合が低くなる。また、「そうは思わない」とした人の1割が「その他」を選択している。「その他」の多くは、「子供の両親」であることを考えると、「男は仕事、女は家庭」という考え方に否定的な方が、父親が子育てに参加するケースが多いといえる。

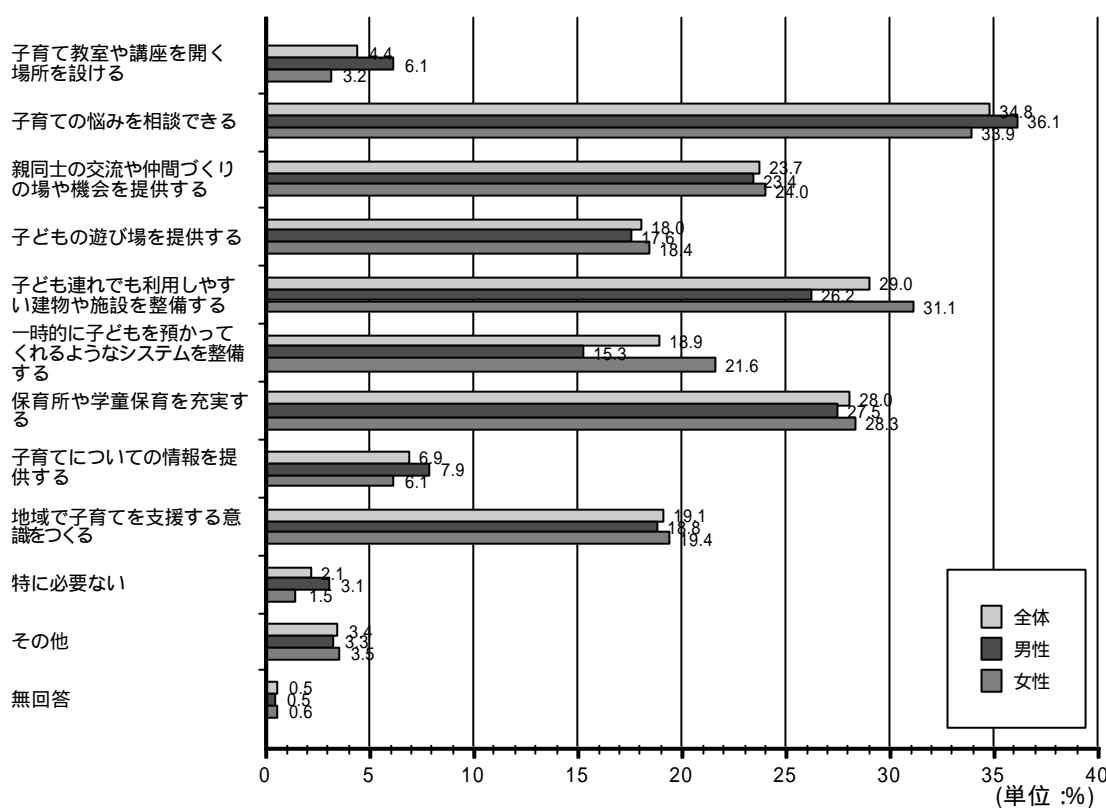
役割分担意識と子育てへの父親の参加度合いの間には、関係があるといえそうである。

2 - 2 子育てに対する行政の支援について

問7 あなたは、子育てに対する行政の支援としてどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたが特に重要だと思うものを2つ以内で選んでください。

「子ども連れでも利用しやすい建物や施設を整備する」「一時的に子どもを預かってくれるようなシステムを整備する」は、女性の方が男性よりはるかに割合が高い。

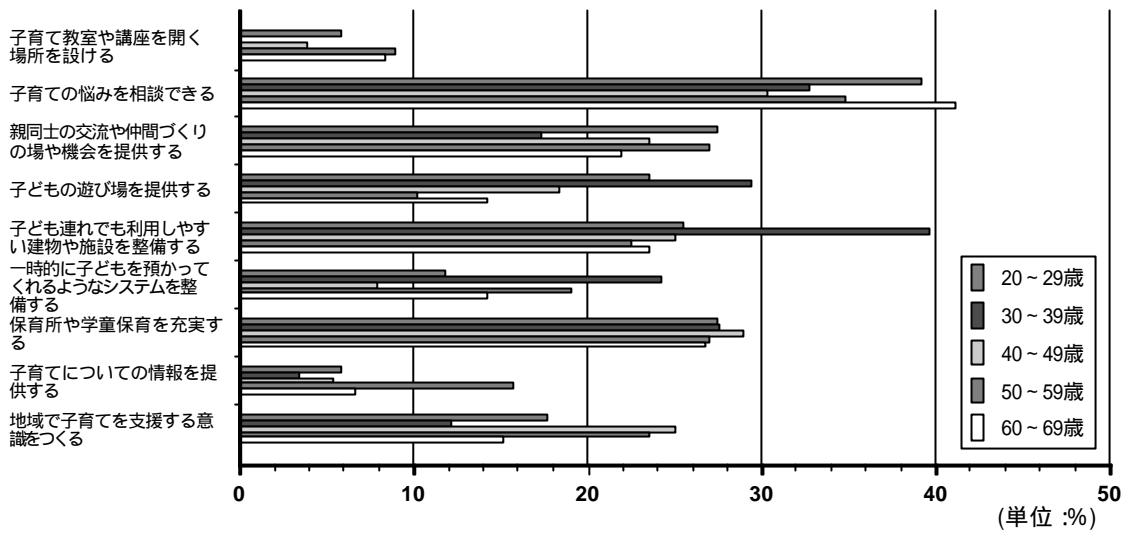
<全体>



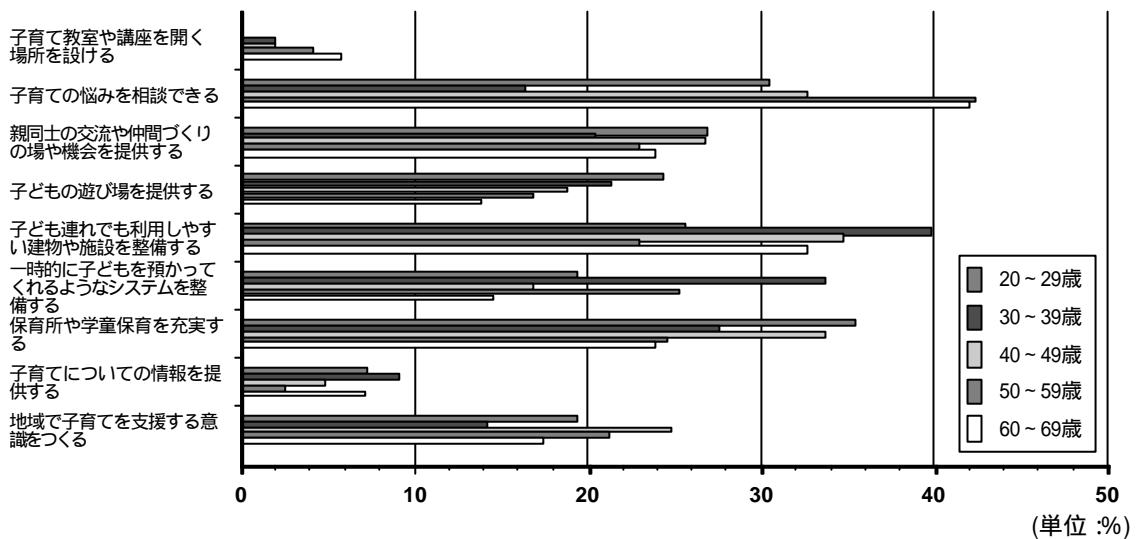
最も割合が高いのは「子育ての悩みを相談できる場所を設ける」の34.8%である。次いで、「子ども連れでも利用しやすい建物や施設を整備する」(29.0%)、「保育所や学童保育を充実する」(28.0%)、「親同士の交流や仲間づくりの場や機会を設ける」(23.7%)の順である。

男女別にみると、上位4項目は同じで、順位は一緒である。その他の項目についても、男女でほぼ同様な選択をしている。しかし、男女で割合が大きく異なる項目が二つあり、「子ども連れでも利用しやすい建物や施設を整備する」「一時的に子どもを預かってくれるようなシステムを整備する」では、女性の方が男性よりはるかに割合が高い。これらは、子育ての担い手であり、一日のうちの大半を子どもと過ごす女性からの切実な声であるといえる。

< 男性 年齢別 >



< 女性 年齢別 >



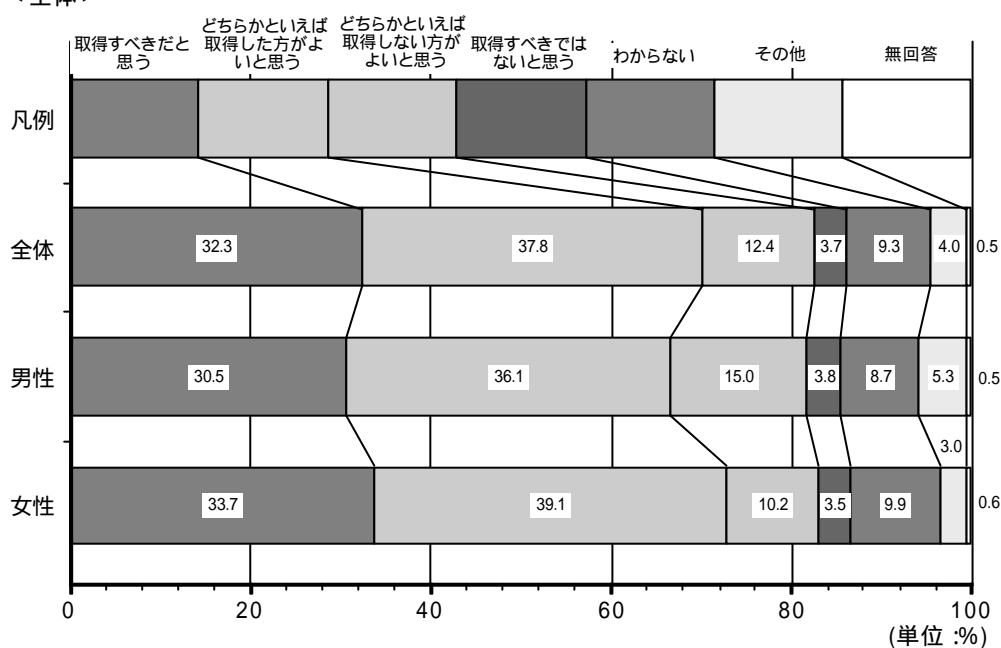
年齢別にみると、男女ともに、20歳代では「子育ての悩みを相談できる場所を設ける」「親同士の交流や仲間づくりの場や機会を設ける」とした割合が高く、30歳代では「子ども連れでも利用しやすい建物や施設を整備する」「保育所や学童保育を充実する」「一時的に子どもを預かってくれるようなシステムを整備する」の割合が高い。これは、20歳代では子育ての経験が浅く不安があること、30歳代では子どもの年齢も上がり外出の機会が増えたり、母親が働くケースも多くなることによるものと推測される。また、「子ども連れでも利用しやすい建物や施設を整備する」「一時的に子どもを預かってくれるようなシステムを整備する」は、子育ての担い手の切実な声であることが、ここでも裏付けられたといえる。

2 - 3 男性の育児休業取得について

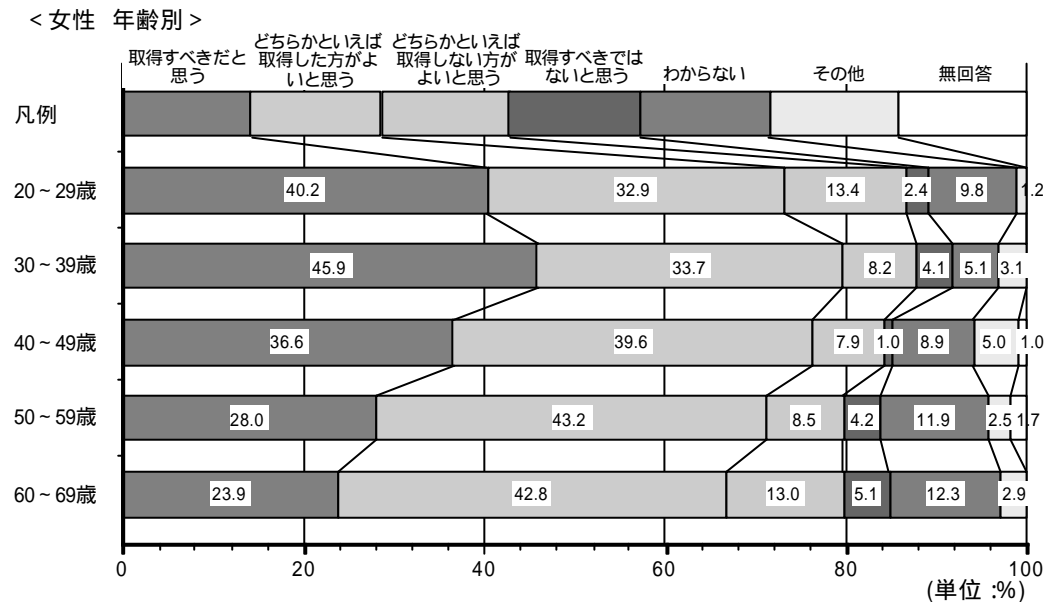
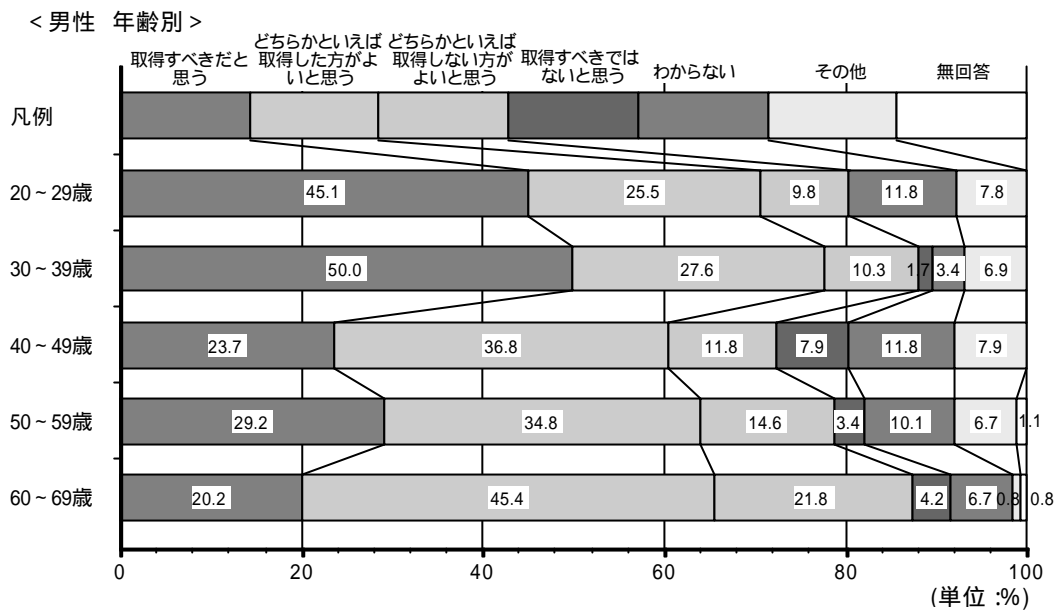
問8 現在の法律では、男性も育児休業を女性と同様に取得できるようになっていますが、男性の取得について、あなたはどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。

女性に比べ、男性の方がやや否定派が多い。

<全体>

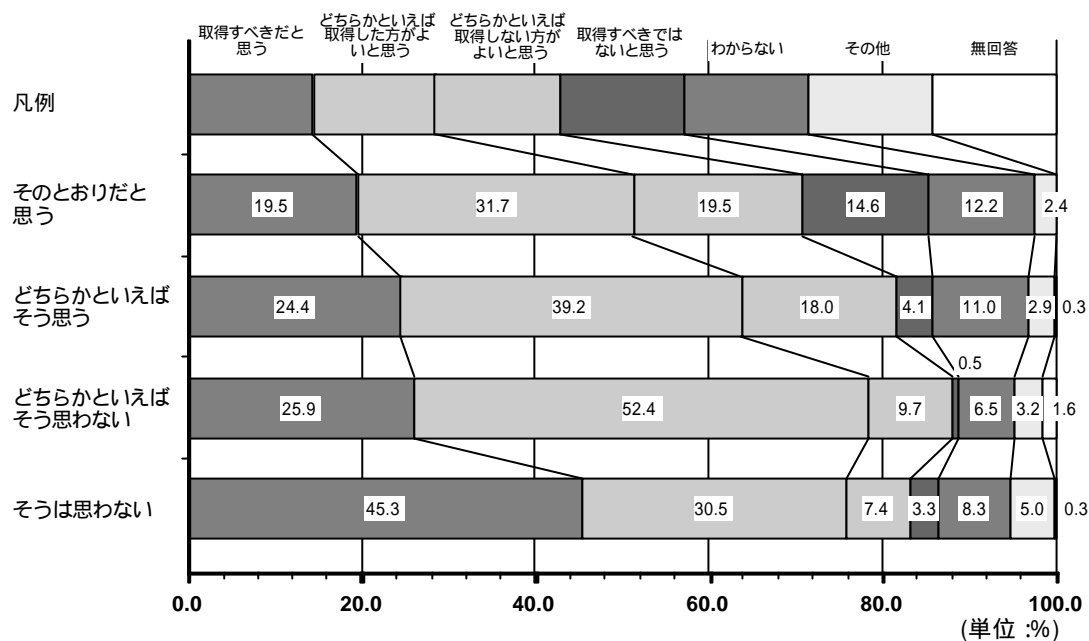


男性も育児休業を「取得すべきだと思う」は32.3%、「どちらかといえば取得した方がよいと思う」は37.8%で、両方を合わせた肯定派は7割を占める。これに対し「どちらかといえば取得しない方がよいと思う」(12.4%)、「取得すべきではないと思う」(3.7%)の否定派は16%程度と少数である。



男女別では、女性に比べ男性の方がやや否定派が多い。年齢別にみると、男女ともに30歳代で肯定派の割合が最も高く、年齢が高いと否定派が多くなる傾向にある。特に、男性では30歳代と40歳代以降で差が大きい。30歳代で肯定派が多いのは、現在子育て中の場合が多く、現実の問題として考えられるからであろう。これに対し20歳代では、まだ子供がいないなど、30歳代に比べ切実でないものと推測される。年齢が高い層では、子育てが終わっている場合も多いことに加え、「子育ては母親が行うもの」「仕事を休んでまでも」という意識が根強いのではないかと推測される。また、男性では、職場での責任の重さなどから、仕事を休めないと考えていることも推測される。

<問1とのクロス>

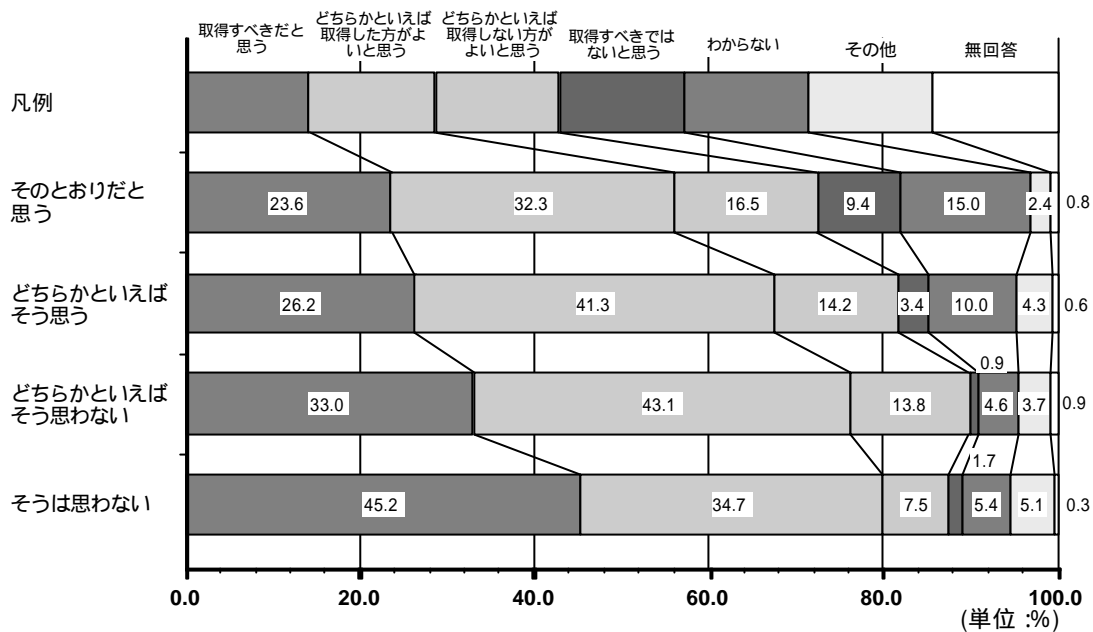


問1の「男は仕事、女は家庭」という考え方の回答とのクロス集計を試みた。「男は仕事、女は家庭」という考え方を「そのとおりだと思う」とした人では育児休業を「取得すべきだと思う」は19.5%、逆に「取得すべきではないと思う」が14.6%であるのに対し、「そうは思わない」とした人では「取得すべきだと思う」が45.3%、「取得すべきではないと思う」はわずかに3.3%である。

「男は仕事、女は家庭」という考え方に否定的なほど、育児休業の取得に肯定的であるいえる。

性別役割分担意識と育児休業取得についての意識との間には、関係があるといえそうである。

<問3イとのクロス>



問3イの「子育てはやはり母親でなくてはと思う」とのクロス集計を試みる。「子育てはやはり母親でなくてはと思う」において「そのとおりだと思う」とした人では育児休業を「取得すべきだと思う」は23.6%、逆に「取得すべきではないと思う」が9.4%であるのに対し、「そうは思わない」とした人では「取得すべきだと思う」が45.2%、「取得すべきではないと思う」はわずかに1.7%である。

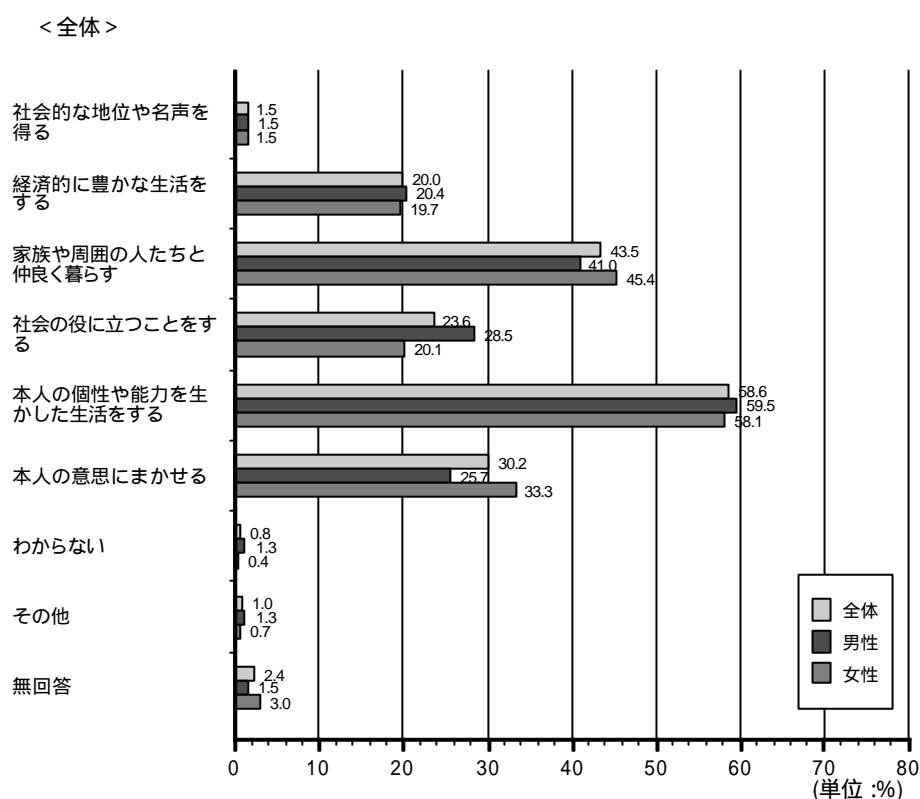
「子育てはやはり母親でなくてはと思う」という考え方に否定的なほど、育児休業の取得に肯定的であるいえる。

2 - 4 男の子・女の子の望ましい生き方について

問9 あなたは、お子さんにどのような生き方をしてほしいと思いますか。男の子・女の子のそれぞれについて、2つ以内で選んでください。お子さんがいない方も、いると仮定してお答えください。

男の子の望ましい生き方

「本人の個性や能力を活かした生活をする」を求める人が最も多い。



男の子の望ましい生き方として求める項目は、「本人の個性や能力を活かした生活をする」とした人が最も多く、58.6%と過半を占める。次いで、「家族や周囲の人たちと仲良く暮らす」(43.5%)、「本人の意思にまかせる」(30.2%)、「社会の役に立つことをする」(23.6%)、「経済的に豊かな生活をする」(20.0%)の順である。

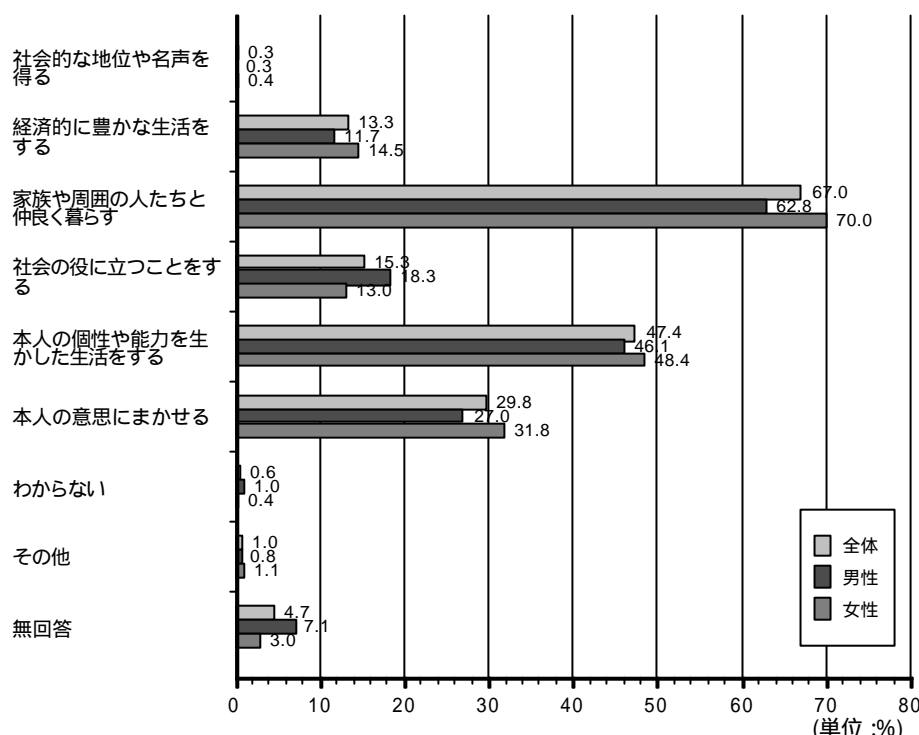
男女別にみると、「本人の個性や能力を活かした生活をする」が男女ともにトップである。次いで「家族や周囲の人たちと仲良く暮らす」であるが、女性の方が割合が高い。男性の3位が「社会の役に立つことをする」であるのに対し、女性は「本人の意思にまかせる」であり、順位が入れ替わる。また、この2項目の選択割合は、男女で8ポイント程度の差がある。男性は社会的な成功といった結果を求めがちなのに対し、

女性は仲良く暮らすことや納得できる生き方を重視している。

女の子の望ましい生き方

「家族や周囲の人たちと仲良く暮らす」を求める人が最も多い。

<全体>



女の子の望ましい生き方として求める項目は、「家族や周囲の人たちと仲良く暮らす」とした人が最も多く、67.0%である。次いで、「本人の個性や能力を活かした生活をする」(47.4%)、「本人の意思にまかせる」(29.8%)、「社会の役に立つことをする」(15.3%)、「経済的に豊かな生活をする」(13.3%)の順である。男の子の生き方として求める項目とは順位が異なり、また「家族や周囲の人たちと仲良く暮らす」への集中ぶりも注目される。さらに、「社会の役に立つことをする」「経済的に豊かな生活をする」とした割合も男の子に比べ低い。あまり結果を求めず、仲良く、個性を活かした生き方をしてくれればよいと考えているようである。

この傾向は男女でほとんど差がない。

平成7年度調査と比較すると、男の子、女の子ともに、「本人の意思にまかせる」とする割合(平成7年度は男の子40.3%、女の子41.6%)が低下しているものの、傾向に大きな変化はない。

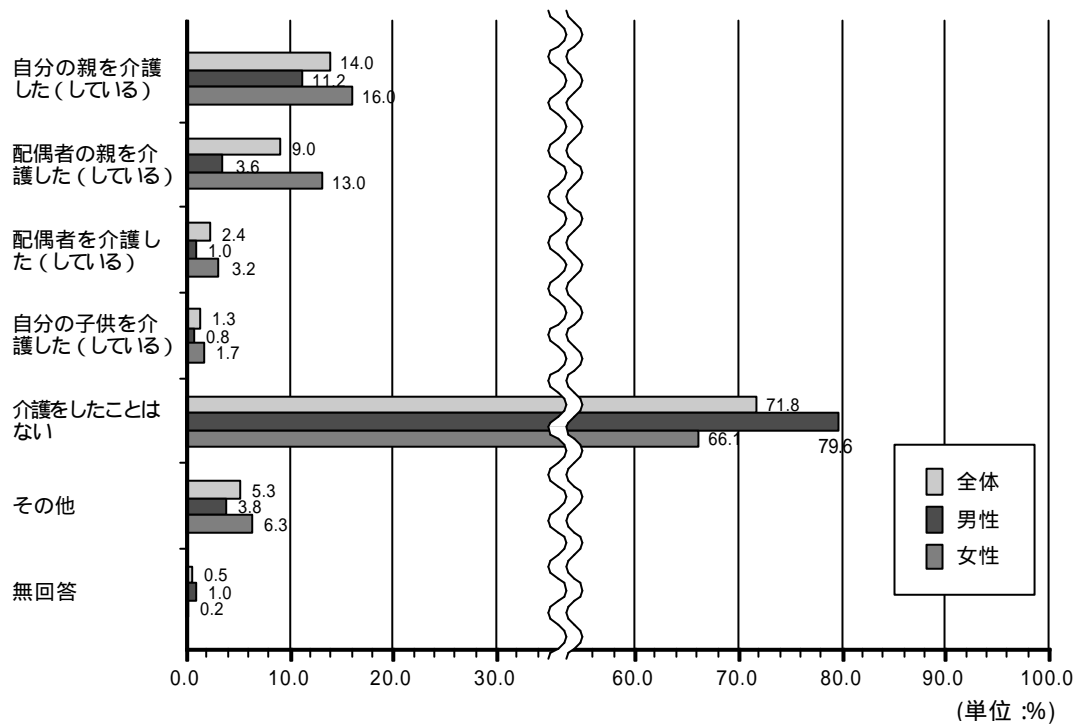
3 介護について

3 - 1 介護したことがあるかについて

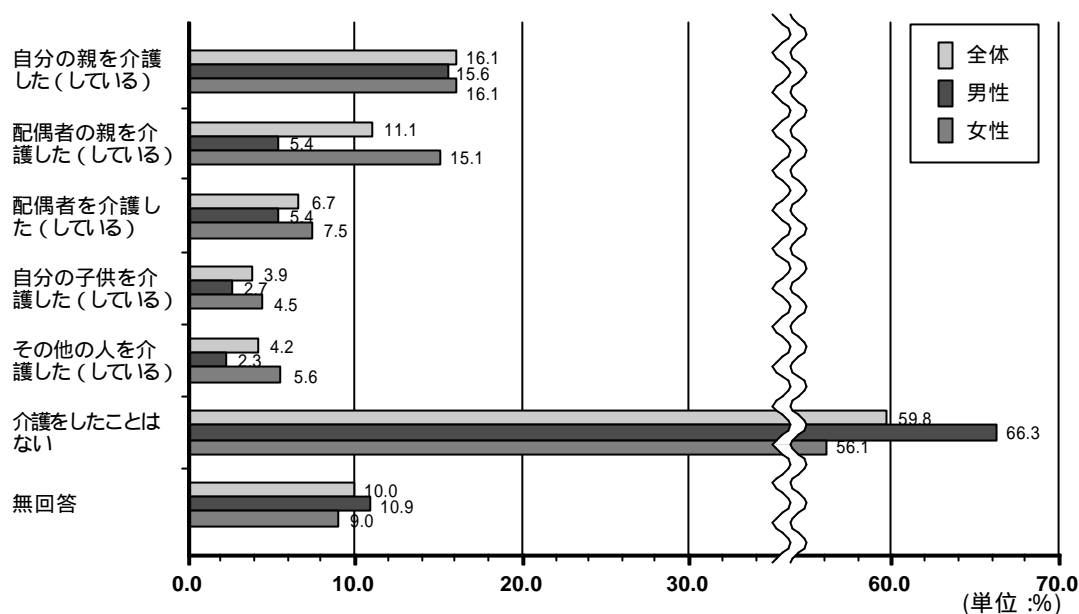
問 10 あなたはこれまでに介護をしたことがありますか。あるいは現在していますか。
次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

「介護をしたことがない」が増え、介護の外部化が進展していることがうかがわれる。

<全体 平成12年>



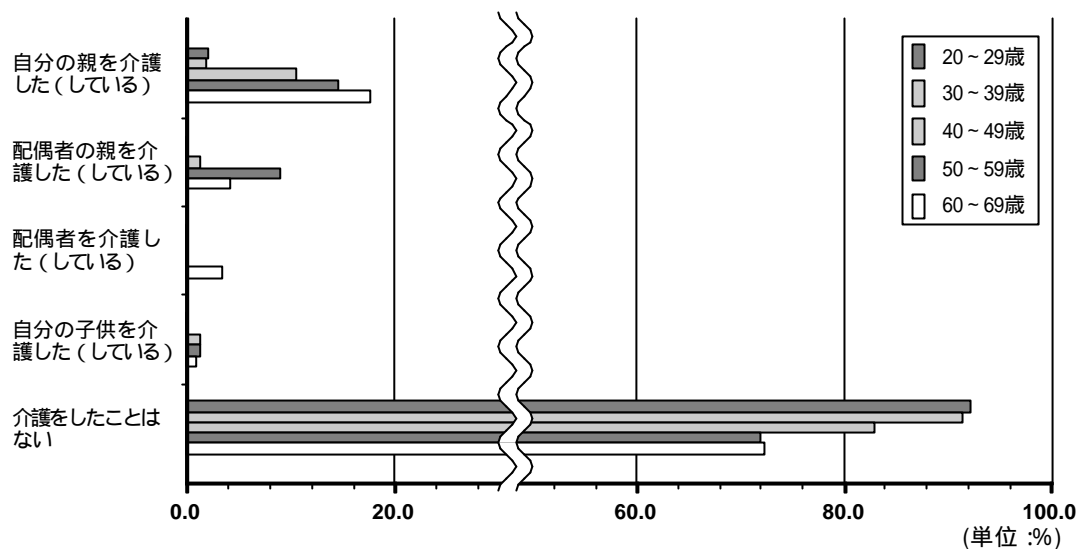
<全体 平成7年>



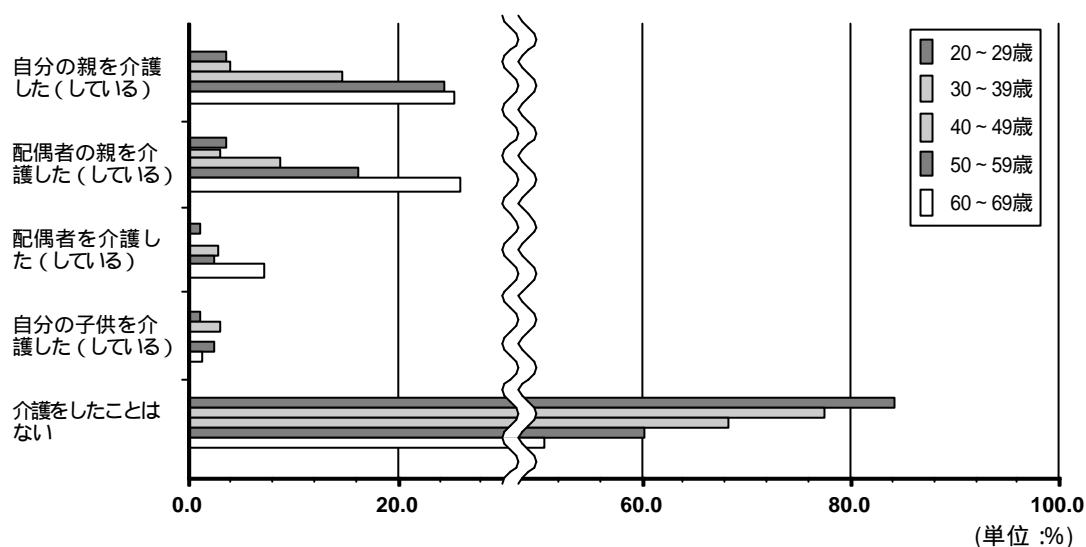
「介護をしたことがない」が最も多く 71.8%を占める。介護をしたことがあるなかでは、「自分の親」が最も多く 14.0%、次いで「配偶者の親」(9.0%)、「その他」(5.3%)、「配偶者」(2.4%)、「自分の子供」(1.3%)の順である。「その他」の多さが注目されるが、「仕事として」や「ボランティアで」ということである。平成7年度調査と比較すると「介護をしたことがない」が増え、介護をしたことがある人は、「その他」を除いて減っている。介護の外部化が進展していることがうかがわれる。

男女別にみると、男性の方が「介護をしたことがない」とした割合が高く、いずれの介護においても女性が男性を上回る。また、平成7年度調査に比べ、「自分の親」の介護における割合が、男性 11.2%に対し女性 16.0%と、その差が大きくなっている。介護においても女性に多くを依存しており、その割合が高まりつつあることが見て取れる。

< 男性 年齢別 >



< 女性 年齢別 >



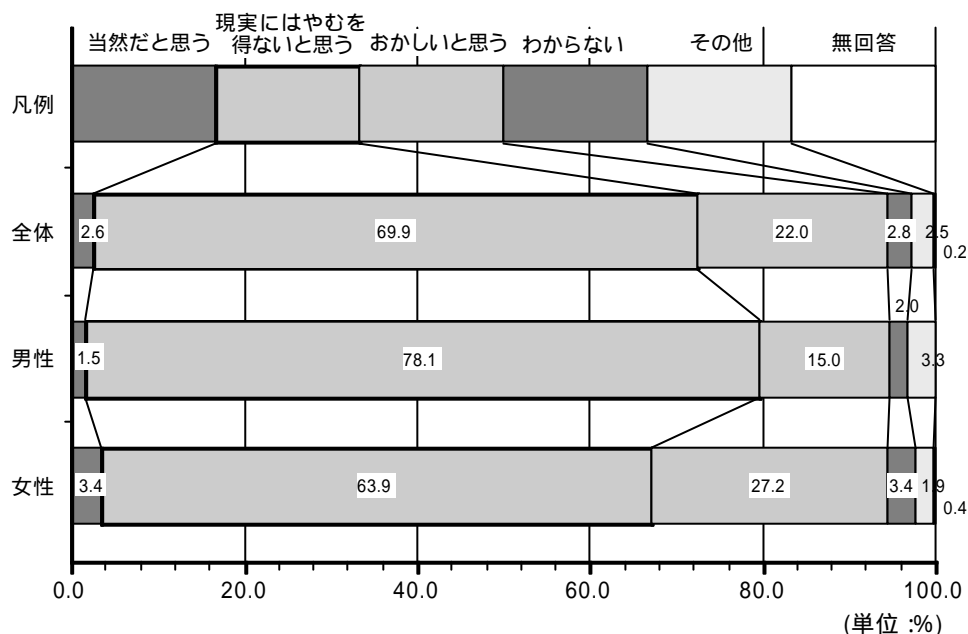
年齢別にみると、若い年代ほど「介護したことがない」とした割合が高く、年齢が高くなるにしたがって、「自分の親」「配偶者の親」「配偶者」の介護経験の割合が高まる。特に、女性は顕著である。女性の場合、「自分の親」「配偶者の親」では40歳代以降、「配偶者」では60歳代で介護経験の割合が急激に上がる。介護する方も60歳代という“老老介護”のケースも多いようである。

3 - 2 介護の主な担い手が女性になっていることについて

問 11 病人や高齢者などの介護は、女性（母、妻、息子の妻、娘）が主な担い手となっているケースが多いのが現状ですが、あなたは、これについてどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。

男女間では意識に大きな違いがあることがうかがわれ、女性は男性が考えるほど納得していない。

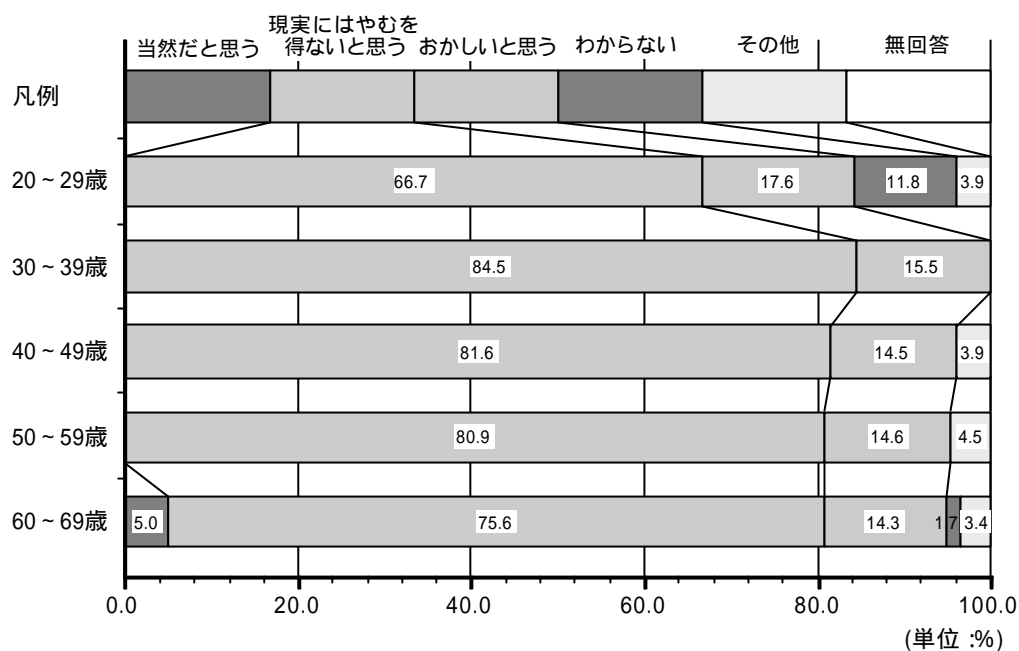
<全体>



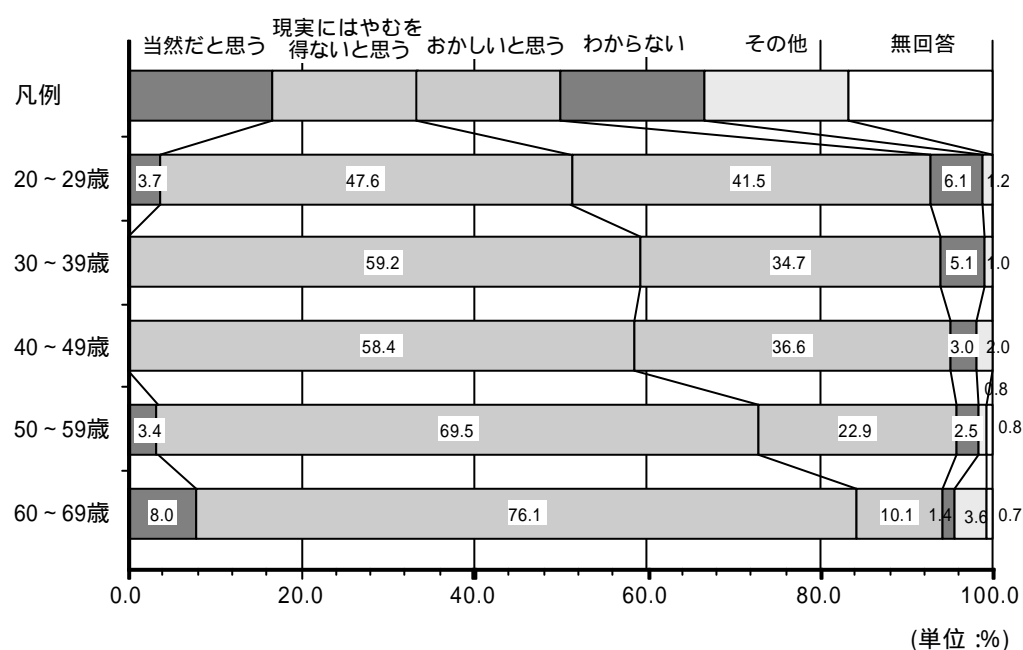
介護の主な担い手が女性であることに対し、「現実にはやむを得ないと思う」とした人が69.9%と最も多だが、「おかしいと思う」と疑問を持つ人も22.0%いる。男女別にみると、「現実にはやむを得ないと思う」とした割合が男性78.1%に対し女性63.9%と、その差は約14ポイントと大きい。逆に、「おかしいと思う」は男性15.0%、女性27.2%と、女性の方が高い。男女間では意識に大きな違いがあることがうかがわれる。女性は、男性が考えるほど納得していない。

平成7年度調査と比較すると、「当然と思う」が6.7%から、「現実にはやむを得ないと思う」が76.6%から下がり、「おかしいと思う」は11.9%からほぼ倍増している。また、男女間の差も広がっている。

< 男性 年齢別 >



< 女性 年齢別 >



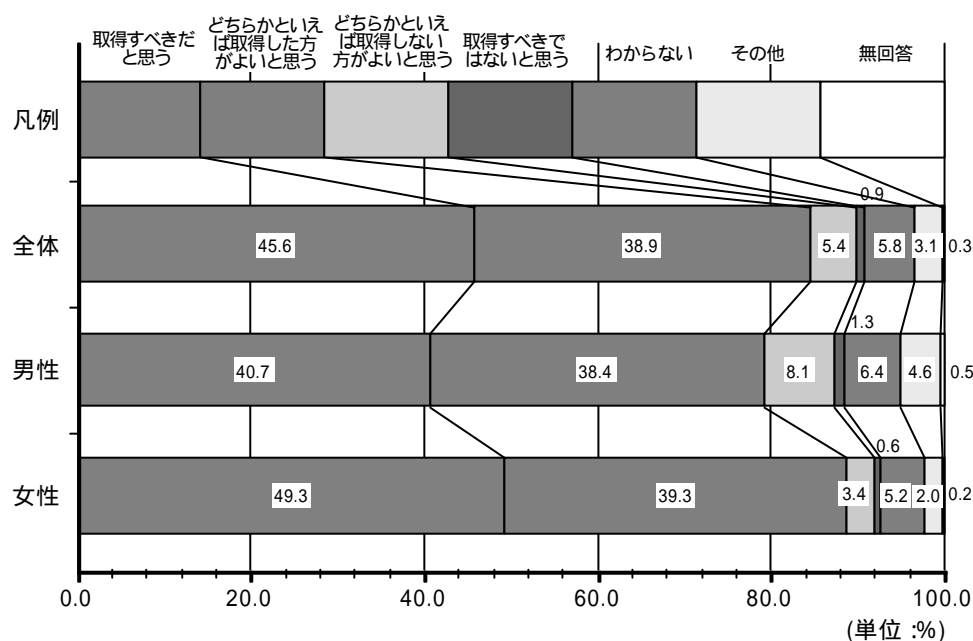
年齢別にみると、男性は20歳代で「現実にはやむを得ないと思う」の割合が低いものの、他の年代ではあまり差がない。一方、女性は年齢による差が明らかで、「当然と思う」は、ほとんど50歳代以上にしかみられない。また、年齢が上がるほど、「現実にはやむを得ないと思う」とした割合が高くなる傾向にあるが、介護経験者が増えていることと何らかの関係があるといえそうである。

3 - 3 男性の介護休業取得について

問 12 現在の法律では、男性も介護休業を女性と同様に取得できることになっていますが、男性の取得について、あなたはどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。

介護への男性の参加が切実に求められ、男性の側も取り組みの必要性を認識している。

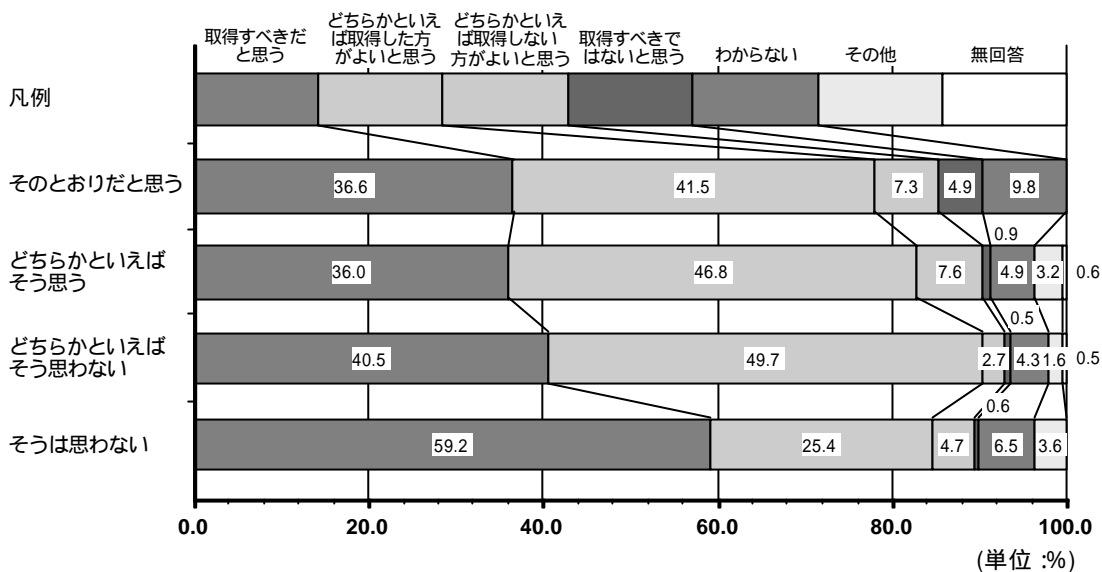
<全体>



男性も介護休業を「取得すべきだと思う」は 45.6%、「どちらかといえば取得した方がよいと思う」は 38.9%で、両方を合わせた肯定派は 84.5%を占める。これは、問 8 の育児休業取得に比較して肯定派の割合が高い。育児休業取得では、「子育ては母親がするもの」という意識が強いのに比べ、介護への男性の参加が切実に求められ、男性の側も取組みの必要性を強く認識しているものと考えられる。

男女別では、男性は肯定派が 79.1%、女性は 88.6%と、男性より女性の方が肯定派が多い。これも育児休業取得と同様である。男性は、現実には仕事を休めないという意識が働くためであろうか。

<問1とのクロス>



問1の「男は仕事、女は家庭」という考え方の回答とのクロス集計を試みた。「男は仕事、女は家庭」という考え方を「そのとおりだと思う」とした人では介護休業を「取得すべきだと思ふ」は36.6%であるのに対し、「そうは思わない」とした人では「取得すべきだと思ふ」59.2%と過半を占める。

育児休業取得と同様に、「男は仕事、女は家庭」という考え方に否定的なほど、介護休業の取得に肯定的であるいえる。

性別役割分担意識と介護休業の取得をめぐる意識との間には、何らかの関係がみられるといえそうである。

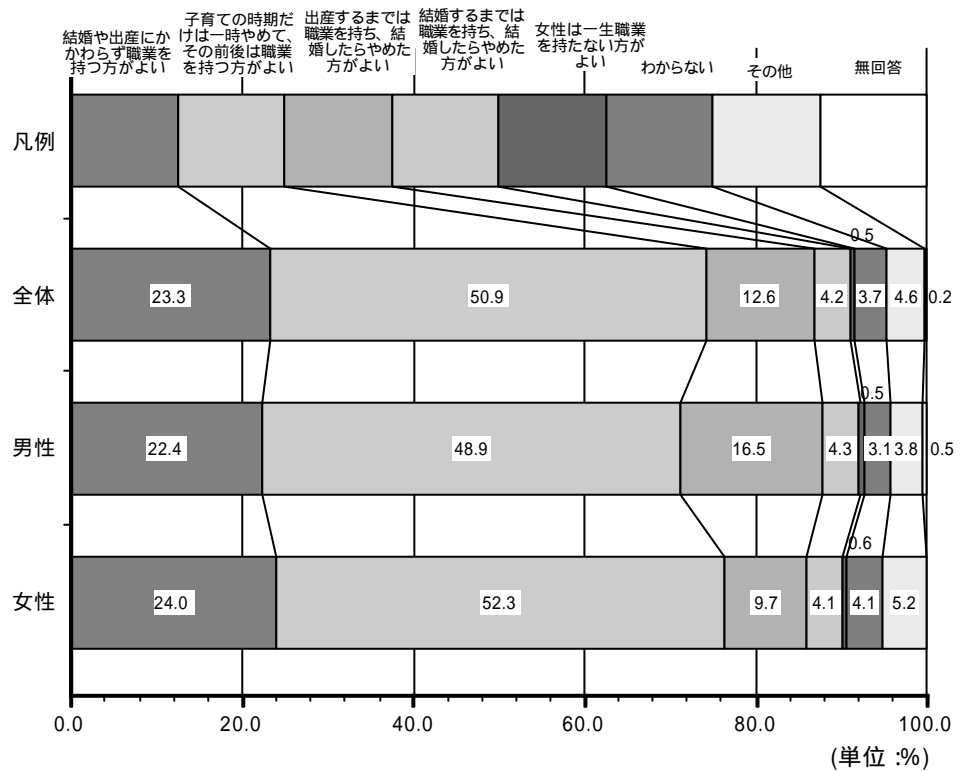
4 仕事や地域活動について

4 - 1 女性が職業を持つことについて

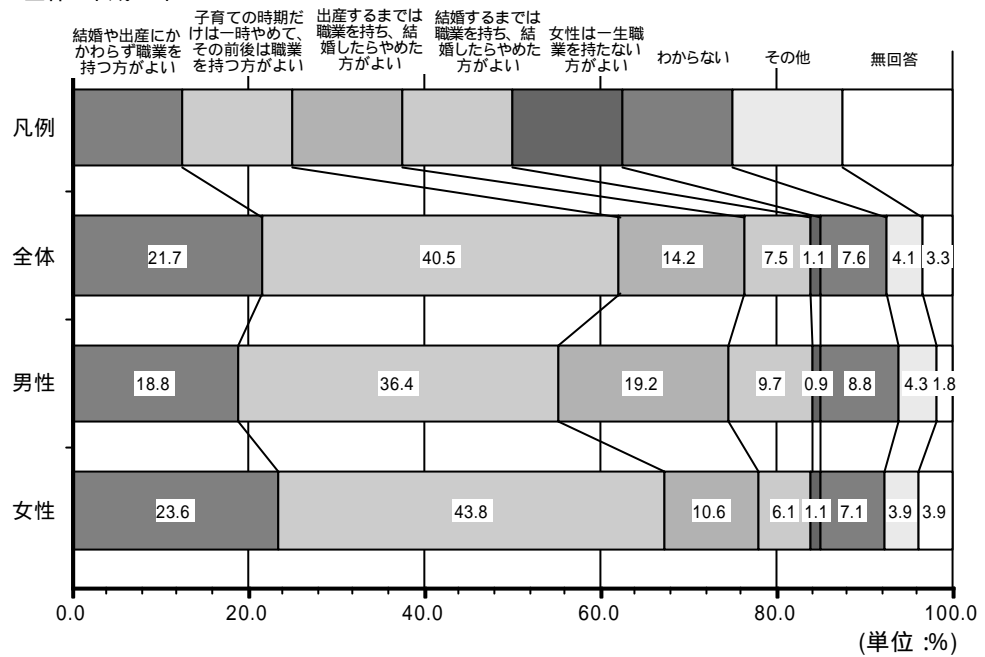
問 13 あなたは、女性が職業を持つことについてどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。

女性の、生涯にわたり職業を持つことへの意欲の高さがうかがわれる。

< 全体 平成12年 >

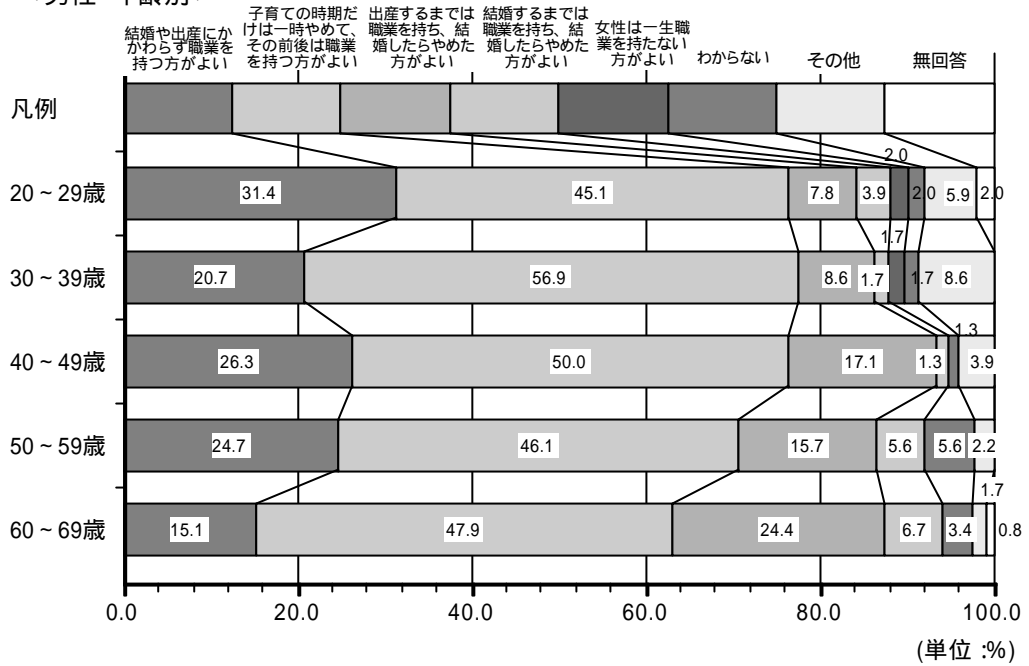


<全体 平成7年>

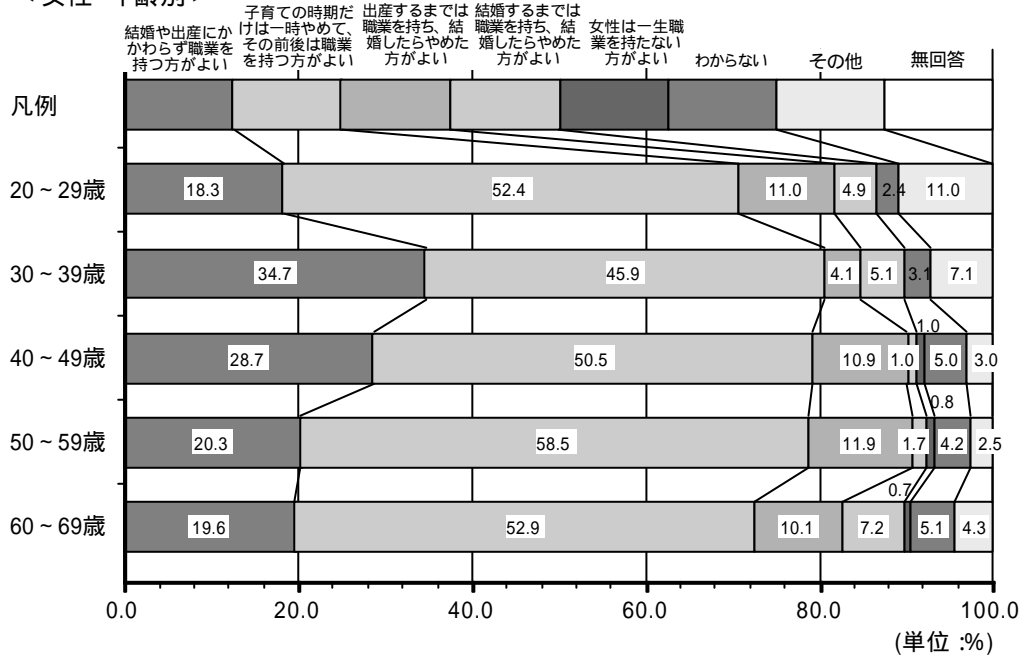


「子育ての時期だけ一時やめて～」とした割合が最も高く、50.9%を占める。次いで「結婚や出産にかかわらず～」(23.3%)、「出産するまでは職業を持ち～」(12.6%)の順である。女性が生涯にわたって職業を持つことを肯定する人が大半である。男女別にみると、「子育ての時期だけ一時やめて～」「結婚や出産にかかわらず～」ともに、男性に比べ女性の方が選択割合が高い。逆に「出産するまでは職業を持ち～」「結婚するまでは職業を持ち～」では男性の方が割合が高い。女性の生涯にわたり職業を持つことへの意欲の高さがうかがわれる。平成7年度調査と比べ、女性が生涯にわたり職業を持つことを肯定する人の割合が大幅に増加している。

< 男性 年齢別 >



< 女性 年齢別 >



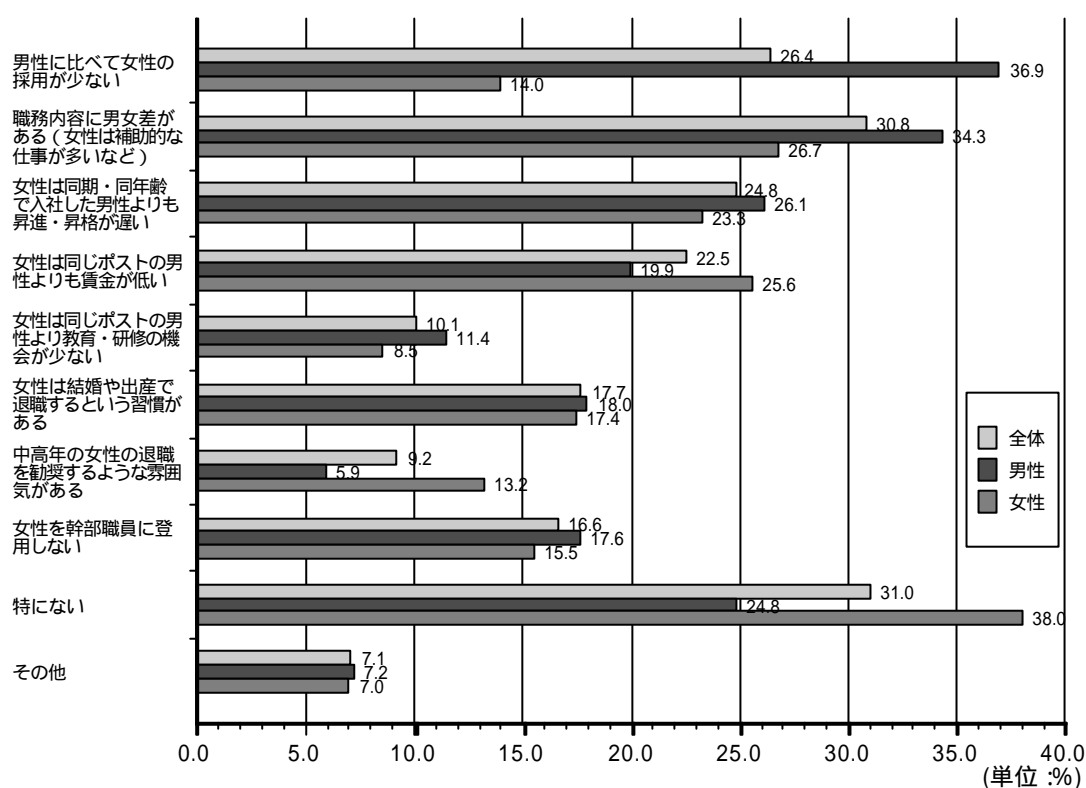
年齢別にみると、男性は年齢が若いほど肯定的であり、年齢が高くなると「出産するまで」「結婚するまで」と制約する傾向にある。女性は、肯定派の割合が30歳代で最も高く、年齢が上がるとともに低下する。また、20歳代では「出産するまで」「結婚するまで」と考えている割合が高い。これは男性20歳代も同様であり、未婚あるいは子供がいない状態では、意外に制約を考えるものと推測される。

4 - 2 改正男女雇用機会均等法施行後の女性の職場状況について

問 14 現在、仕事をしている方におたずねします。平成 11 年 4 月 1 日、改正男女雇用機会均等法が全面施行されました。あなたの職場では、現在、女性に対して次のようなことはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

職場での男女の待遇格差は多様に存在している様子が見られる。

< 全体 >



職場での男女の待遇格差としては、「職務内容に男女差がある」とした割合が最も高く、30.8%である。次いで、「男性に比べ女性の採用が少ない」(26.4%)、「昇進・昇格が遅い」(24.8%)、「男性よりも賃金が低い」(22.5%)、「結婚や出産で退職する習慣がある」(17.7%)、「幹部職員に登用しない」(16.6%)の順である。また、「特にない」は31.0%である。特に割合の高い項目はなく、逆に多様な待遇格差が存在している様子が見られる。

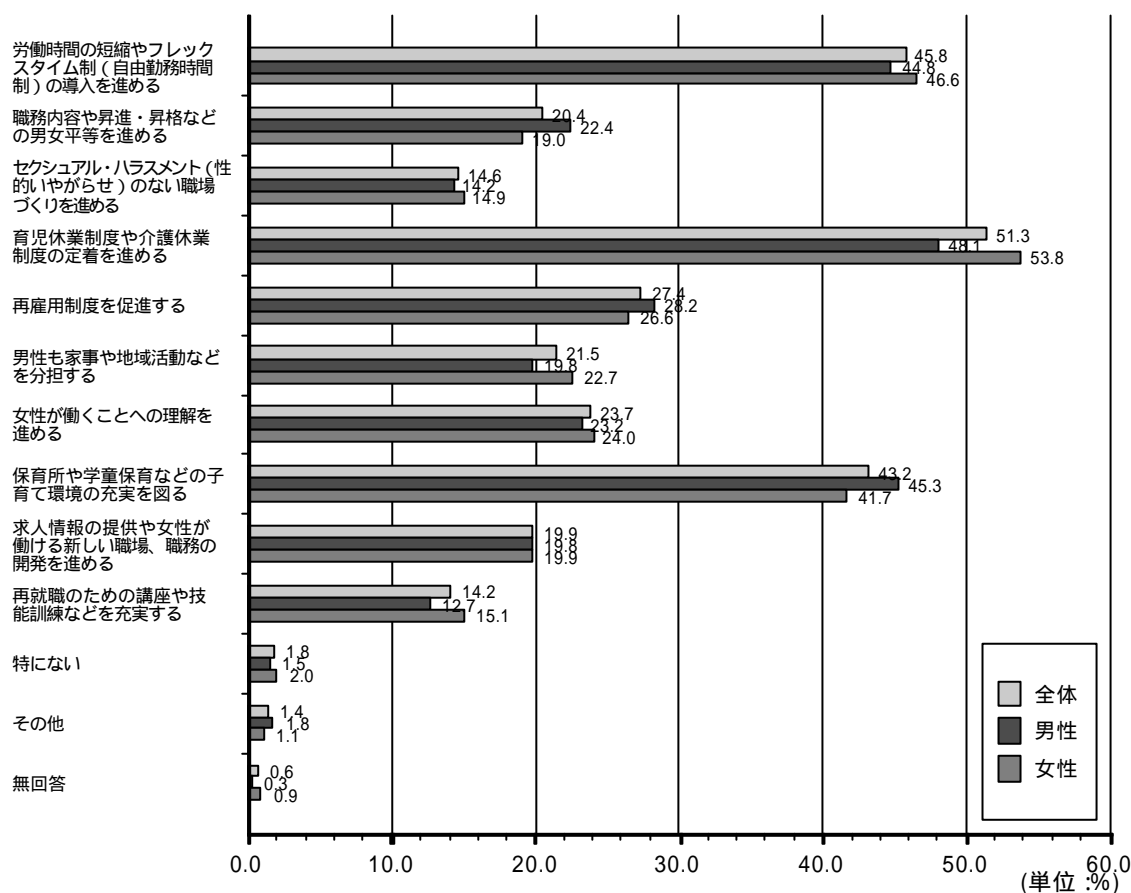
男女別にみると、項目により男女の差が大きいものがある。「中高年の女性の退職を奨励するような雰囲気がある」は、男性5.9%に対し、女性は13.2%と高い。逆に「女性の採用が少ない」は男性では36.9%とトップであるのに、女性では14.0%と多くない。「特にない」も、男性24.8%に対し、女性は38.0%と最も高い。これは、設問が現在就業中の女性だけに回答を求めている影響であると思われる。

4 - 3 女性が働きやすい環境づくりについて

問 15 女性が働きやすい環境をつくるうえで、あなたは、今後どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたが特に重要だと思うものを3つ以内で選んでください。

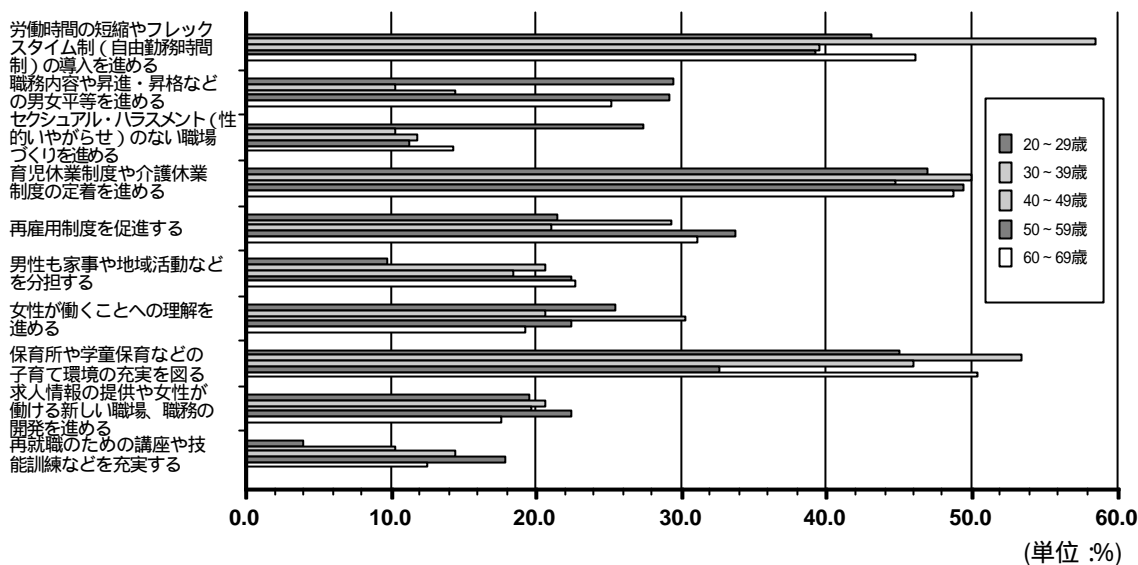
「育児休業制度や介護休業制度の定着を進める」が最も多い。

<全体>

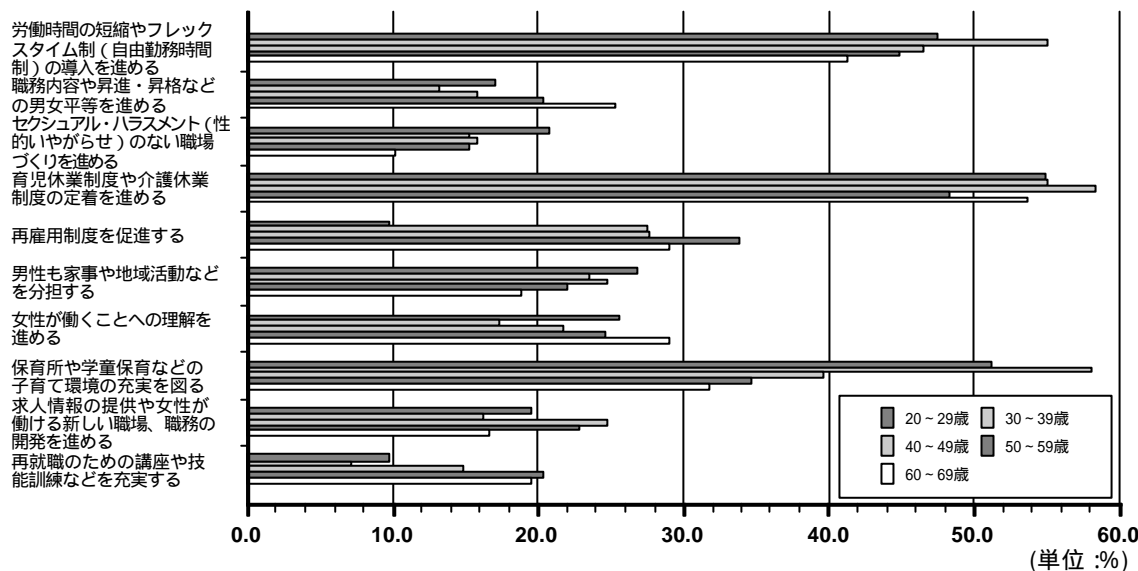


女性が働きやすい環境をつくるうえで必要とされている事項は、「育児休業制度や介護休業制度の定着を進める」が51.3%と最も多く、次いで「労働時間の短縮やフレックスタイム制の導入を進める」(45.8%)、「保育所や学童保育などの子育て環境の充実を図る」(43.2%)が上位を占める。これらはいずれも、女性の就労を考える上での大きな課題である、子育てや介護と仕事の両立を図っていくために必要とされる事項である。男女別にみても、「育児休業制度や介護休業制度の定着を進める」で女性の割合が、「保育所や学童保育などの子育て環境の充実を図る」で男性の割合がやや高い程度で、ほとんど同じである。男女の意識がよく一致している。

< 男性 年齢別 >



< 女性 年齢別 >



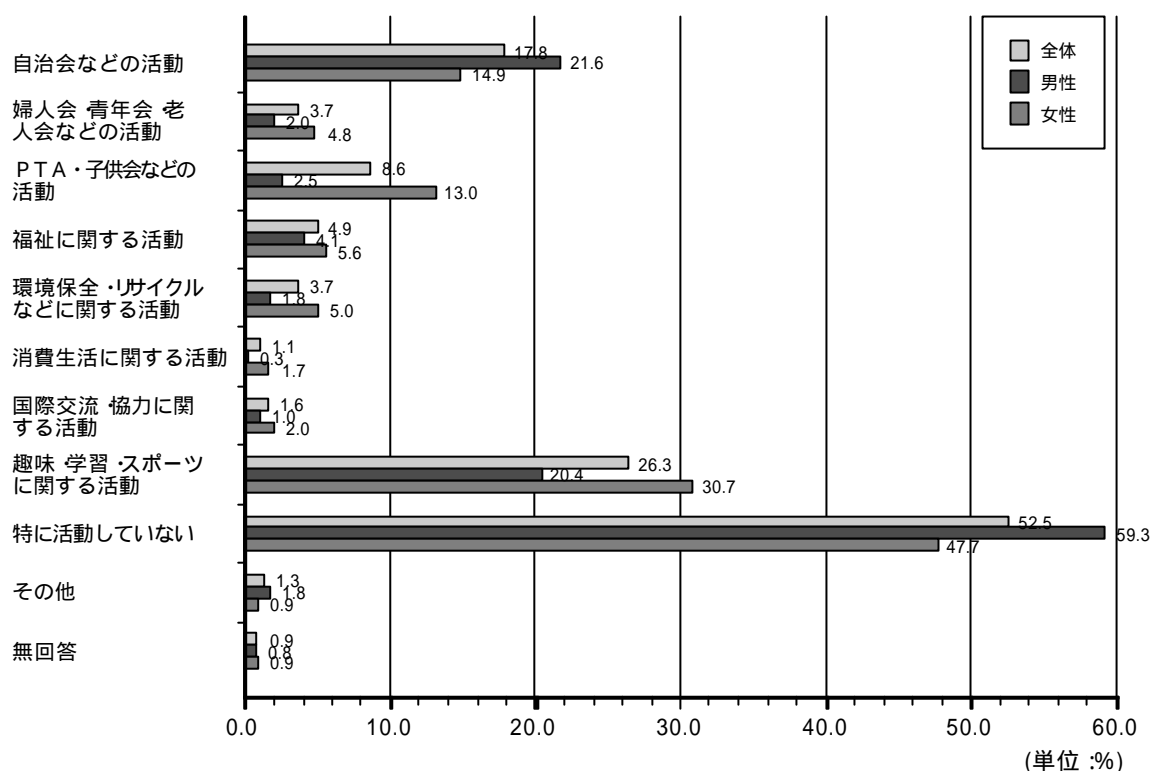
年齢別にみると、「労働時間の短縮やフレックスタイム制の導入を進める」は男女ともに30歳代の割合が高く、子育てに忙しい姿がうかがわれる。「育児休業制度や介護休業制度の定着を進める」は男女ともに、ほぼすべての年代で割合が高い。また、「保育所や学童保育などの子育て環境の充実を図る」は、男性ではすべての年代、女性では20歳代、30歳代で割合が高い。なお、「セクシュアル・ハラスメントのない職場づくり」は、男女ともに20歳代の割合が突出している点が注目される。

4 - 4 地域活動への参加について

問 16 あなたは、現在、どのような地域活動をしていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

女性の方が地域活動への参加が活発である。

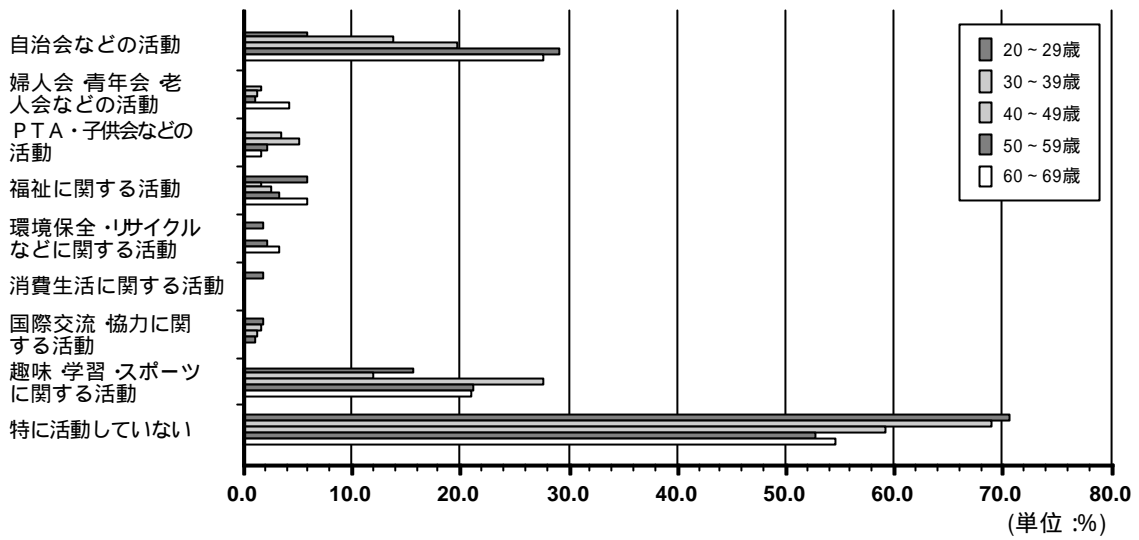
<全体>



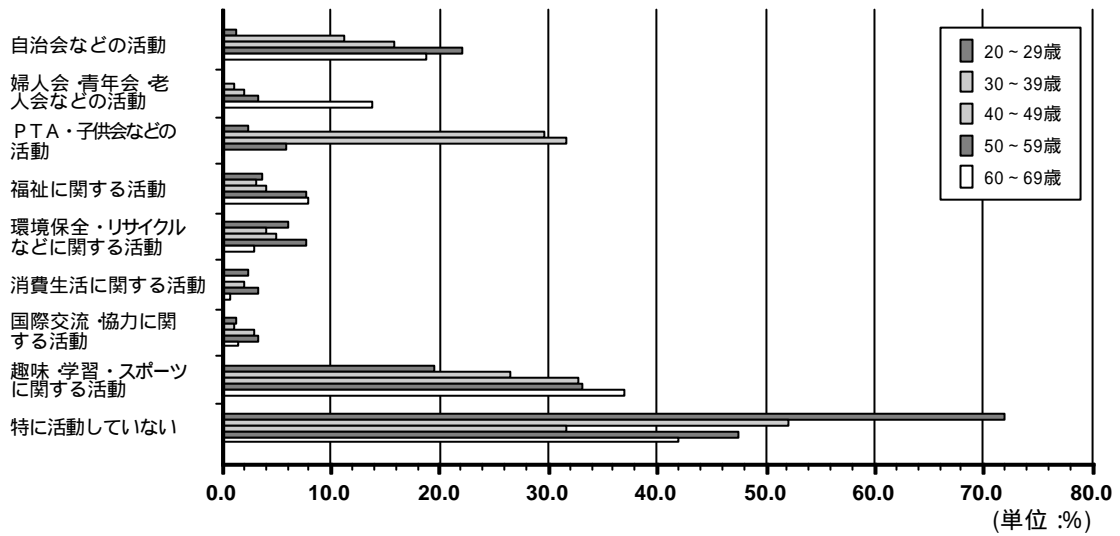
「特に活動していない」とした人が52.5%と過半を占める。行われている地域活動のなかでは、「趣味・学習・スポーツに関する活動」が26.3%と最も多く、次いで「自治会などの活動」(17.8%)、「P T A ・子ども会などの活動」(8.6%)、「福祉に関する活動」(4.9%)の順である。平成7年度調査に比べ、「特に活動していない」の割合が高まり、「趣味・学習・スポーツに関する活動」を除くとそれぞれ活動している割合が低下している。

男女別にみると、「特に活動していない」とした割合が男性59.3%に対し女性47.7%と、女性の方が地域活動への参加が活発である。また、活動ごとの割合にも差がみられ、「自治会などの活動」は男性の方が割合が高く、逆に「P T A ・子ども会などの活動」「趣味・学習・スポーツに関する活動」をはじめとして他の活動では女性の割合の方が高い。

< 男性 年齢別 >

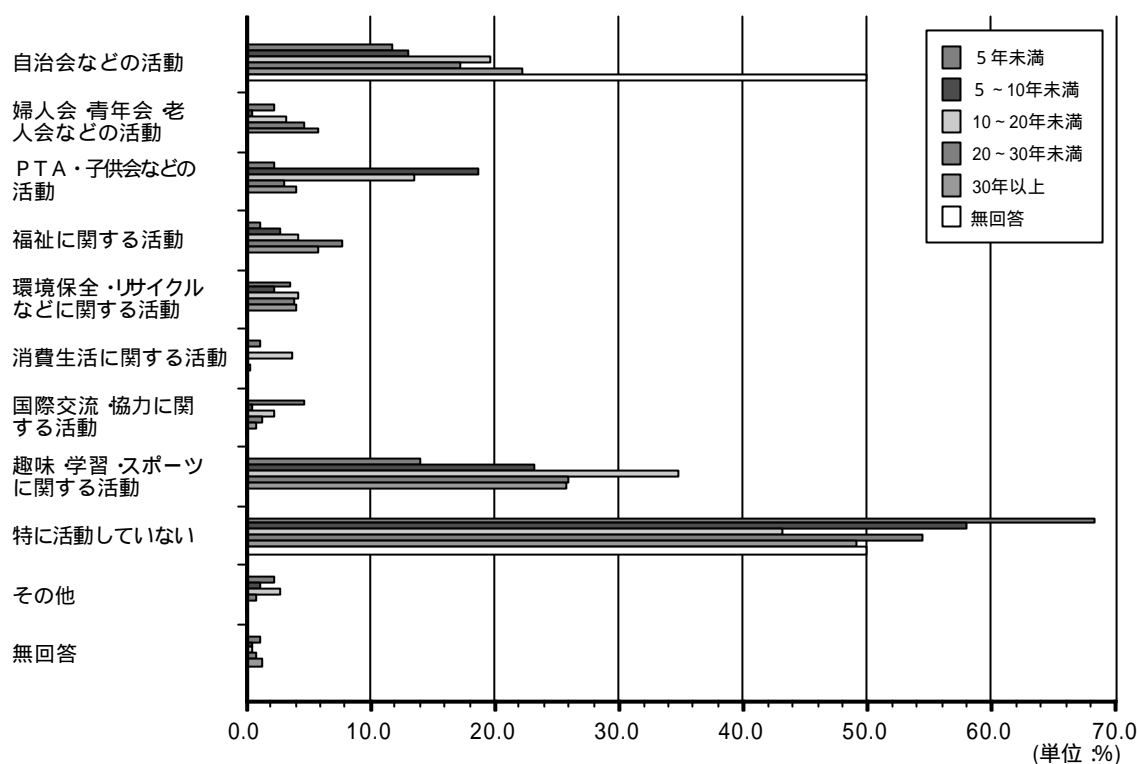


< 女性 年齢別 >



年齢別にみると、男女ともに年齢が高い方が地域活動に参加する割合が高い。特に、「自治会などの活動」ではその傾向が顕著である。また、「P T A・子ども会などの活動」は児童・生徒を子供に持つことが多い30歳代と40歳代の女性に集中している。

< 居住年数別 >



居住年数別にみると、居住年数が短いほど「特に活動していない」とした割合が高い。逆に、「自治会などの活動」に顕著なように、居住年数が長い方が参加する割合が多い傾向がある。「P T A ・ 子 ども 会 等 の 活 動」に5～10年未満、10～20年未満が多いのは、子供が生まれたのを契機に住宅を購入するなど、子供の年齢と人間市へ移ってくる時期に深い関係があるためと推測される。

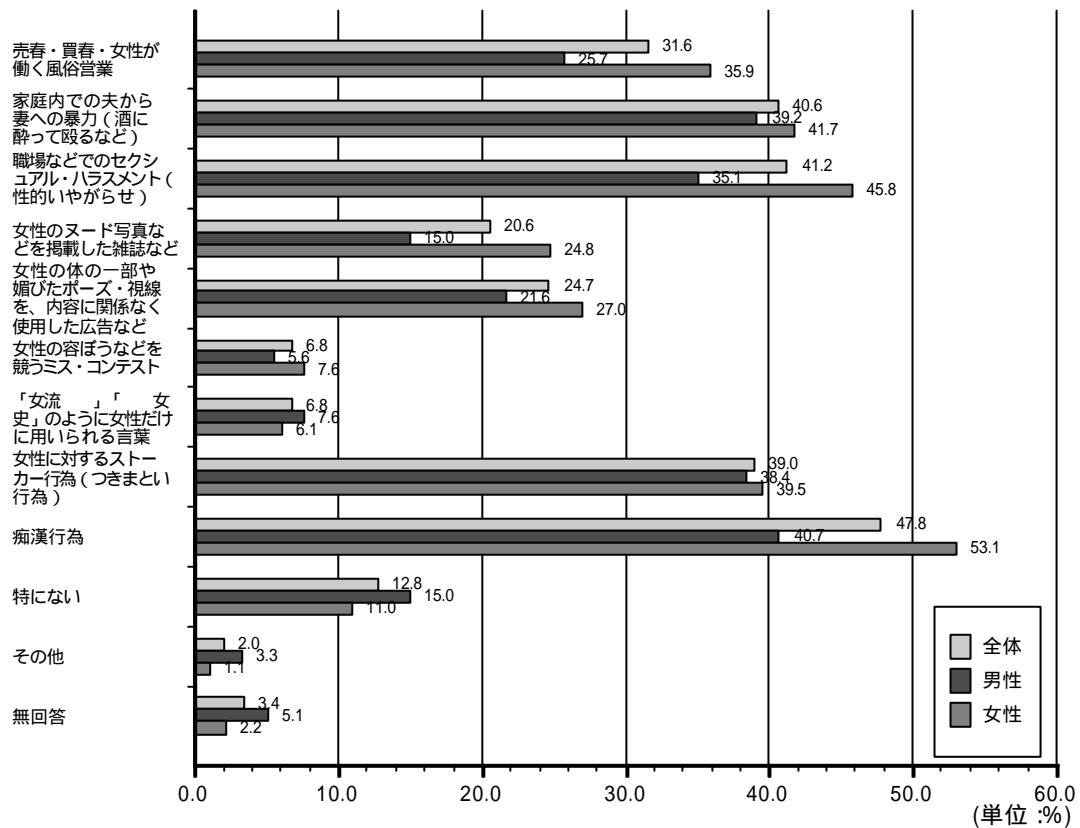
5 女性の人権や悩みの相談について

5 - 1 女性の人権の尊重について

問 17 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。
次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

女性の、被害者となる立場からの人権尊重への切実な思いがうかがわれる。男性が思うほど寛容ではない。

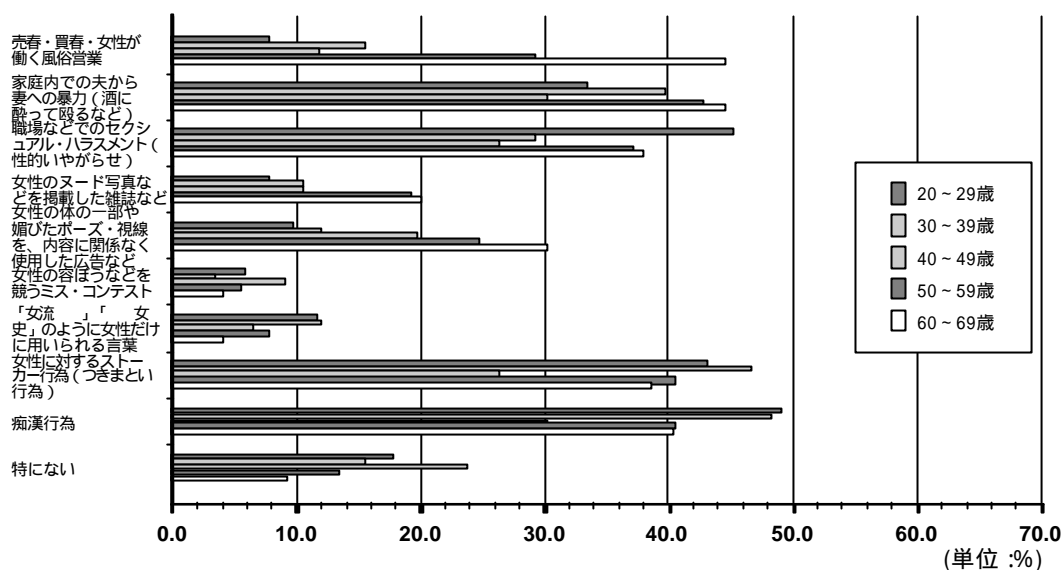
< 全体 >



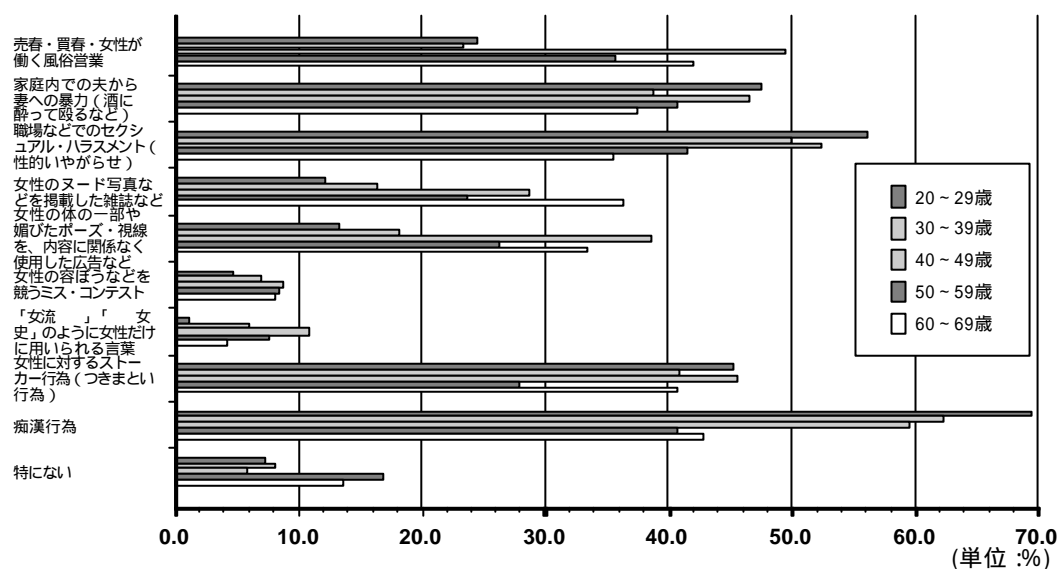
女性の人権が尊重されていないと感じるのは、「痴漢行為」が 47.8%と最も多く、次いで「職場などでのセクシュアル・ハラスメント」(41.2%)、「家庭内での夫から妻への暴力」(40.6%)、「女性に対するストーカー」(39.0%)の順である。

男女の意識の違いも大きく、「痴漢行為」「職場などでのセクシュアル・ハラスメント」「売春・買春・女性が働く風俗営業」では、女性の割合が男性を大きく上回る。被害者となる立場からの、女性の人権尊重への切実な思いがうかがわれる。男性が思うほど寛容ではない。

< 男性 年齢別 >



< 女性 年齢別 >



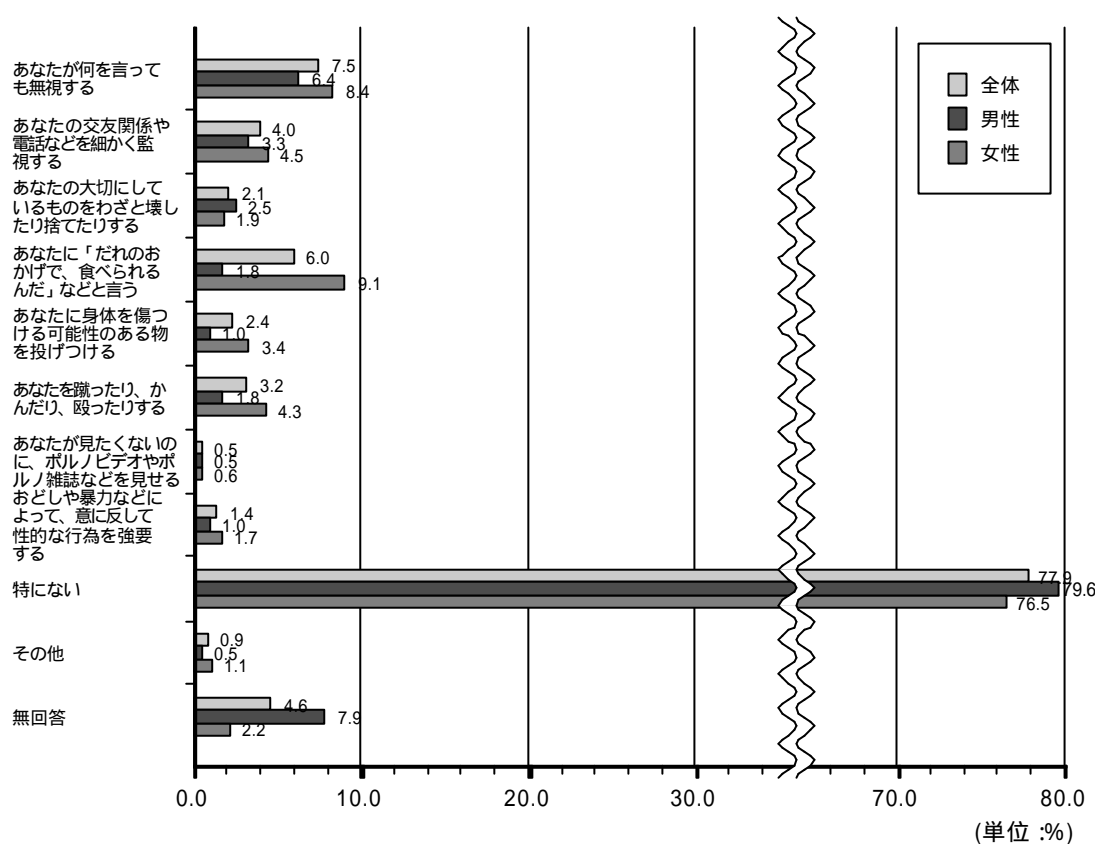
年齢別にみると、「痴漢行為」「職場などでのセクシュアルハラスメント」「女性に対するストーカー」では、男女ともに年齢の若い方が尊重されていないと感じる割合が高く、逆に「売春・買春・女性が働く風俗営業」「女性のヌード写真を掲載した雑誌など」「女性の体の一部や媚びたポーズを使用した広告など」では、年齢が高い方が尊重されていないと感じる割合が高い。

5 - 2 配偶者などからの暴力について

問 18 あなたはこれまでに、配偶者やパートナーなどから次のようなことをされたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

2割以上の方が、何らかの行為を受けた経験があるとしている。

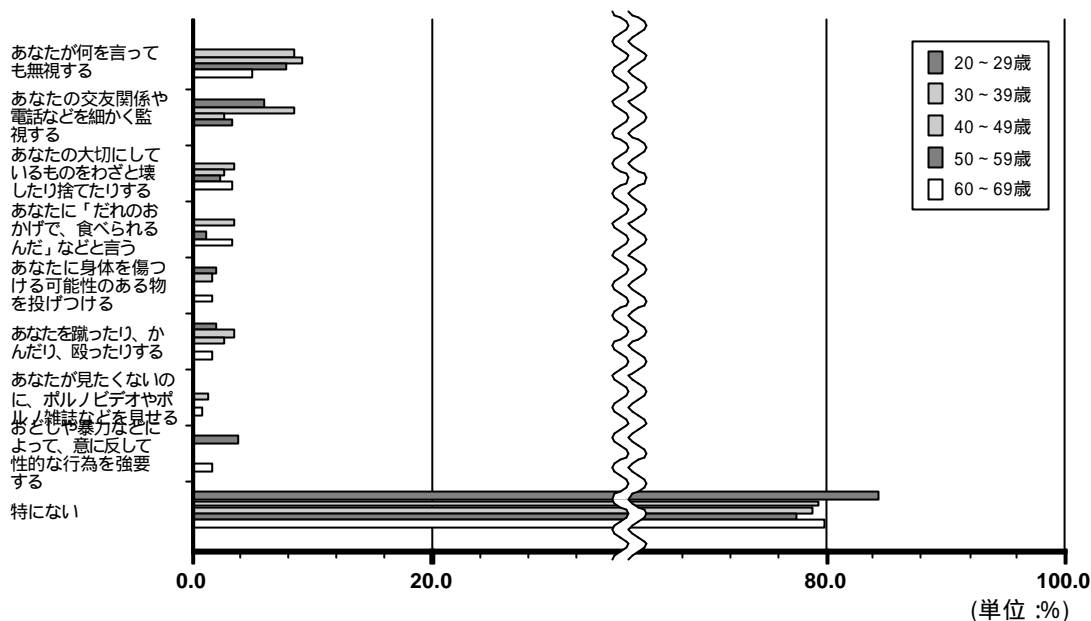
<全体>



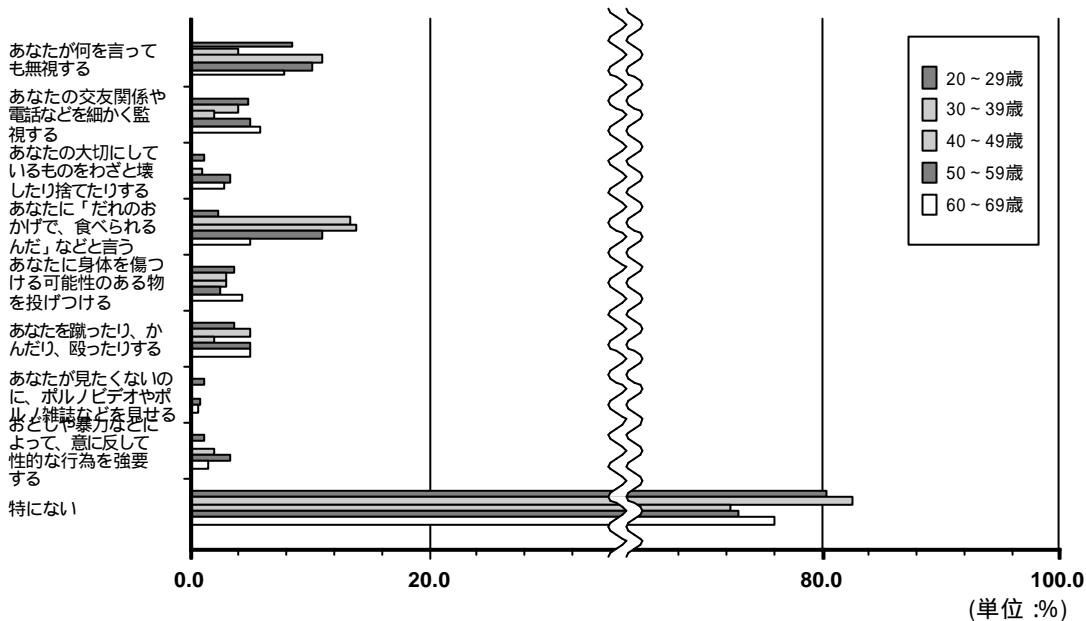
配偶者やパートナーからの暴力については、2割以上の方が、何らかの行為を受けた経験があるとしている。暴力を受けた内容は、「何を言っても無視する」(7.5%)、「だれのおかげで食べられるんだなどと言う」(6.0%)、「交友関係や電話などを監視する」(4.0%)、「蹴ったり、かんだり、殴ったりする」(3.2%)の順である。

男女別にみると、「だれのおかげで食べられるんだなどと言う」「蹴ったり、かんだり、殴ったりする」などは、男女間で違いが大きい。女性が、いわゆるドメスティックバイオレンス(家庭内暴力)の被害者になり易い傾向を示している。

< 男性 年齢別 >



< 女性 年齢別 >



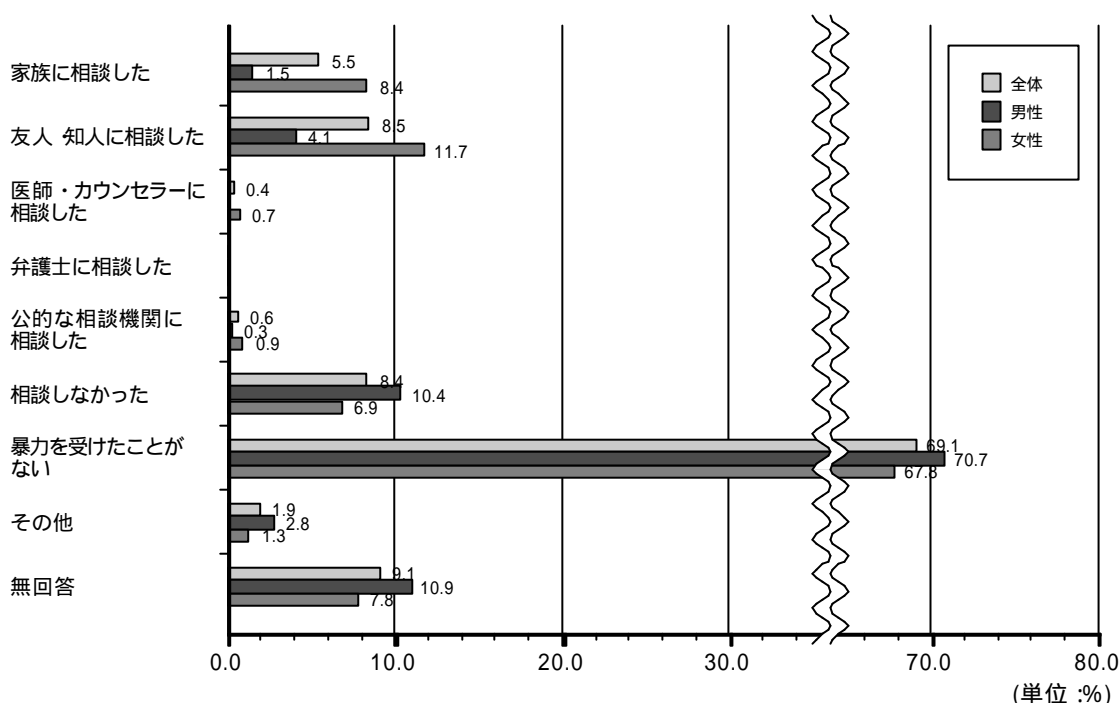
年齢別の違いは大きくないが、「交友関係や電話などを監視する」では男性の20歳代、30歳代の突出が目立つ。また、女性では「だれのおかげで食べられるんだなどと言う」で30歳代から50歳代の割合が高い。

5 - 3 配偶者などからの暴力に対する相談について

問 19 あなたは配偶者やパートナーなどから暴力（言葉により暴力等も含む）を受けたことについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

「医師・カウンセラーに相談した」「公的な機関に相談した」は、ごくわずかである。

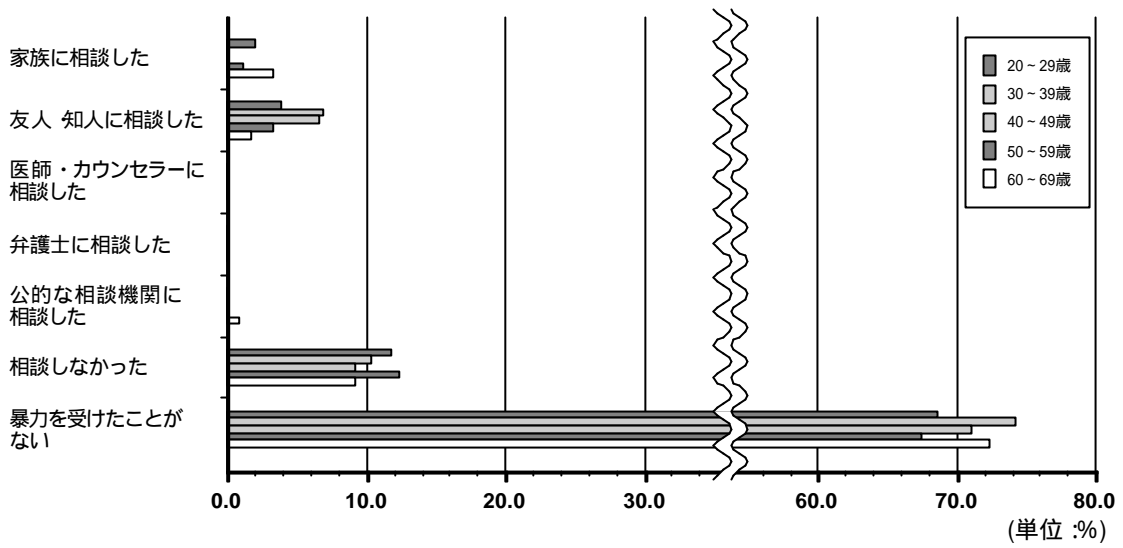
<全体>



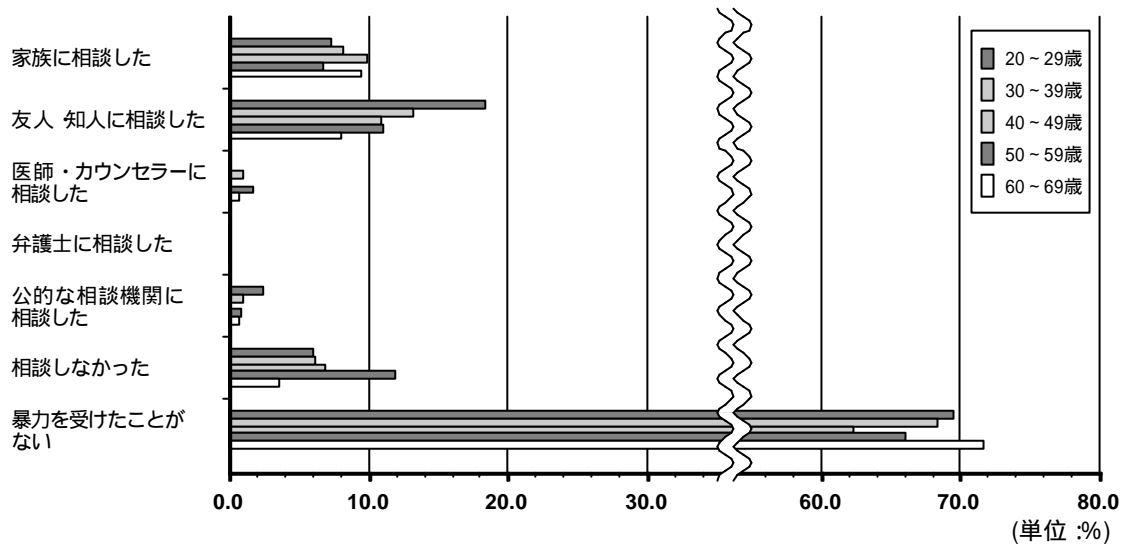
相談以前に、「暴力を受けたことがない」が69.1%で最も多い。これは、問18の暴力を受けた経験が「特になし」と一致する。相談相手としては、「友人・知人に相談した」(8.5%)、「家族に相談した」(5.0%)でほとんどであり、「医師・カウンセラーに相談した」「公的な相談機関に相談した」は、ごくわずかである。また、「相談しなかった」が8.4%ある。身近な人を相談相手に選んでいることがうかがわれることから、家庭内のこととして表面化しづらいものと推測される。

男女別にみると、男性は「相談しなかった」が多く、次いで「友人・知人に相談した」「家族に相談した」の順である。これに対し女性では、「友人・知人に相談した」が最も多く、次いで「家族に相談した」であり、「相談しなかった」を上回る。

< 男性 年齢別 >



< 女性 年齢 >



年齢別にみると、男性は「友人・知人に相談した」で30歳代、40歳代の割合が高い以外、年代による違いは小さい。女性もあまり年代による差はみられないが、「友人・知人に相談した」では年齢が若い方の割合が高い。

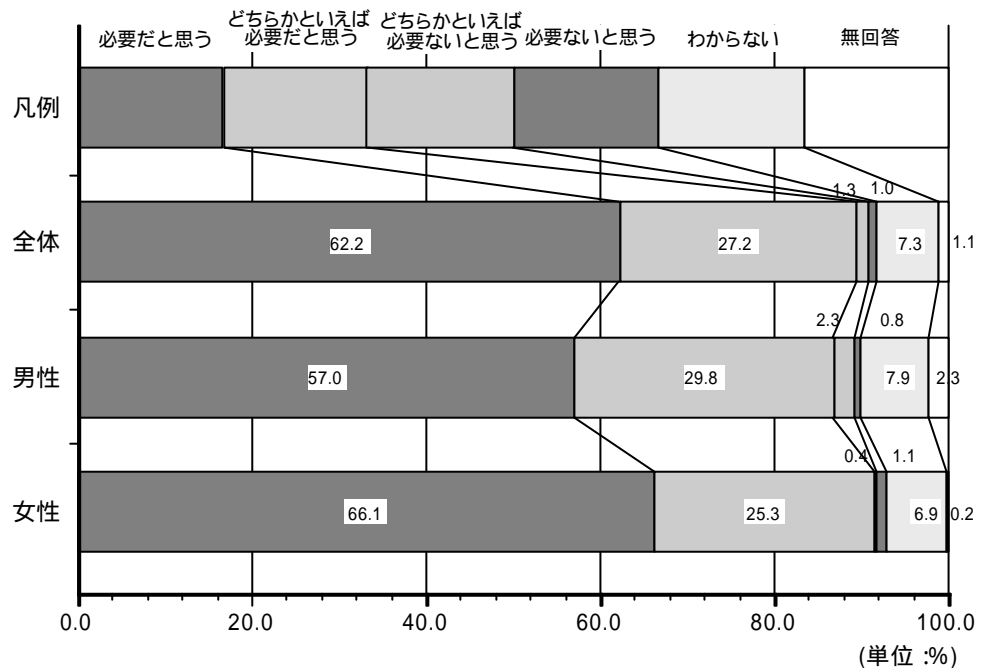
6 女性の社会参画について

6 - 1 女性の意見の反映について

問 20 あなたは、政策の企画・立案や方針決定の過程で女性の意見をもっと反映する必要があると思いますか。次の中から 1 つ選んでください。

「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」を合わせた肯定派が 9 割近くを占める。

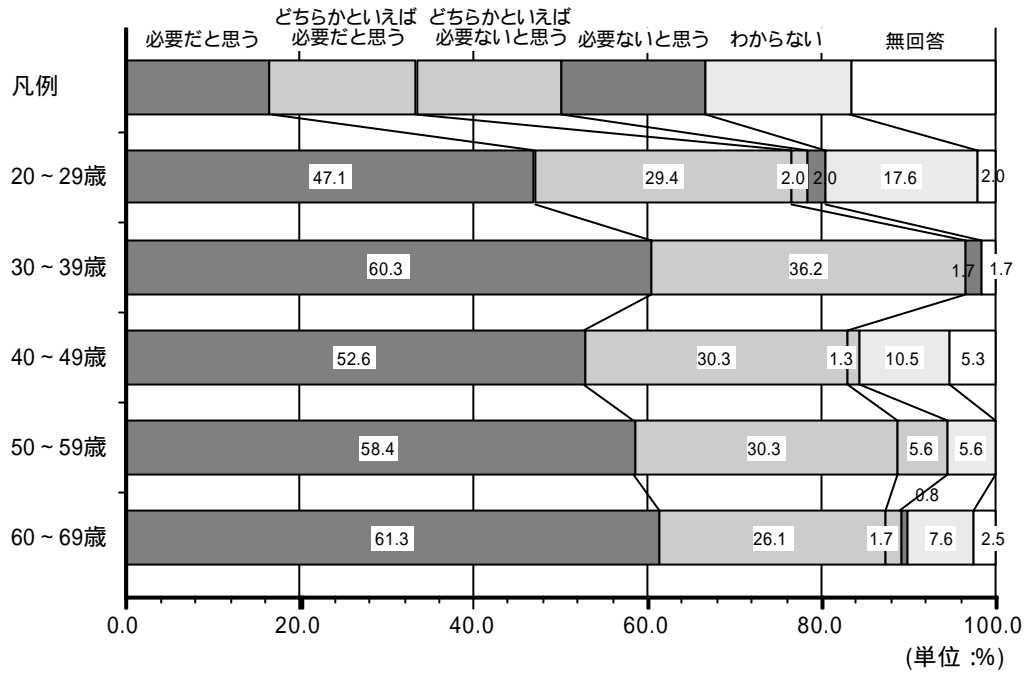
<全体>



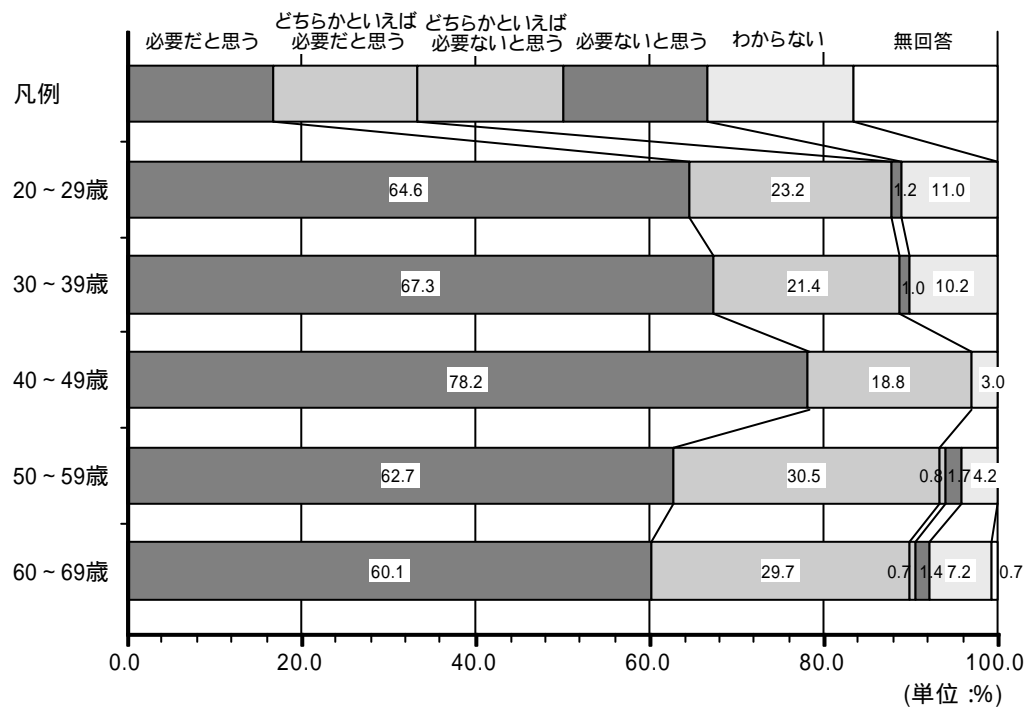
政策の企画・立案や方針決定の過程で女性の意見を反映すべきかについては、「必要だと思う」とした割合が 62.2%と最も高く、「どちらかといえば必要だと思う」(27.2%)を含めた肯定派合計では 9 割近くを占める。

男女別にみると、男性の肯定派が 86.8%、女性が 91.4%とどちらも高いものの、女性の方がよりその必要性を感じている。

< 男性 年齢別 >

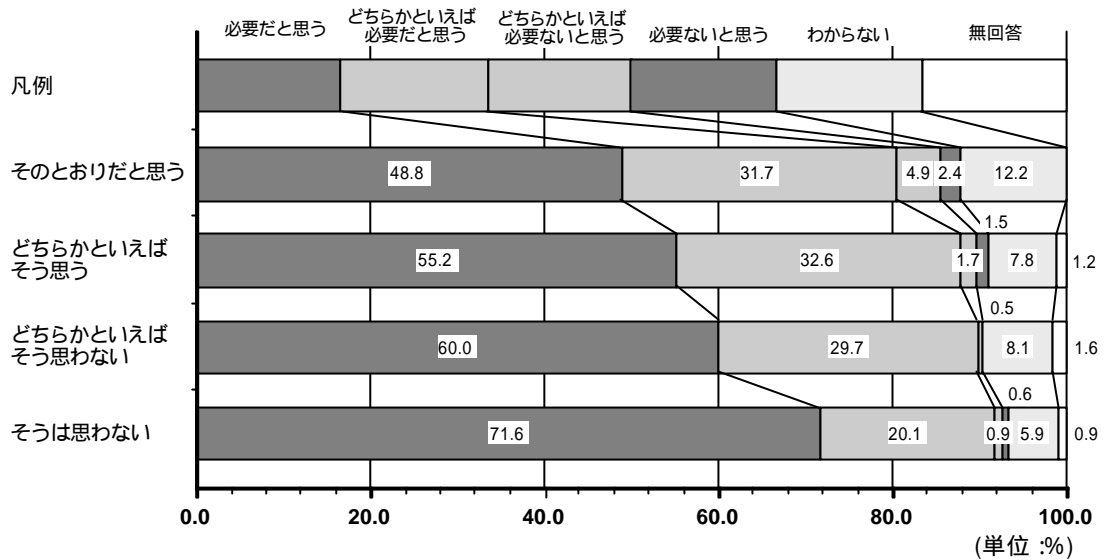


< 女性 年齢別 >



年齢別にみると、男女ともに各年代で肯定派が大半を占めるものの、男性 20 歳代 (76.5%) がやや低く、逆に男性 30 歳代 (96.5%)、女性 40 歳代 (97.0%) が特に高い。

<問1とのクロス>

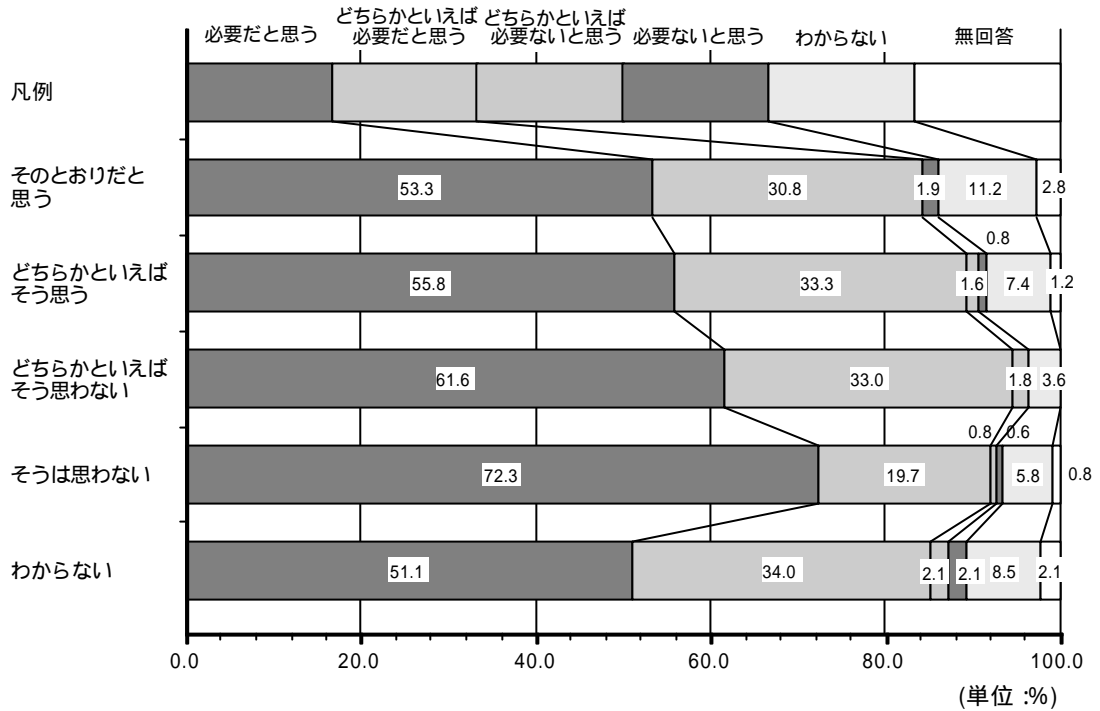


問1の「男は仕事、女は家庭」という考え方の回答とのクロス集計を試みた。「男は仕事、女は家庭」という考え方を「そのとおりだと思う」とした人では女性の意見の反映を「必要だと思う」は48.8%にとどまり、逆に「必要ないと思う」が2.4%あるのに対し、「そうは思わない」とした人では「必要だと思う」が71.6%を占め、「必要ないと思う」はわずかに0.6%である。

「男は仕事、女は家庭」という考え方に否定的なほど、政策の企画などへの女性の意見の反映に肯定的であるいえる。

性別役割分担意識と女性の意見の反映を必要とする立場との間には、何らかの関係がみられるといえそうである。

<問3オとのクロス>



問3オの「自治会などの団体の代表は、男性がなった方がうまくいくと思う」とのクロス集計を試みる。「代表は男性がなった方がうまくいくと思う」において「そのとおりだと思う」とした人では、女性の意見の反映を「必要だと思う」は53.3%、逆に「必要ないと思う」が1.9%であるのに対し、「そうは思わない」とした人では「必要だと思う」が72.3%を占め、「必要ないと思う」はわずかに0.6%である。

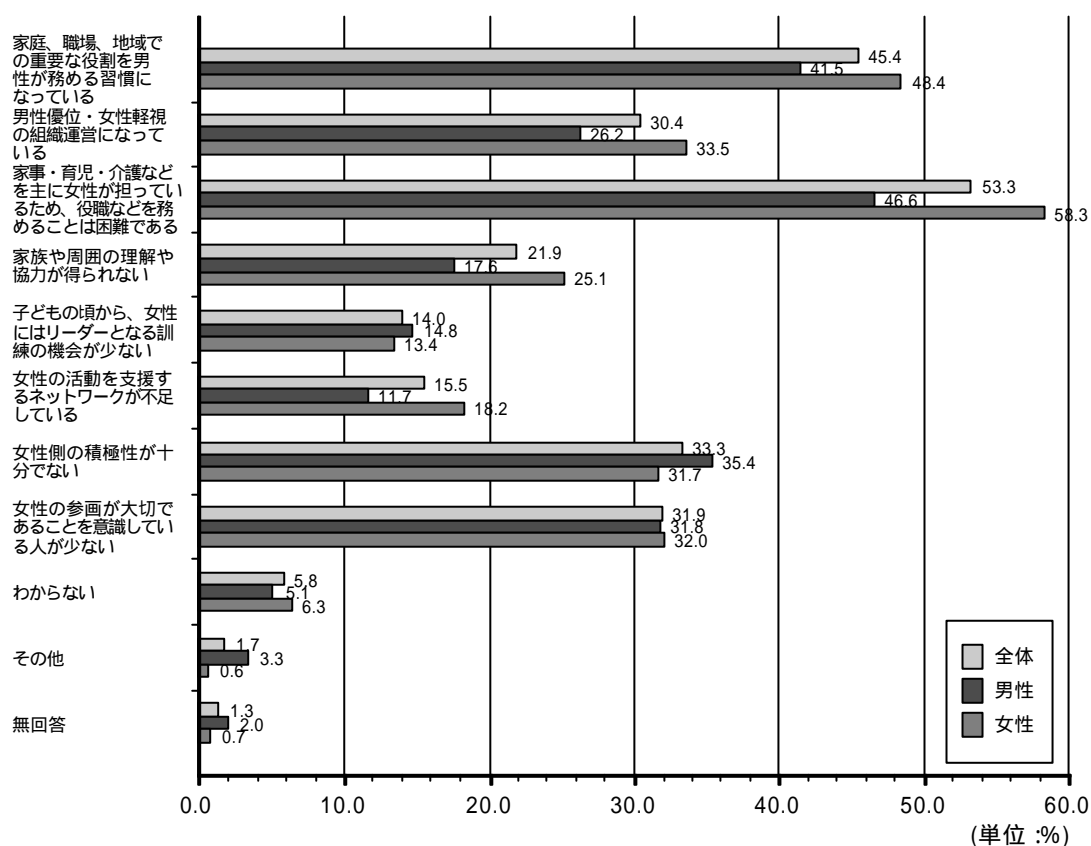
「代表は男性がなった方がうまくいくと思う」という考え方に否定的なほど、政策の企画などへの女性の意見の反映に肯定的である。

6 - 2 女性の社会参画が少ない理由について

問 21 あなたは、「リーダー」「～長」という立場や、政策の企画・立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

男性は、女性の参画の少ない理由を女性の意欲、意識に求めようとしている。

<全体>

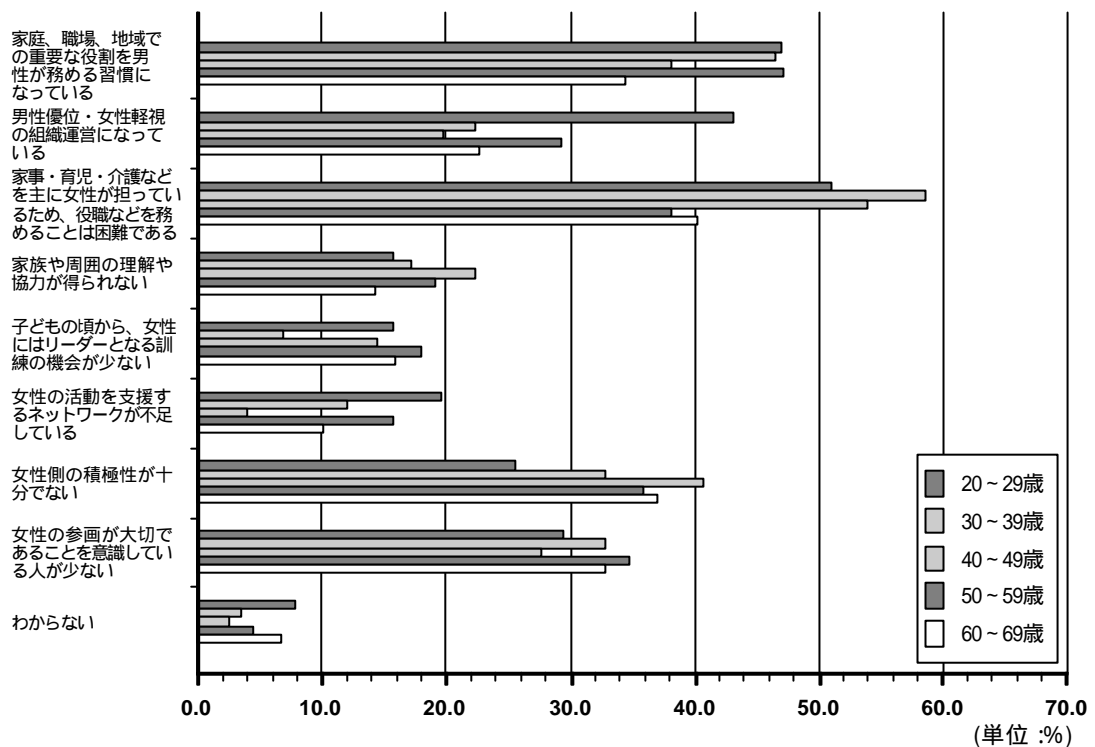


「リーダー」「～長」という立場や、政策の企画・立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由としては、「家事・育児・介護など主に女性が担っているため～」とした割合が最も高く、53.3%である。次いで「男性が重要な役割を務める習慣になっている」(45.4%)、「女性の積極性が十分でない」(33.3%)の順である。

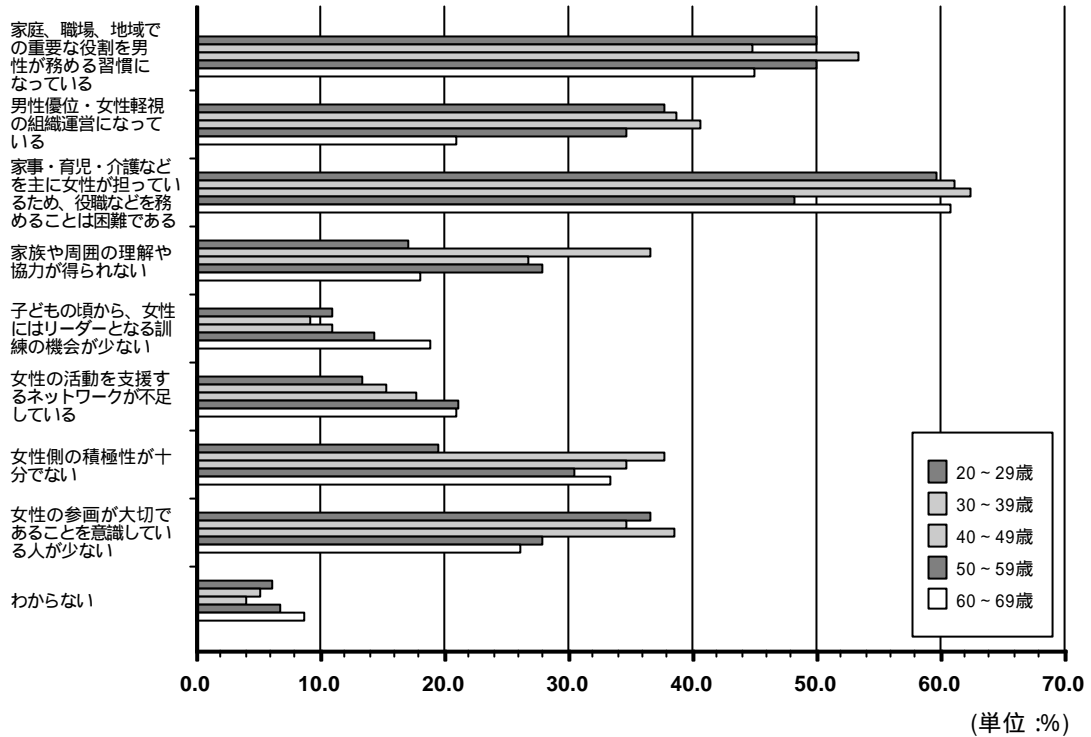
男女別にみると、項目により男女間の差がある。「家事・育児・介護など主に女性が担っているため～」「男性が重要な役割を務める習慣になっている」「男性優位・女性

軽視の組織運営～」「家族や周囲の理解や協力が得られない」など、参画する時間などの確保や参画するしくみに関する項目では女性の方が割合が高い。これに対し、「女性の積極性が十分でない」では男性の方が割合が高く、また「女性の参画を重要であることを意識している人が少ない」では男女でほぼ同じ割合である。男性は女性の参画の少ない理由を、女性の意欲・意識に求めようとしている。

< 男性 年齢別 >



<女性 年齢別>



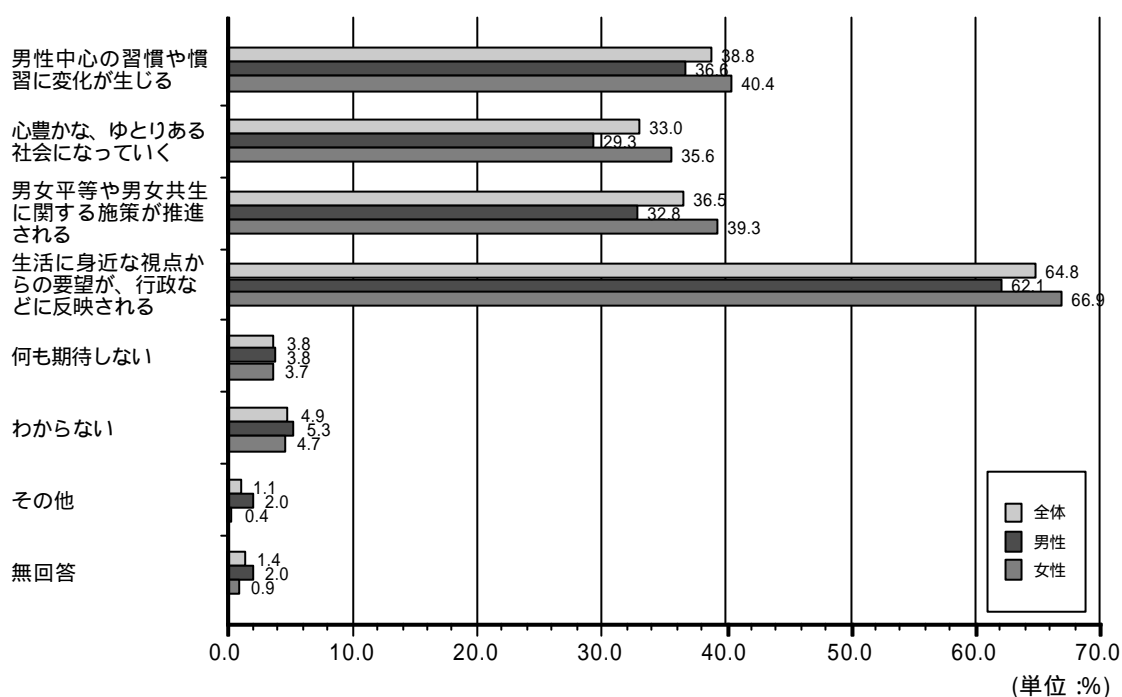
年齢別にみると、バラつきはあるものの、各年代での違いは小さい。そのなかで、「家族や周囲の理解や協力が得られない」で女性の30歳代から50歳代の割合の高さが目立ち、家庭生活と社会参画との狭間で苦慮している様子がうかがわれる。また、「男性優位・女性軽視の組織運営～」「女性の参画を重要であることを意識している人が少ない」で女性60歳代の割合が低く、逆に「女性の積極性が十分でない」で女性20歳代の割合が低い。このあたりに、女性のなかの年代による社会参画に対する意識の違いが見て取れる。「家事・育児・介護など主に女性が担っているため～」は女性は50歳代がやや低いものの、すべての年代の割合が高い。これに対し、男性では20歳代から40歳代の割合が突出している。現実には家事、育児の様子を目の当たりにし、女性の社会参画への困難さを感じ取っているようである。

6 - 3 女性の社会参画により期待することについて

問 22 あなたは、今後、政策決定の場などに女性の参画が増えていくことで、どんなことを期待しますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

女性の参画に期待することは、「生活に身近な視点からの要望が行政などに反映される」が6割以上の割合を示している。

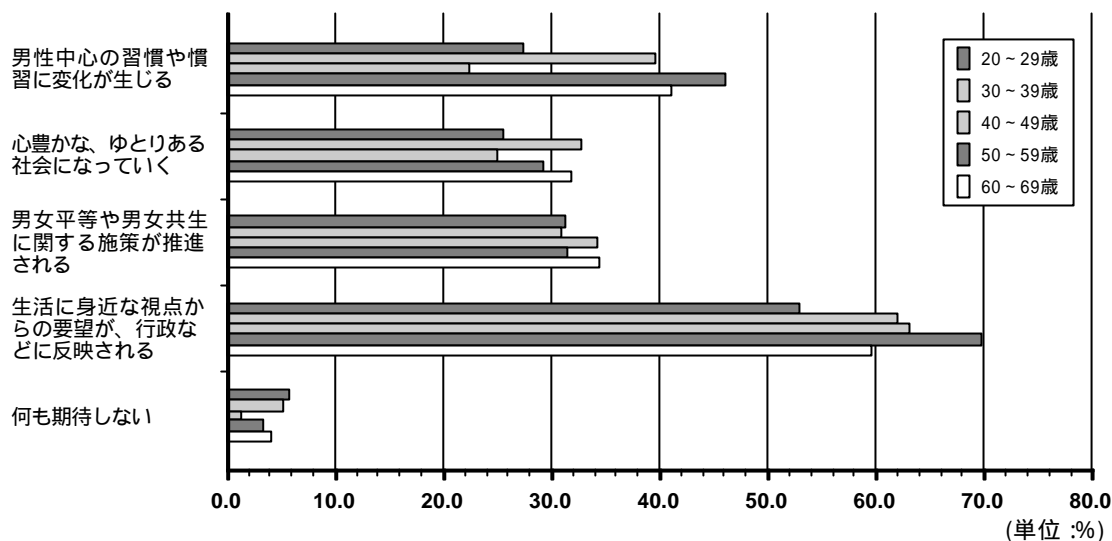
<全体>



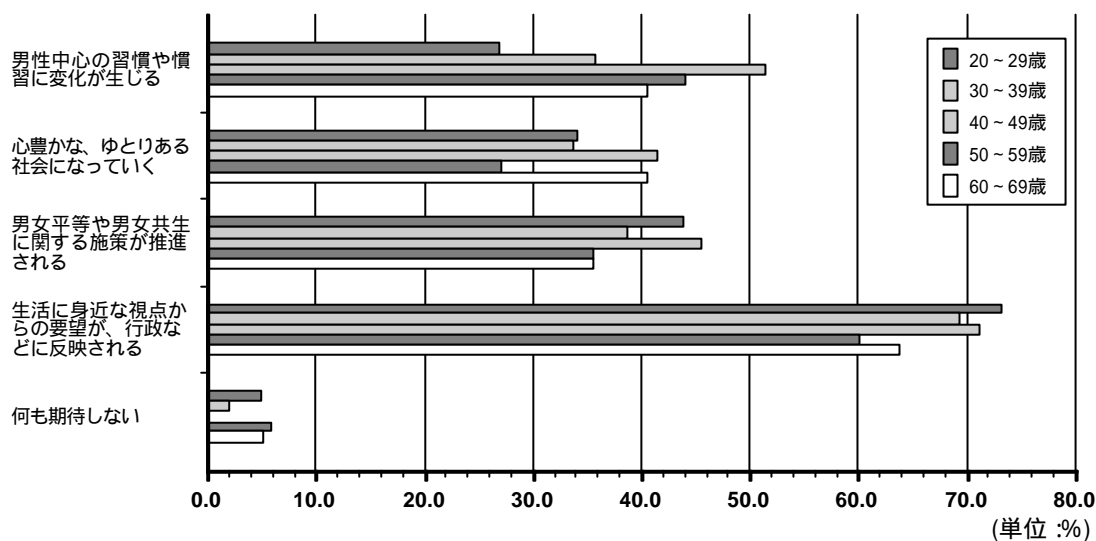
政策決定の場などへの女性の参画の増加に対し何を期待するかでは、「生活に身近な視点からの要望が、行政などに反映される」とした割合が64.8%と最も高い。次いで「男性中心の習慣や慣習に変化が生じる」(38.8%)、「男女平等や男女共生に関する施策が推進される」(36.5%)の順である。家事や育児、介護などの主な担い手となっている女性の立場からの意見の反映が多いに期待され、また男性中心、男性優遇の社会を変えることへの期待も大きい。

男女別にみると、男女間で大きな違いはないものの、いずれの項目も女性の方が割合が高い。女性自身の期待の高さがうかがわれる。

< 男性 年齢別 >



< 女性 年齢 >



年齢別にみると、男性では、バラつきはあるものの、各項目ともに年齢が高い方が割合が高い傾向がある。特に、20歳代、40歳代の割合の低さが目立つ。一方、女性では、逆に各項目における40歳代の割合の高さが目立つ。また、「生活に身近な視点からの要望が、行政などに反映される」において20歳代から40歳代の割合が高いことが、注目される。子育てや家事の主な担い手であることから、生活に身近な視点からの要望反映への期待が大きいようである。さらに、「男女平等や男女共生に関する施策が推進される」でも同じ年代の割合が高いが、社会での男女平等の実現などが期待されていると考えられる。

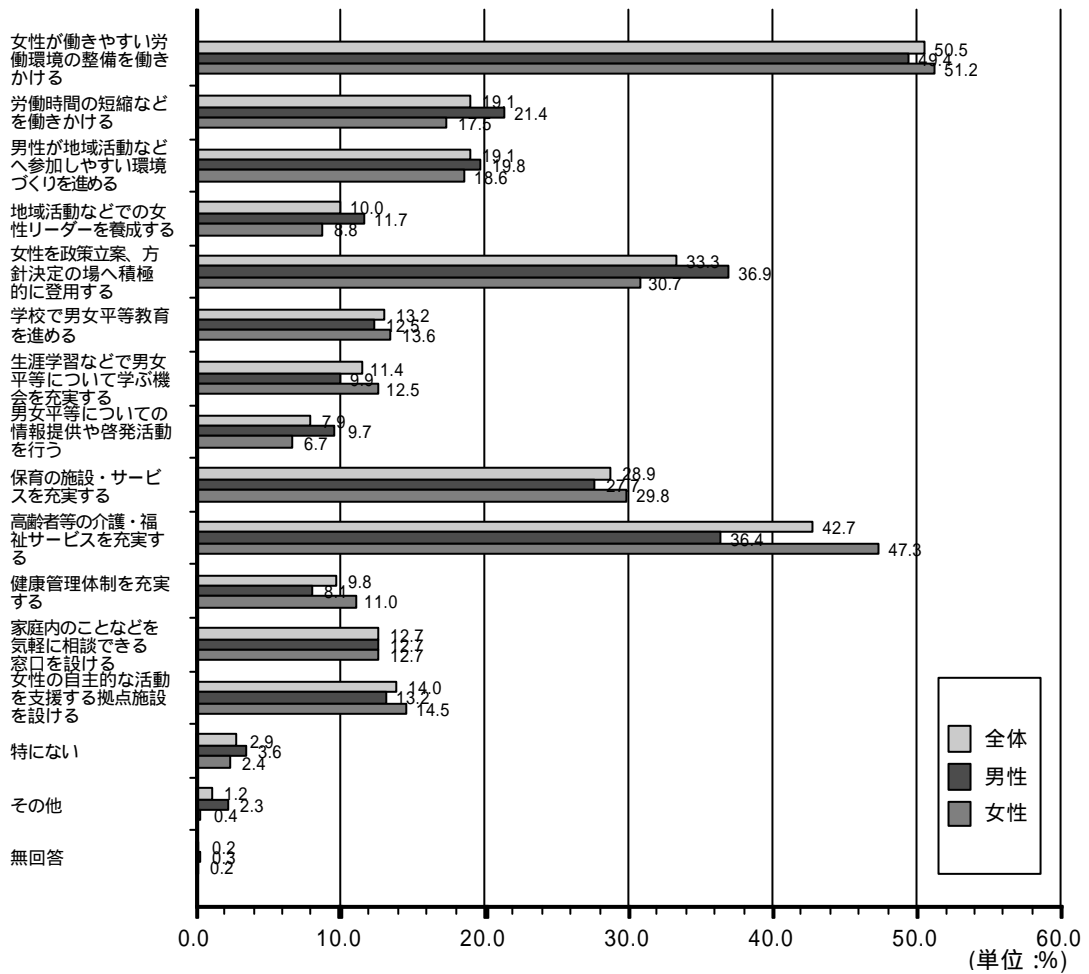
7 男女共生社会の実現について

7 - 1 男女共生社会実現のための市の重点施策について

問 23 あなたは、男女が共にいきいき暮らせる「男女共生社会の実現」をめざすために、今後、市ではどのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から特に重要だと思うものを3つ以内で選んでください。

「男女共生社会の実現」をめざすため、男女ともに、「女性が働きやすい労働環境の整備を働きかける」が高い割合を示している。

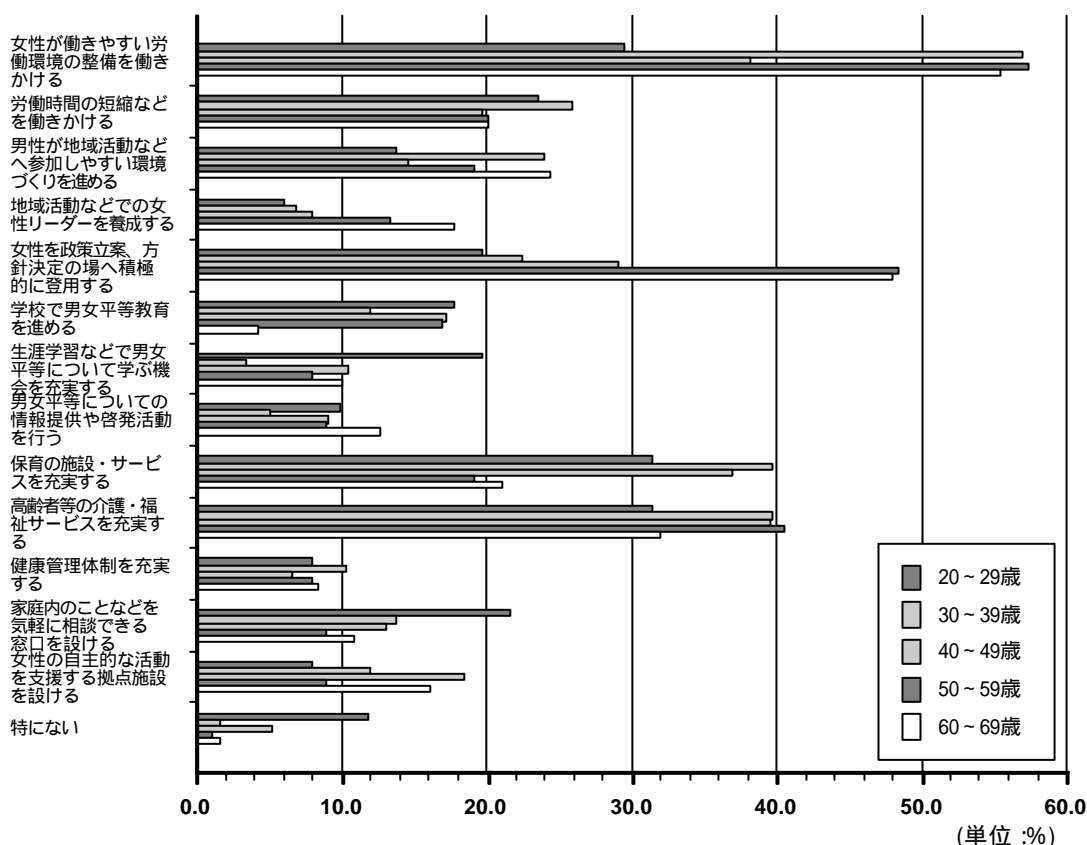
<全体>



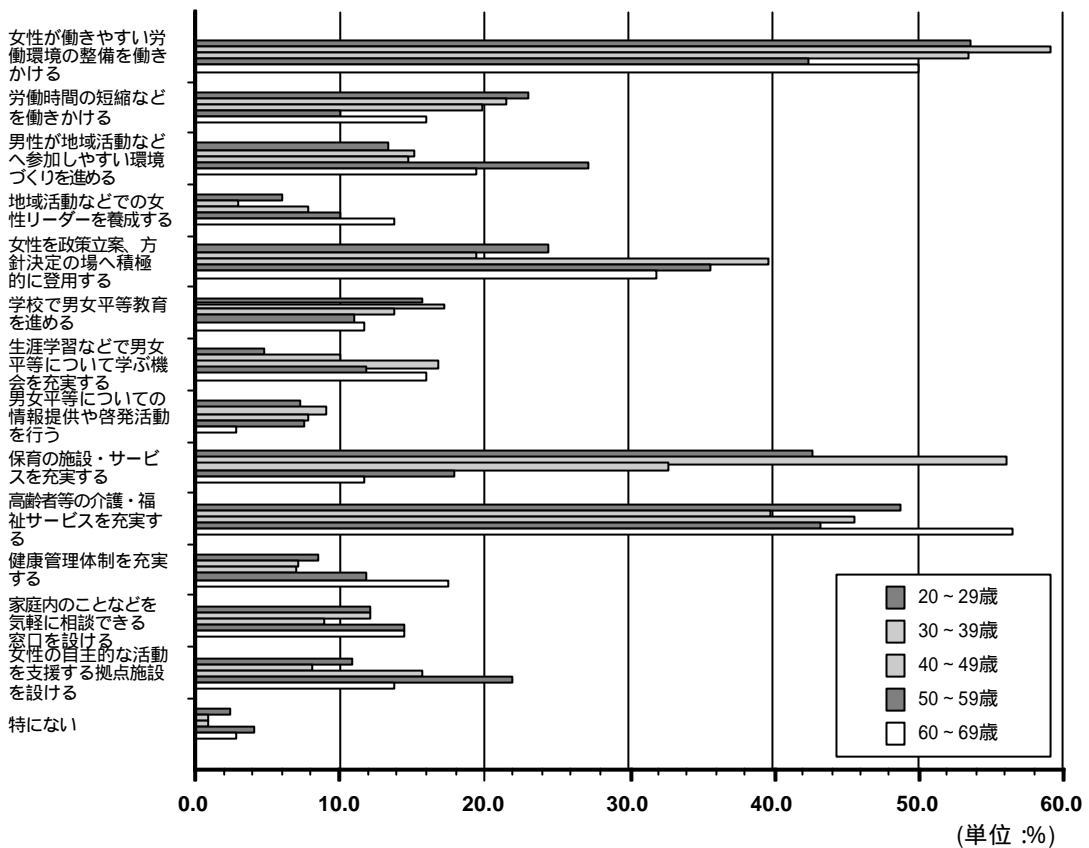
「男女共生社会の実現」をめざすために、今後、人間市が力を入れるべきことについては、「女性が働きやすい労働環境の整備を働きかける」とした割合が、50.5%で最も高い。次いで「高齢者等の介護・福祉サービスを充実する」(42.7%)、「女性を政策立案、方針決定の場へ積極的に登用する」(33.3%)、「保育の施設・サービスを充実する」(28.9%)の順である。

男女別にみると、「女性が働きやすい労働環境の整備を働きかける」は男女ともに最重要と位置づけられ、高い割合を示す。しかし、男女間で違いのある項目もある。男性は、「女性を政策立案、方針決定の場へ積極的に登用する」「労働時間の短縮などを働きかける」など、女性の社会参画を促すしくみづくりに関連する項目で、女性よりも割合が高い。これに対し、女性は「高齢者等の介護・福祉サービスを充実する」「保育の施設・サービスを充実する」で男性よりも割合が高く、女性が主な担い手となっている育児や介護など、身近な問題の解決策を望んでいるといえる。

< 男性 年齢別 >



< 女性 年齢別 >



年齢別にみると、男女ともに、「女性を政策立案、方針決定の場へ積極的に登用する」「地域活動などで女性リーダーを養成する」において、年齢が高いほど割合も高い。また、「保育の施設・サービスを充実する」では20歳代から40歳代、「高齢者等の介護・福祉サービスを充実する」では30歳代から50歳代といった年代の割合が高く、それぞれの項目に関連の深い年代で解決を求めているようである。さらに、「女性が働きやすい労働環境の整備を働きかける」では、男性は30歳代から60歳代、女性は20歳代から40歳代の割合が高い。働く女性と職場で女性と接する機会の多い男性の関心、要望が高いものと考えられる。

資料 1

自由記入意見のまとめ

本調査では、調査票の最後に自由記入欄を設けて、男女共生社会実現に向けての意見や、市に対しての要望を収集した。その結果、全回答者 931 人中、256 人の回答が得られた。

内容は、本調査の反映について、男女平等意識について、女性の参画等について、男性の社会生活について、地域活動について、教育について、相談について、就労・子育て・介護について、その他と多岐に渡っている。

これらの意見・要望のうち、代表的なもの 74 件を、基本的に原文のまま掲載した。掲載した 74 人の回答者の性別は、下表のとおりである。

分 類	男 性	女 性	計
本調査の反映について	6	7	13
男女平等意識について	6	5	11
女性の参画等について	7	3	10
男性の社会生活について	2	4	6
地域活動について	1	1	2
教育について	3	3	6
相談について	1	3	4
就労・子育て・介護について	6	14	20
その他	0	2	2
計	32	42	74

1. 本調査の反映について

- ・自分を省みるにも良い機会を与えてくれたアンケートでした。ひとつの意見ではありますが、何かが変わる土台になればと思いました。(女性、30歳代)
- ・家庭内暴力や職場でのセクハラ等、特殊なケースを除けば、女性は男性よりものびのびと生活していると思います。それは、平均寿命の長さにも端的に表れていると思います。社会的に男女平等といわれる事の大半は、女性側の職場や地域社会での前向きな意識の欠如にあると思います。受動的であり続けようとする女性の意識改革こそ、男女共生社会実現のための行政側の最も重要な施策の一つであると思います。このアンケートは、女性が被害者、男性が加害者のような立場で作られているが、これを基にして施策を作られると、すべて小手先の施策に成りかねないと思います。そうならないよう、立案にあたっては一層の努力をお願いします。(男性、50歳代)
- ・母となった今、よく市役所や市によるサークルを利用していますが、役所側から積極的な男女共生社会にしてほしいと思います。利用するたびに、どうしても上の方の意識が薄いのではと思っているのです。(女性、30歳代)
- ・結果発表を何かでしてください。(男性、60歳代)
- ・このアンケートの回答を積極的に反映されることを期待します。(男性、60歳代)
- ・今回のアンケートで男女の共生について考えさせられました。男女の特性を生かしつつ、親になつたら、ともかく子供のことを第一に考える生き方が大事なのかなと思いました。人生は自分のためと同時に、周囲の人のため、同時代・未来の人々のためにもあるという考え方が、どの世代にも必要なのだと思います。今後の市政に期待するとともに、協力していきたいと思います。(女性、40歳代)
- ・アンケートをいただき、ビックリいたしました。この様な企画、大変良いことと思います。皆が、人権を尊重される住み良い人間市を創ってください。(女性、50歳代)
- ・市民意識調査で終わらず、何ができるか、また、その先に何ができたのかを市報で報告してほしい。(女性、20歳代)
- ・このアンケートは、最初から女性が男性よりも差別されているという前提で作ってありおかしい。人間の生活には、男がやる持ち場、女がやる持ち場がある。目の前のことを捉えて男女が不平等という考え方を改めるべきだ。例えば、男はどちらかといえば力仕事ができる身体にできている。女性は繊細なことができる身体にでき

ている。何でもかんでも平等にしようという発想がおかしい。男女がそれぞれの持ち場があり、違った意味での平等があると思う。(男性、60歳代)

- ・「女のくせに」「女だから」という風習があります。行政がもっと本腰を入れていただかない限り、前進はないと思います。(女性、60歳代)
- ・法の整備も大切であるが、地方自治体の積極的な取組みで地方が先べんをつけるくらいの心づもりで基盤整備をされ、このアンケートが活かされる事を望みます。(男性、50歳代)
- ・女性職場の情報提供、保育所・学童等設備の充実、教育(男女共生)の徹底、税金優遇措置(共働き)の推進、男女共生社会の実現は、欧米諸国に比べ日本は大変遅れている。その一歩として、入間市が積極的に提案、推進されることこそ、大変良く思う。ぜひ、具体的な取組みに向け、企画、立案し、21世紀の自治体形成に貢献されることを望む。(男性、40歳代)
- ・このアンケートの中にたくさん出てきました、女性の社会への進出を入間市の市政に反映させて、今まで以上の男女平等社会を作ってほしいと願っています。(女性、40歳代)

2. 男女平等意識について

- ・すべてにおいて男女平等ということは無理だと思う。お互いに助け合えばよいのではないかと思います。(女性、20歳代)
- ・男女共生社会は、地域住民の協力なくしては成り立たない社会である。あまり共生をとねえるのではなく、自然な形で形成していくべきと考える。(男性、40歳代)
- ・「男女平等」と高々と掲げているうちは、本当の男女平等は有り得ないと思う。でも小さなころから「男らしく」だの「女らしく」だのと言われて育っているため、それからはずれたような個性的な人は変に見られるし、差別を受ける世の中ではうまくいくはずないと思う。理想は「男女平等」ではなく「個性尊重」だと思う。(男性、30歳代)
- ・レディースデイは何のため、平等ではない。法は女性の保護してばかり、青年から中年男性のほとんどは保護されない。これからは、ずっと女性が生活しやすくなると思うし、男性はどんどん肩身が狭い思いをしそうな感じがします。(男性、20歳代)

- ・法律面など、外見的には男女平等を訴えても、現在の社会では色々な場面でそれが実現されていないのが現状だと思います。多くの男性が実際にまだまだ男尊女卑という様な古い考えを持っていることも事実ではないでしょうか。女性が仕事を持ち、社会に出ることに理解を示さない男性も多くありません。そういった意識の改善がされることが、男女共生社会の実現に近づく第一歩だと思います。私の生まれ育ったこの入間市が、一日も早く男女共生社会を実現することを願います。(女性、20歳代)
- ・無理に男女共生社会を実現させるのではなく、現実にもマッチした男女共生社会づくりに努めてほしい。(男性、30歳代)
- ・私は男女共生社会の実現に対しては大変結構なことを願っております。ただ、女性が何にでも参加し、男性と同等には必ずしも思っておりません。それぞれの適性、個人の能力、個性等により、社会に役立ち参加できる環境が望ましいと思っております。(女性、60歳代)
- ・全てを男女平等に納めてしまう考え方は好ましくないと思います。男のできる事、女のできる事が必ずあります。同じにみるのは考えものです。(女性、50歳代)
- ・アンケートの内容から担当係の事情もあるだろうが、女性側に立っての質問には答えにくかったと感じました。長い歴史の中では確かに男尊時代しかなかったと思いますが、今は社会全体が平等へ向かって流れている時、男性だってそんな事は充分わかっている。しかし、勉強している子供に「もっと勉強なさい」と言えばヘソを曲げる。能力以上を求めれば反発する。今、改革しようとしている社会の能力(受け入れ態勢)が飽和状態であるとすれば、一度に改善されることは限られる。窓の露を拭きながら、徐々にやっていかないと、「女性だ、女性だ、そこを通しなさい」では逆効果だ。そんな一方的な考え方では、女尊時代となって不平等になつてしまう。全くかんがえないで運動しているとは思いますが、一連の流れを見るに少し強引すぎはしないかと心配です。(男性、30歳代)
- ・男性だからとか、女性だからというのではなく、一人一人として性別に関係ない様になつていけばよいのかなと思います。(男性、20歳代)
- ・質問の内容を見ていて、この国における男女差別の実際を再認識させられてため息がでました。次の質問が来るときは、もう少し全体の認識が違ってきているといいですね。(女性、50歳代)

3. 女性の参画等について

- ・ 女性の場合、どうしても「出産・子育て」をせざるを得ない時期があり、体力的にも男性と同じ社会生活をしにくいものがある等、全く平等になり得ないところもある。ここを男（夫）が補って、いかにバランス良く生活していくかだと思ふ。市として何かをやればすぐに解決するものではなく、もう少し女性の意見収集等、女性陣がどんな方向に行きたいのか等、議論してほしい。（男性、50 歳代）
- ・ 能力のある女性を積極的に活用できる周囲の環境づくりが重要である。（男性、60 歳代）
- ・ 女性を重要なポストにどんどん就けてほしい。（男性、50 歳代）
- ・ 女性も責任感のある積極的な姿勢を示し、行動ができるような人格に市で指導、教育する環境を整えるべきではないでしょうか？（男性、40 歳代）
- ・ 女性の働く環境は、昔に比べて間違いに良くなっていると思う。しかし、問題は結婚後の女性の立場が少しも良くなつていないということ。女性の能力を活かせる仕事、生き方ができるよう、市でバックアップを必要とするが、実現できる政策立案などへの女性の登用がまず望まれる。（女性、60 歳代）
- ・ はっきり言って、今すぐにどうにかなることではないと思います。でも、何とかしなければ、何も変わりません。長い年月をかけてできた古い体質を今の世の中にあつた新しい物に近づけるよう、頑張ってください。（女性、30 歳代）
- ・ 市役所ロビーの受付や談話受付係に男性を配置することも、行政側からのアピールになるような気がします。過剰な政策は男女平等という意識の妨げになることもあつると思います。（男性、20 歳代）
- ・ 女性を現場に登用すれば、女性のユニークさが社会を変えて行くと思う。そして、女性が行政に関わっている時間が増えれば、保育行政の貧困や託児行政の貧困を身をもって体験できるし、家庭と仕事を両立するための施策についても色々アイデアが出てくると思う。男が頭で考えているより、女性を実際に登用して現場を変えていく方が早く実現するし、市政もどんどん良くなることは間違いない。まず、助役を女性に。「いるま男女共生プラン」について知りませんでした。どうぞ頑張って、大胆に進めて下さい。（男性、50 歳代）
- ・ 「共生」についての地域住民の意識化が大事だと思う。これを促すために、まず自治体の核でもある市役所の組織、ポジション編成で、女性管理職や幹部登用を今まで以上に積極的に進めてはいかかが。女性がリーダーとして活躍している姿は、各

家庭や地域社会にも反映し、「共生」「同等」「女性尊重」「自覚」「責任」等の認識を深めていくことにつながるのではないのでしょうか。(男性、50歳代)

- ・自分も含めて女性の場合、細かな目先の事に注意を払い、将来的、社会的な視野を見通す力が弱いように思います。リーダー的な役割を担うためにも、人材を育てる学習機会を多く設け充実してほしいです。(女性、50歳代)

4. 男性の社会生活について

- ・市政レベルでは、啓蒙活動(資料配布、小冊子、広報など)を期待します。あとは、子育てバックアップですね。社会全体では、父親が早く家に帰れる状態にならないと、色々難しいと思います。(男性、40歳代)
- ・男性が仕事だけでなく、家庭生活についても、女性の重要性(無償で行う家事、育児、介護など)について理解を持ってもらうように啓蒙してほしい。金銭的なことでなく、ねぎらいの言葉“ありがとう”“お疲れ様”など、ちょっとした気遣いをしてほしい。(女性、20歳代)
- ・公務員を除けば、まだまだ労働時間が長く、休日も週一さえ取れないところが多い。会社の社長たちに、男性も育児を、家事を、地域活動をという意識を持ってもらうためにはどうしたらいいかを考えていかなければならない。男性が家庭で過ごす時間が多くなれば、自然と地域にも入っていけると思う。(女性、50歳代)
- ・育児・介護が現在、主に女性が担っているが、社会も女性を支援する活動、施設が必要と思う。本当の「男女共生社会」のために、男性の意識改革がもっと必要と思う。家庭の中だけでなく、地域活動等に参加しやすい環境づくりが必要と思う。男女差なく、男性が育児・介護にもっと協力してほしいと思うからです。(女性、40歳代)
- ・子育てに費やす時間が女性には多く、男性が子育てには時間が少ない。一般的には、男性労働の方が給与面でも多いので、やはり女性が子育て時には働く機会が少ない。(男性、40歳代)
- ・地域活動には、女性の参加者が多いが、男性が参加しやすい活動を設けてほしい。(女性、50歳代)

5. 地域活動について

- ・市内、自治活動が活発に実施されていることは良いと思うが、その背景には、昔からの地区の「ならわし」的なものが多く、それが慣習的になっており、女性が入りづらくなっているのでは。必要の有無を再確認し、活動自体の刷新が不可欠であ

る。これは、地域風習だけでなく、民事、行政のすべてに通じているのではないかと思う。(男性、30 歳代)

- ・男女共生社会という考えは、素晴らしいことだと思います。でも、法律や政策で決めたとしても、なかなか難しいでしょう。個人の意識を改革しなくては、せっかくの良案もだいなしです。私の地区は、地元の方が多いいせいか、会合に出席しても、女性は机の前に座れず、壁に寄りかかって聞いているだけです。こういう所からこそ、意識改革をし、女性だから、男性だからというのではなく、一人の人間として住み良い市となる事を期待しています。(女性、30 歳代)

6 . 教育について

- ・組織は人なりです。労働環境などの整備も進めなければなりません、男も女も、様々なものに興味を持ち、創造性、感性豊かな人となるよう、日々努力しなければなりません。市民の目線で、バランスのとれた男女の教育を。(男性、60 歳代)
- ・もっと家庭を重視する主婦を育てるよう考えるべきだ。女性が社会へ進出するのも良いが、子供をきちんと養育する義務感を持たせるべきだ。(男性、20 歳代)
- ・世の中には男と女しかいない。過去の歴史を見ても決して平等とは言えない部分が多い。しかし、それぞれの特性を認め合うことが大事で、その上での対話が必要だと思う。このプランの推進も大事だが、人間性中心の教育政策を柱とする行政であってほしい。男女問わず、共生社会に大切なことは、人間性であると私は思う。また、これからの時代は女性が活躍する時代に間違いなく流れていくと思う。(男性、40 歳代)
- ・将来を見据えたもので施策を行ってほしい。PTA 会長への女性の登用化を各学校へ助言、小中学校での混合名簿化、家庭科の男女必修。男女平等の啓発活動は、これからも休むことなく、ずっと続けていってほしい。ただし、観念的な念仏におちいらず、小さなことでも具体的な施策を行ってほしい。(女性、40 歳代)
- ・男性、女性という考え方ではなく、人間として心豊かに生活できる様な社会にしてほしいと思います。また、子育ても父母共々助け合い子供の成長をみるのも楽しみと考えれば思い出も多くなると思います。(女性、50 歳代)
- ・男女共生社会の実現の第一歩はやはり家庭でのしつけからだと思います。女は女らしく、男は男らしく育てた上で、小学校からの教育で本当の意味での男女平等を教えていただきたいものです。(女性、40 歳代)

7. 相談について

- ・私は保育士の資格を持っていますが、現在パートとして働いています。就職できないのが現状で、自分の能力を活かせる職場に勤めたいと思っています。職安だけでなく、相談できる所など、就職したい人のための窓口を作っていただけたら嬉しいです。(女性、20 歳代)
- ・女性がもっと楽しく子育てができるよう、親同士の交流や子供の遊び場、公園、子育て相談できるようにしてほしい。(女性、50 歳代)
- ・市役所に女性相談コーナーを設けてほしい。男性の暴力やセクハラで悩んでいる女性は多いと思います。(女性、40 歳代)
- ・ぜひ家庭内のことなどを気軽に相談できる窓口を各町単位で設けてもらいたい。(男性、40 歳代)

8. 就労・子育て・介護について

- ・女性が出産しても働けるよう、保育施設の充実を図るとともに、各職場に保育施設の設置を働きかけてほしい。補助金制度を検討してほしい。(男性、60 歳代)
- ・男性だから、女性だからと線を引くのではなく、ひとりの人間として生活しやすい社会にしたい。そして、個人の事ではあるが、社会で子供を育てる環境を作っていくべきだと思う。公立の保育所の充実、24 時間対応病院などが増えるとよいと思う。(女性、20 歳代)
- ・学童保育の充実には感謝しております。ただ、共働きの児童に対し、学校の方の理解が得られればと思います。本当に細かいことで恐縮ですが、共働きで、授業参観の日程と仕事の日程がどうしても折り合わなく、小学校低学年の保護者会を欠席したところ、保護者会での取り決め事項の連絡が一切なく、子供が不自由を覚えたことがありました。直接市政とは関係ありませんが、そういう本当に細かいことが、働くことを断念するきっかけになり、子供の気持ち、精神面の配慮だけはお願ひしたく思います。(女性、30 歳代)
- ・人間市には児童館が一つしかなく、雨の日など、すごく混んでいて、子供があまり遊べないので、もう少し広い児童館があればよいと思う。あと、市民プールも小さい子供用のプールを充実してほしい。休日診療所など、今の時点でなく、休祭日、夜間など困っています。どうにかならないでしょうか？(女性、20 歳代)
- ・人間市役所にこの前行って思ったことがあります。トイレに子供(ベビー)ベッドを置いてほしいです。おむつを替える時、困りました。(女性、30 歳代)

- ・子育てをしながら働ける環境を作してほしい。どうしても、女性よりも男性の方が収入が多いため、収入の少ない方が仕事をできず、家事、育児をしていると思う。少しでも、家庭の収入を増やしたいけど、保育園の料金が高いので、パートにも出られない。子育てや家事は、男の方には分からないかもしれないけど、すごくストレスがたまる。仕事をしながら子育てというのは、確かに体力的には大変だと思うが、精神的にはリフレッシュできる面があって良いと思う。いろいろ選択できる社会にしてもらいたい。(女性、20歳代)
- ・人間市には保育園が少なく、働くことができない。彩の森公園で子供が水遊びをするが、あまりに水が汚い。道路に街灯が少なく、女性の一人歩きは危険。学童をもっと増やしてほしい。市町村が、もっと働く女性をバックアップしてほしい。少子化なのだから。お願いします。(女性、20歳代)
- ・子供を持つ女性が安心して働ける様、0歳児の保育施設や夜間保育についてもっと充実させてほしい。そして、一般にもその内容を知らせて、仕事を探している女性が安心して仕事につける様にしてほしい。(女性、30歳代)
- ・子育てが終わってからも働ける場ほもっとふやしてほしい。(女性、50歳代)
- ・子供の保育施設の増加と保育料を安くし、できるだけ職場に保育施設を設けることが女性の社会進出に役立つと思う。(男性、20歳代)
- ・保育所、学校関係の施設・サービスの充実をしてほしい。働く女性のための施設を設けてほしい。(女性、30歳代)
- ・保育の充実(時間延長、休日保育)。インターネットのさらなる充実により、情報開示・交換の場を多く。市民サービスの向上(住民票発行などは年中無休で行うべき)。(男性、30歳代)
- ・少子化は、国際的にみても深刻なレベルなのに、国は老人の方に目をむけているばかり。一日も早く少子化に対して対策を立てないと、未来の日本は存在すらあやぶまれてしまうことに気づいていない。これは、働く女性に対するケアが足りないことによるもので、個人のレベルでは限界があり、結果少子化に拍車がかかってしまう。市のレベルでできることを早くやって日本の国を支える力(子供)を大切に育てる必要性を認識すべきだと思う。(女性、40歳代)
- ・男女共生にあまり関係ないかもしれませんが、車いす、ベビーカーでも通行しやすい道(バリアフリー)、歩行者が安全に歩ける道路などの整備をお願いしたいと思います。(女性、30歳代)

- ・女性が安心して働けるためにという点から、0歳児から預けられる育児室ができればと思います。(女性、40歳代)
- ・現実に女性が社会に出て働く(再就職)場合に、家事・育児との両立を考えると、柔軟性がある労働時間が必要になると思います。(男性、30歳代)
- ・市はなによりも企業に対して子育てによる産休の奨励や、男性の育児休業といった制度的な地盤を固めることを強く望む。どんな立派な思想があっても、財政状況が確立していなければ机上の空論となるからである。(男性、20歳代)
- ・私自身は保育園という女性職場にいるので男性との立場の格差はほとんど感じることはないのですが、社会のシステムの中では労働者への労働条件の改善は強く望みます。労働時間の短縮と職員の配置基準をもっと改善してほしいと切に願っています。(女性、40歳代)
- ・介護、子育てする主婦に働きやすい環境づくりをしてほしいと思っています。(女性、50歳代)
- ・保育サービスの実態は、母親が通常の仕事(9~17時半)に従事できない範囲でのもが多い。例えば、東京都内に勤務し、17時半まで仕事し、園に迎えに行っても19時頃になる。男性と同じように働こうとすれば、残業もある程度見込まなければならないし、とても今のようなサービス形態では女性の社会活動は制限されざるを得ない。現代社会の実態に則したサービスの実態を望みます。(男性、30歳代)

9. その他

- ・私はテニスをしているのですが、所沢市や狭山市などの市民大会は女子は平日行うのですが、入間市の場合、日曜日なので働く女性も参加できるのでとてもありがたいと思っています。今後もこの方針は変えないで頂きたいと思います。(女性、20歳代)
- ・介護や今話題になっている助産士は、私がやってもらう立場だったら女性にやってもらいたいと思います。(女性、30歳代)

資料 2 調査票

あなたの声をお聴かせください

～ 「男女共生社会に向けての市民意識調査」へのご協力をお願い ～

時下 ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。皆様には、日頃より市政に対しご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

入間市では、女性と男性が共にいきいき暮らせる「男女共生社会」の実現をめざし策定した「いるま男女共生プラン」に基づき、さまざまな取り組みを進めています。

その一環として、このたび、市内にお住まいの20歳以上の方2,000人を無作為に選ばせていただき、「男女共生社会に向けての市民意識調査」を実施することとなりました。

この調査は、「いるま男女共生プラン」推進のための基礎資料にするとともに、今後の市のさまざまな取り組みに反映させていくことを目的としています。

なお、お寄せいただいた回答は、統計的な数値としてまとめますので、お答えしていただいた皆様にご迷惑をおかけすることはありません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成12年7月

入間市長 木下 博

ご記入にあたってのお願い

- 1 回答は、あて名のご本人がお答えください。
- 2 問ごとにあてはまる回答の番号を選び、回答用紙にその番号を黒の鉛筆、またはボールペンでご記入ください。
- 3 回答の中で「その他」の番号を選んだときは、その内容を回答用紙の——その他欄へ具体的にご記入ください。
- 4 お答えは、「1つだけ」「3つ以内」など問ごとに回答の数が示されていますので、あなたの考えに最も近いと思われる番号を、示された数の範囲内でお選びください。
- 5 問14については、回答いただく方が限られておりますので、問の上についている 印の注意書きをお読みいただき、ご記入ください。

回答用紙にご記入いただきましたら、恐縮ですが同封の返信用封筒に入れ7月24日(月)までにご返送ください。

この調査についてのお問い合わせは、下記までをお願いいたします。

入間市企画部企画課(女性政策担当)

〒358-8511 入間市豊岡1-16-1

電話 964-1111(内線3139)

調査票

【あてはまる番号を選んで、同封の回答用紙にご記入ください】

はじめに、あなたとあなたのご家族のことについておたずねします。

- F1 あなたの性別をお聞かせください。(回答は1つだけ)
1 男性 2 女性
- F2 あなたの年齢は次のどれにあてはまりますか。(回答は1つだけ)
1 20～29歳 2 30～39歳 3 40～49歳
4 50～59歳 5 60～69歳
- F3 あなたは、入間市にお住まいになって何年になりますか。
(回答は1つだけ)
1 5年未満 2 5年～10年未満
3 10年～20年未満 4 20年～30年未満 5 30年以上
- F4 あなたと同居のご家族の構成は、次のどれにあてはまりますか。
(回答は1つだけ)
1 ひとり暮らし 2 夫婦のみ
3 親(自分)と未婚の子ども 4 親と未婚の子ども(自分)
5 親(自分)と子ども夫婦 6 親と子ども(自分)夫婦
7 その他()
- F5 あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。(回答は1つだけ)
1 自由業・自営業・家族従事者 2 勤め人(正社員・正職員)
3 勤め人(臨時・パート・アルバイト) 4 専業主婦・主夫
5 学生 6 無職 7 その他()

男女平等についての考え方や行動についておたずねします。

- 問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこのよう
な考え方をどのように思いますか。次の中からあてはまる番号を1つだけ
選んでください。(回答は1つだけ)
1 そのとおりだと思う
2 どちらかといえばそう思う
3 どちらかといえばそう思わない
4 そうは思わない
5 その他()

問5 仕事と家庭生活のバランスについて、男性・女性の生き方としてあなたが望ましいと思うのはどのような生き方でしょうか。男性の生き方・女性の生き方それぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んでください。

(回答はそれぞれ1つずつ)

- 1 家庭生活よりも、「仕事に専念」する
- 2 家庭生活にも携わるが、「あくまで仕事を優先する」する
- 3 家庭生活と仕事を「同じように両立」させる
- 4 仕事にも携わるが、「あくまで家庭生活を優先」する
- 5 仕事よりも、「家庭生活に専念」する
- 6 わからない

子育てなどについておたずねします。

問6 あなたの家庭では、子育ては主にどなたが中心となって行っていますか。あてはまる番号を1つだけ選んでください。(回答は1つだけ)

- 1 子どもの母親
- 2 子どもの父親
- 3 子どもの祖母
- 4 子どもの祖父
- 5 子どもはいない
- 6 その他()

問7 あなたは、子育てに対する行政の支援としてどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたが特に重要だと思う番号を2つ以内で選んでください。(回答は2つ以内)

- 1 子育て教室や講座を開く
- 2 子育ての悩みを相談できる場所を設ける
- 3 親同士の交流や仲間づくりの場や機会を提供する
- 4 子どもの遊び場を提供する
- 5 子ども連れでも利用しやすい建物や施設を整備する
- 6 一時的に子どもを預かってくれるようなシステムを整備する
- 7 保育所や学童保育を充実する
- 8 子育てについての情報を提供する
- 9 地域で子育てを支援する意識をつくる
- 10 特に必要ない
- 11 その他()

問8 現在の法律では、男性も育児休業を女性と同様に取得できるようになっていますが、男性の取得について、あなたはどのように思いますか。次の中からあてはまる番号を1つだけ選んでください。(回答は1つだけ)

- 1 取得すべきだと思う
- 2 どちらかといえば取得した方がよいと思う
- 3 どちらかといえば取得しない方がよいと思う
- 4 取得すべきではないと思う
- 5 わからない
- 6 その他()

問9 あなたは、お子さんにどのような生き方をしてほしいと思いますか。男の子・女の子のそれぞれについて、あてはまる番号を2つ以内で選んでください。お子さんがいない方も、いると仮定してお答えください。

(回答はそれぞれ2つ以内)

- 1 社会的な地位や名声を得る
- 2 経済的に豊かな生活をする
- 3 家族や周囲の人たちと仲良く暮らす
- 4 社会の役に立つことをする
- 5 本人の個性や能力を生かした生活をする
- 6 本人の意思にまかせる
- 7 わからない
- 8 その他()

介護についておたずねします。

問10 あなたはこれまでに介護をしたことがありますか。あるいは、現在していますか。次の中からあてはまる番号をすべて選んでください。

(回答はあてはまるものすべて)

- 1 自分の親を介護した(している)
- 2 配偶者の親を介護した(している)
- 3 配偶者を介護した(している)
- 4 自分の子どもを介護した(している)
- 5 介護をしたことはない
- 6 その他()

- 3 女性は同期・同年齢で入社した男性よりも昇進・昇格が遅い
- 4 女性は同期・同年齢で入社した男性よりも賃金が低い
- 5 女性は同じポストの男性より教育・研修の機会が少ない
- 6 女性は結婚や出産で退職するという習慣がある
- 7 中高年の女性に退職を勧奨するような雰囲気がある
- 8 女性を幹部職員に登用しない
- 9 特にない
- 10 その他()

ここからは、すべての方におたずねします。

問15 女性が働きやすい環境をつくるうえで、あなたは、今後どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたが特に重要だと思う番号を3つ以内で選んでください。(回答は3つ以内)

- 1 労働時間の短縮やフレックスタイム制(自由勤務時間制)の導入を進める
- 2 職務内容や昇進・昇格などで男女平等を進める
- 3 セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)のない職場づくりを進める
- 4 育児休業制度や介護休業制度の定着を進める
- 5 再雇用制度を促進する
- 6 男性も家事や地域活動などを分担する
- 7 女性が働くことへの理解を進める
- 8 保育所や学童保育などの子育て環境の充実を図る
- 9 求人情報の提供や女性が働ける新しい職場、職域の開発を進める
- 10 再就職のための講座や技能訓練などを充実する
- 11 特に必要ない
- 12 その他()

問16 あなたは、現在、どのような地域活動をしていますか。次の中からあてはまる番号をすべて選んでください。(回答はあてはまるものすべて)

- 1 自治会などの活動
- 2 婦人会・青年会・老人会などの活動
- 3 PTA・子ども会などの活動
- 4 福祉に関する活動
- 5 環境保全・リサイクルなどに関する活動
- 6 消費生活に関する活動
- 7 国際交流・協力に関する活動
- 8 趣味・学習・スポーツに関する活動
- 9 特に活動はしていない
- 10 その他()

女性の人権や悩みの相談などについておたずねします。

- 問17 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことですか。次の中からあてはまる番号をすべて選んでください。
(回答はあてはまるものすべて)
- 1 売春・買春・女性が働く風俗営業
 - 2 家庭内での夫から妻への暴力(酒に酔って殴るなど)
 - 3 職場などでのセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)
 - 4 女性のヌード写真などを掲載した雑誌など
 - 5 女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など
 - 6 女性の容ぼうなどを競うミス・コンテスト
 - 7 「女流」「女史」のように女性だけに用いられる言葉
 - 8 女性に対するストーカー(つきまとい行為)
 - 9 痴漢行為
 - 10 特にない
 - 11 その他()
- 問18 あなたはこれまでに、配偶者やパートナーなどから次のようなことをされたことがありますか。あてはまる番号をすべて選んでください。
(回答はあてはまるものすべて)
- 1 あなたが何を言っても無視をする
 - 2 あなたの交友関係や電話などを細かく監視する
 - 3 あなたの大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする
 - 4 あなたに「だれのおかげで、食べられるんだ」などと言う
 - 5 あなたに身体を傷つける可能性のある物を投げつける
 - 6 あなたを蹴ったり、かんだり、殴ったりする
 - 7 あなたが見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌などを見せる
 - 8 おどしや暴力などによって、意に反して性的な行為を強要する
 - 9 特にない
 - 10 その他()
- 問19 あなたは配偶者やパートナーなどからの暴力(言葉による暴力等も含む)を受けたことについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまる番号をすべて選んでください。
(回答はあてはまるものすべて)
- 1 家族に相談した
 - 2 友人・知人に相談した
 - 3 医師・カウンセラーに相談した
 - 4 弁護士に相談した

- 5 公的な相談機関に相談した
- 6 相談しなかった
- 7 暴力を受けたことがない
- 8 その他()

女性の社会参画についておたずねします。

問20 あなたは、政策の企画・立案や方針決定の過程で女性の意見をもっと反映する必要があると思いますか。次の中からあてはまる番号を1つだけ選んでください。(回答は1つだけ)

- 1 必要だと思う
- 2 どちらかといえば必要だと思う
- 3 どちらかといえば必要ないと思う
- 4 必要ないと思う
- 5 わからない

問21 あなたは、「リーダー」「～長」という立場や、政策の企画・立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。次の中からあてはまる番号をすべて選んでください。

(回答はあてはまるものすべて)

- 1 家庭、職場、地域での重要な役割を男性が務める習慣になっている
- 2 男性優位・女性軽視の組織運営になっている
- 3 家事・育児・介護などを主に女性が担っているため、役職などを務めることは困難である
- 4 家族や周囲の理解や協力が得られない
- 5 子どもの頃から、女性にはリーダーとなる訓練の機会が少ない
- 6 女性の活動を支援するネットワークが不足している
- 7 女性側の積極性が十分でない
- 8 女性の参画が大切であることを意識している人が少ない
- 9 わからない
- 10 その他()

問22 あなたは、今後、政策決定の場などに女性の参画が増えていくことで、どんなことに期待しますか。次の中からあてはまる番号をすべて選んでください。(回答はあてはまるものすべて)

- 1 男性中心の習慣や慣習に変化が生じる
- 2 心豊かな、ゆとりのある社会になっていく

- 3 男女平等や男女共生に関する施策が推進される
- 4 生活に身近な視点からの要望が、行政などに反映される
- 5 何も期待しない
- 6 わからない
- 7 その他()

男女共生社会の実現のための施策についておたずねします。

問 23 あなたは、男女が共にいきいき暮らせる「男女共生社会の実現」をめざすために、今後、市ではどのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から特に重要だと思う番号を3つ以内で選んでください。
(回答は3つ以内)

- 1 女性が働きやすい労働環境の整備を働きかける
- 2 労働時間の短縮などを働きかける
- 3 男性が地域活動などへ参加しやすい環境づくりを進める
- 4 地域活動などでの女性リーダーを養成する
- 5 女性を政策立案、方針決定の場へ積極的に登用する
- 6 学校で男女平等教育を進める
- 7 生涯学習などで男女平等について学ぶ機会を充実する
- 8 男女平等についての情報提供や啓発活動を行う
- 9 保育の施設・サービスを充実する
- 10 高齢者等の介護・福祉サービスを充実する
- 11 健康管理体制を充実する
- 12 家庭内のことなどを気軽に相談できる窓口を設ける
- 13 女性の自主的な活動を支援する拠点施設を設ける
- 14 特にない
- 15 その他()

最後に、男女共生社会の実現をめざすために、市に対してのご要望やご意見などがありましたら、回答用紙にご記入ください

ご記入が済みましたら、誠にお手数ですが、回答用紙を同封の返信用封筒に入れ、7月24日(月)までにご返送いただきますよう、お願いいたします。
ご協力ありがとうございました

男女共生社会に向けての市民意識調査

回答用紙

あなたのことについて

F		F		F		F		そ の 他		F		そ の 他	
1		2		3		4				5			

男女平等について

問1	そ の 他		問2							
			ア	イ	ウ	エ	オ	カ		
問3						問4	そ の 他		問5	
ア	イ	ウ	エ	オ	カ			男性	女性	

子育てなどについて

問6	そ の 他		問7		そ の 他		問8	そ の 他	
問9			そ の 他			そ の 他			
男の子	女の子								

介護について

問10	そ の 他		問11	そ の 他		問12	そ の 他	

問13以降の回答欄は、裏面です。

仕事や地域活動について

問 13	そ の 他		問 14	そ の 他	
問 15	そ の 他		問 16	そ の 他	

女性の人権や悩みの相談などについて

問 17	そ の 他	
問 18	そ の 他	
問 19	そ の 他	

女性の社会参画について

問 20	問 21	そ の 他	問 22	そ の 他

男女共生社会の実現のための施策について

問 23	そ の 他

市に対してのご要望やご意見などをご記入ください。

--